



令和5年度文部科学省
新時代に対応した高等学校改革推進事業
(普通科改革支援事業)
実施報告書



GO BEYOND

超えてゆけ！

滋賀県立伊香高等学校

巻頭言

滋賀県立伊香高等学校 校長 大森 文子

本校は滋賀県の最北に位置し、地域の学校として127年の歴史を紡いでまいりました。代々本校で受け継がれている「三萬一心」という言葉は、旧伊香郡民三万人が心を一にして学校建設のために土功（土木工事）の奉仕作業にあたったこと、本校が地域の熱い想いで創設され、いつの時代も地域の方々に支えられてきたことを表しています。

かつては普通科と農業科を併設し1学年9クラスの大規模校として活気のあった本校も、滋賀県北部地域の人口減少と過疎化に伴い、現在は普通科3クラスの小規模校となっています。そのような中、令和3年度に地元有志の方々によって長浜市北部地区県立高校魅力化検討委員会が組織され、本校の今後の在り方と地域の未来について議論を重ねられ、提案書が県知事へ提出されました。そして、令和4年度からは滋賀県立高等学校魅力化推進事業地域連携の実践モデル校として、地域連携コーディネーターとともに本格的に高校魅力化に取り組み始めました。また地元長浜市からは、高校魅力化をミッションとした地域おこし協力隊員を配置していただきました。今年度（令和5年度）は、この文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」の指定を受け、地域と連携・協働しながら学校改革・新学科設置に向けた取組を進めています。この間、多くの方々にご支援とご協力をいただき取組を進めることができましたことに、心から感謝申し上げます。

本校では「Go Beyond～超えてゆけ～」を合言葉に、伊香高校と地域がともに未来を創ることを活動の目標と設定し、生徒・先生・地域がいきいきする“三方良し”の実現を目指しています。森・川・里・湖が水系でつながる滋賀県北部ならではの学び、地域の専門家や地域と連携した学びを創出するべく、今年度は様々な先行実施授業を行いました。これまでも地域とのつながりはありましたが、地域をフィールドにして、地域の方と協働して授業を行うなかで、生徒たちがいきいきと活動し、また地域の方々も喜んでくださっている様子を目の当たりにし、本当の意味での地域連携、開かれた学校の姿を見出すことができたと思っています。また、コンソーシアム設立にあたって、各地域づくり協議会等にご説明とお願いに伺うと、どの団体においても前向きなご回答をいただくことができ、大変心強く感じました。事業1年目の研究・実践は試行錯誤の連続で、まだ十分なものになっていませんが、今後はこの取組が組織的・体系的に、持続可能性を持って行えるように、そして何よりも生徒たちがいきいきと学び、大きく成長していけるように推進していきたいと考えております。

最後になりましたが、本事業の推進にあたり、ご指導を賜っております文部科学省、滋賀県教育委員会、運営指導委員の皆様をはじめ、滋賀県と長浜市の関係各部署の皆様方、またコンソーシアムに参画いただきました各団体等の多くの方々に心より感謝いたしますとともに、地元木之本地域、旧伊香郡の地域住民の方々に感謝を申し上げ、巻頭の言葉といたします。

令和5年度 文部科学省
「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」実施報告書

目次

○巻頭言	1
○目次	2
第1章 本校の概要	
1-1 所在地	3
1-2 設置学科および在籍生徒数	3
1-3 スクール・ミッション	3
1-4 スクール・ポリシー	3
第2章 令和5年度研究開発の概要	
2-1 事業の実施計画の概要	4
2-2 事業の実施日程	21
2-3 事業の実施概要	22
(1) カリキュラムの検討内容	22
(2) 管理機関による事業の実施体制や管理方法	29
(3) 高等学校における事業の実施体制や管理方法	31
(4) 運営指導委員会の体制および取組	32
(5) コンソーシアムの体制および取組	33
(6) コーディネーターの配置および活動内容	35
(7) 新学科の設置及び設置に向けた検討状況・関係者への説明の実施状況	37
(8) 管理機関における事業全体の成果検証、評価	41
(9) 管理機関による支援体制	41
(10) 成果普及のための取組	42
(11) 国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組	43
(12) 他の事業との関係	44
第3章 研究開発の内容	
3-1 運営指導委員会	47
3-2 カリキュラム開発に関わる会議	60
3-3 伊香高校魅力化コンソーシアム準備会議・設立会議	63
3-4 教育活動改善に向けた先進校視察	65
3-5 新学科設置に向けた先行実施授業	69
3-6 地域をフィールドにした探究的な学び	82
3-7 伊香高校魅力化シンポジウム	100
第4章 参考資料	
4-1 滋賀県立高等学校魅力化に向けた学科改編等実施計画	102
4-2 広報チラシ	103

第1章 本校の概要

1-1 所在地

〒529-0425 滋賀県長浜市木之本町木之本 251

1-2 設置学科および在籍生徒数（令和5年5月1日現在）

	1年	2年	3年	計
普通科	93	99	63	255

1-3 スクール・ミッション

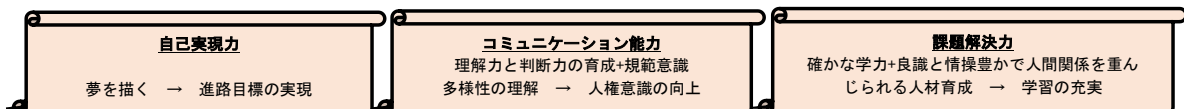
- ① 未来を拓く心豊かでたくましい人づくりのため、生徒の自立する力・伝える力・協働する力・創造する力等の生きる力を育成する学校
- ② 地域の熱意と協力により開校した伝統のもと、地域との連携・協働した学びにより、将来の地域を担う人材を育成する学校
- ③ 基礎学力の充実や発展的な学習等により、生徒の進路希望を実現するための確かな学力を育成する学校

1-4 スクール・ポリシー

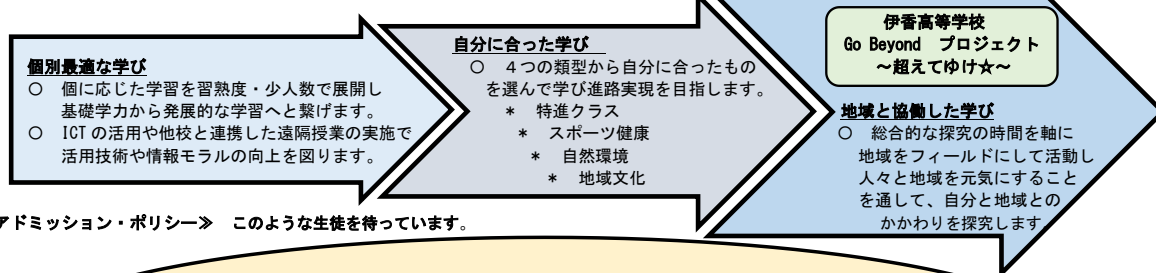
❁ 滋賀県立伊香高等学校 スクール・ポリシー ❁

＜グラデュエーション・ポリシー＞ このような力を育てます。

- ※ 教育基本法の精神に則り、将来の地域社会に貢献しうる、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成します。
- ※ 「三萬一心」「致学端誠」の教育方針のもと、地域を学びのフィールドとした高校生活を通して、探究活動に取り組み3つの力を身に付けます。



＜カリキュラム・ポリシー＞ このような教育活動を行います。



＜アドミッション・ポリシー＞ このような生徒を待っています。

- ① 本校での学習に強い興味・関心を持ち、地域との連携・協働した学びに積極的に取り組もうとする生徒
- ② 多様な他者とのかかわりの中で自己を高め、他者を思いやり、主体的に行動しようとする生徒
- ③ 滋賀県北部の豊かな自然環境や地域文化の中での学びを通して、創造的に地域貢献しようとする生徒

※ 伊香の地域をフィールドに、地域の人々とコラボして学びを深め、生きる力を育成します。

令和5年3月策定

第2章 令和5年度研究開発の概要

2-1 事業の実施計画の概要（事業申請時のもの）

■実施計画書（所属等は令和5年5月現在）

2-1-1 事業の概要

(1) 学際領域学科又は地域社会学科等を設置する学校名・設置（予定）年度

公立・私立・ 国立・株立の別	学校名 (ふりがな)	学科の種類	設置（予定） 年度	決定
公立	滋賀県立伊香高等学校 (いか)	地域社会学科	令和7年度	○

(2) 学校の詳細

課程別	新学科の 収容定員	学年制・ 単位制の別	学科の名称（決定している場合）
全日制	40人	学年制	

(3) 当該学科における特色・魅力ある先進的な教育の取組について

令和4年度滋賀県教育研究事業「県立高等学校魅力化推進事業」では、地域連携のためのコーディネーターを伊香高等学校に配置し、炭づくり、薪割り体験や地域住民とのふれあい対談など、地域を教育資源とした地域連携活動に取り組み、現在および将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びの推進と、ICTによる学校間連携授業に取り組んだ。また「高等学校における地域との連携による主権者教育の充実事業」の指定も受け、選挙権年齢、成年年齢の引き下げを契機に、主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に、地域社会の様々な課題を自らの問題として主体的に捉え、解決しようとする態度の育成をめざす主権者教育の充実の研究を行った。さらに「未来の担い手を育むキャリア教育形成支援事業」の指定により、自己を振り返り変容を確認する取組をすすめることにより、自らのキャリア形成を見通す力を向上させ、またインターンシップをはじめとして、課題対応能力やチャレンジ精神、創造性等を育む取組を進めることで、自分の将来を展望し、たくましく生き抜く態度や能力を身につけさせる教育の研究に取り組んだ。

これらの取組や学校を取り巻く環境を受け、かつて学校林を保有した歴史と豊かな地域資源を活かし、地域の専門家や地元長浜市と協働して、「森・川・里・湖」が水系でつながる滋賀ならではの学びに取り組むべく、令和7年度には「森の探究科」の設置を予定している。「森の探究科」の学びのベースは滋賀県の提唱するMLGs（マザーレイクゴールズ・琵琶湖を切り口とした滋賀県版SDGs）をおき、持続可能な社会と琵琶湖に根ざした暮らしの創造、人と自然が共存する循環型社会の構築を考える人材育成を図る<ゼロ・カーボン・ハイスクール>を目指す。また地域の森林資源を活かした仕事やまちづくりにつなげ、地域活性化と地域創生を目指す。教育内容は、次の2本柱とし、主な内容は次のとおりである。

①地元長浜市との協働による環境未来人材の育成：「カーボンニュートラル」

学校が立地する長浜市では2022年3月「ゼロカーボンシティ宣言」がなされ、それに先だって「湖北環境経済協議会」も設立され、行政、民間ともに、2050年までに市全体の温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す脱炭素社会実現への機運が高まりつつある。この脱炭素社会を構築していくうえで、今後、環境・エネルギー分野をはじめ専門性を有する人材へのニーズが高まることが予想される。さらに脱炭素社会を地域主導で進め、エネルギーの地産地消を達成していくためには、その知識やスキル、ノウハウを持つ人材を地域の中で育成していくことが必要である。

地域の未来を見据えて子どもへの環境・エネルギー教育を進め、地域で育ち、地域で活躍する人材づくりを推進する長浜市と協働し、地域振興に資する長浜の脱炭素社会を実行する環境未来人材の育成に取り組む。

②新たな森林空間の総合利用に関する学び：「森林サービス」

地元の森林資源の整備と活用を実践的に学ぶなかで、特に森林空間を利用するサービスについて、フィールドワークや地域の専門家との対話を通して探究的に学ぶ。既存のサービスの充実だけでなく新たなサービスの創出を図り、そこで展開される活動をビジネスとして展開できるか、地域主導で持続可能なものであるか等を高校生の瑞々しい感性で探究し提案していく。このことは、人口減少や流出が激しい地域の活性化と地域創生につながる取組となる。これは林野庁が提唱する「新たな森と人とのかかわり」＝「Forest Style」の創造につながる学びであり、人生100年時代のあらゆるステージにおいて、森林とのふれあいや森の恵みをいただきながら、健康的、文化的で心豊かな暮らしを目指す資質を涵養することにもつながる。その結果、地球環境の保全や地域社会の活性化、持続性の向上にも貢献することができると考えている。

2-1-2 事業の目的等

(1) 学際領域学科又は地域社会学科等を設置する高等学校を取り巻く状況の分析、学際領域学科又は地域社会学科等を設置する必要性

滋賀県全体の中学校卒業予定者数は、令和4年度13,781人に対し、令和16年度は12,152人となり、令和4年度から比較して1,629人(11.8%)減少する見込みである。このような人口減少や急速な社会情勢の変化に対応し、時代の要請に応じた滋賀の高等学校教育の適正化および質の向上を図るため、外部有識者からなる滋賀県立高等学校在り方検討委員会を設置し議論を積み重ねてきた。ここでの答申は、令和3年度末の県民県政コメントの反映を経て、令和4年度からの概ね10年から15年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのための「これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針」(以下「基本方針」とする。)として令和4年3月にまとめた。

「基本方針」では、県立全日制高等学校44校中の29校を占める普通科について、地域社会が抱える課題の解決に向けた学びに関する学科等の設置を、高校の魅力化・教育改革の取組の方向性の一つとして示し、行政機関や地域住民、産業界、大学等との連携・協働を推進するためのコーディネーターの配置やコンソーシアムの構築、学校運営協議会の設置等を検討することが重要であるとした。

令和4年8月には各県立高等学校のスクール・ミッションを再定義し、伊香高等学校については、①地域の熱意と協力により開校した伝統のもと、地域との連携・協働した学びにより、将来の地域を担う人材を育成する学校②基礎学力の充実や発展的な学習等により、生徒の進路希望を実現するための確かな学力を育成する学校とした。さらに教職員による主体的な具体化策の検討や、中学校や地域との意見交換(地域別協議会)、先進事例の研究等を経て、令和5年3月には、県教育委員会として、先に示した「基本方針」に基づき、学びの多様な選択肢や特徴的な学科等の配置を示す「滋賀の県立高等学校魅力化プラン」(以下「魅力化プラン」とする。)を提示した。伊香高等学校は、地域の専門家と協働し、森・川・里・湖がつながる県北部ならではの学びの実施と、地域をフィールドに「地域の人々や文化的資源」と「生徒の興味関心や進路希望」を掛け合わせた多様な地域探究の学びに取り組む地域連携重点校として、新学科設置に向けた取組を推進する。

伊香高等学校が立地する長浜市の中学校卒業予定者数は、令和4年度1,173人に対し、令和16年度は910人となる見込みで、令和4年度から比較して263人(22.4%)減少となり、県全体の11.8%を大きく上回る人口減少地域で、特に学校がある木之本地域は過疎地域にも指定されている。そのようななか、令和4年3月に長浜市はゼロカーボンシティ宣言を行った。脱炭素社会の

実現に向け、市民一人ひとり、事業者、行政などのすべての主体が気候変動に関する危機感を自らの課題ととらえ、地域資源に由来する再生可能エネルギーの更なる活用、市民活動における省エネ行動、森林整備による二酸化炭素の吸収や市産材の活用を積極的に進めることを力強く宣言している。また本県では「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会へ向けた目標（マザーレークゴールズ）（MLGs）を定めている。これは琵琶湖版のSDGsとして、2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、独自に13のゴールを設定している。その1つ「恵み豊かな水源の森を守ろう」では、水源涵養や生態系保全、木材生産、レクリエーションなどの多面的機能が持続的に発揮される森林づくりが進み、人々が地元の森林の恵みを持続的に享受することとしている。さらに令和5年度から「北の近江振興プロジェクト」として、県内で先行する課題への対応、地域事情を踏まえた振興、北部における様々な機会を生かした振興を進めるとともに、地域特性や魅力を生かした地域振興に取り組む。

高校教育改革、長浜市の現状、滋賀県の施策から、地域の発展・成長に寄与する人材の育成をはかる必要から、伊香高等学校に「森の探究科」を設置するものである。

（2）学際領域学科又は地域社会学科等における取組の目的・目標（学際領域学科又は地域社会学科等における教育を通じて育成を目指す資質・能力を含む）

伊香高等学校は、地域住民の熱意と協力（「三萬一心」）により開校した126年の歴史を持つ滋賀県最北の県立高校である。これまで、その歴史背景と豊富な地域資源をもとに、地元に着目した教育活動を展開し、知・徳・体の調和の取れた人間性が豊かで将来の地域社会を担う人材の育成を行ってきた。近年、人口減少と少子高齢化が進むなかで、学校が位置する長浜市では地域に思いをもった人材育成が中長期目線で必要となっている。そこで学校は、かつて学校林を保有した歴史と豊かな地域資源を活かし、地域の専門家や地元長浜市と協働して「森・川・里・湖」が水系でつながる滋賀ならではの学びに取り組むべく、令和7年度に「森の探究科」の設置を予定している。

また、ゼロカーボンシティをめざす長浜市からは、地域実践をベースとした脱炭素に関連する教育内容について、専門的アドバイスの実施やコーディネートなどによる支援が提示され、また地域での持続可能な取り組みを支える人材育成を期待されている。本学科では「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」のバランスがとれた確かな学力を土台に、県北部地域の豊かな自然環境、森林資源等を活用し、「森で学ぶ」をコンセプトにして生徒の「生きる力」を地域とともに育みたい。そのために、地域を学びのフィールドとした探究活動に取り組み、主に次の3つの資質能力を培うことを目指している。

1. 人や地域と協働し新たな創造に向かう「課題解決力」
2. 自己の思いを伝えながら他者の多様性を理解する「コミュニケーション能力」
3. 夢を描き進路目標を実現する「自己実現力」

「課題解決力」については、単純に与えられた課題について解決するのではなく、探究的な姿勢を持ち自らあるべき姿を設定し、そこへ至るまでの道程を組み立て、目標達成に向かう力を育成する。また、複雑化する社会課題を解決するためには多様な主体と連携しながら物事を進める必要がある。そのような協働する力も実際の活動を通して身に付けることを目標とする。

次に、「コミュニケーション能力」について、多様な主体と協働するためには、自身の考えを相手の状況を踏まえ伝えること、またそれだけでなく相手の思いや考えをしっかりと汲み取るという、双方向型のコミュニケーション能力が必要となる。授業というある程度枠組みを与えられた状況での学びと、地域の人々との協働という不確実な状況での実践を通して、実用性のあるコミュニケーション能力を育成する。

最後に、「自己実現力」について、伊香高等学校では進学と就職する生徒が半数程度であり、新学科についても同様になると考える。どのような進路をとるにせよ、自らの興味関心に基づい

た自己決定とそれを実現する力が必要であると考え。多様な人と対話や実体験に基づいた興味関心の発見と、本課程を通して身につける課題解決力、コミュニケーション力を総合的に活かす自己実現力を育成する。

単に森林や環境に関する知識を得るだけでなく、「森で学ぶ」ことによって主に上記3つの能力を育むことが新学科の主眼となる。そのため、森林科学や木育、森林レクリエーション、ネイチャークラフトなど様々な分野における革新的な活動を行っている講師や、大学の教育系分野におけるアドバイザーを招き、カリキュラム開発に努める。

2-1-3 実施体制

(1) 管理機関における実施体制や事業の管理方法

本県教育委員会事務局における実施体制については、高校教育課魅力ある高校づくり推進室が事務局を担当し、室長1名、参事（校長級）1名、主担当として主査（副校長・教頭級）1名、主任主事1名をその任に充てる。

担当者と校長間で取組状況を共有するとともに、月1回以上は伊香高等学校に出向き、取組を推進する上での諸課題の解決に向けた協議を行う。またコーディネーターの活動状況を、毎月活動報告書として提出してもらい、業務実態を把握・管理する。あわせて高校教育課魅力ある高校づくり推進室の担当者が、生徒の活動発表や外部講師によるワークショップなどの学習活動に立ち合い、成果や改善点を校長やプロジェクトリーダー、コーディネーターなどと協議を行いながら進め、事業管理を行う。

また県の「魅力化プラン」において、地域連携重点校に指定した普通科高校（13校指定）による「地域連携重点魅力化連絡会議」を定期的開催することを予定しており、この連絡会議において、各高校の取組の進捗状況および目標の到達・達成状況を点検・評価するなどして、「魅力化プラン」の進捗を確認することとしている。この連絡会議の場で、伊香高等学校からの諸提案を行い、関係各組織に積極的な協働・協力を要請し、本事業の効果的な実施を推進するとともに、地域連携にかかる課題の共有と成果の普及を行っていく。

「地域連携重点魅力化連絡会議」は原則年2回開催（令和5年度は令和6年1月下旬に開催予定）し、本県の地域連携重点校について、伊香高等学校からの提案等により、諸課題等の情報共有を行うとともに、他の高等学校の進捗状況を確認しながら、伊香高等学校の改善点等を把握することとしている。働き方改革の観点から、オンラインによる開催も積極的に取り入れ、安定的で計画的な会の開催に努める。

「地域連携重点魅力化連絡会議」は滋賀県教育委員会事務局高校教育課魅力ある高校づくり推進室が管理し、魅力ある高校づくり推進室長を事務局長に据え、参事（校長級）および業務を専属で担当する主査（副校長・教頭級）、指導主事を配置する。この「地域連携重点魅力化連絡会議」に加え、伊香高等学校では、年3回、運営指導委員会を開催することで、事業の進捗状況や成果をその都度確認し、適宜事業の評価を行うことで、以後の事業運営に役立てる。運営指導委員会は外部有識者で構成するものとし、事業の目的に鑑み、以下の構成で委員委嘱に向けた調整を進めている。

- ・委員 学識経験者（滋賀県立大学環境科学部）市民参加型持続可能な地域活動の研究
- ・委員 学識経験者（滋賀大学教育学部）環境教育・技術教育の研究者
- ・委員 民間企業（里山実験室）元滋賀県林業専門職、森林総合監理士
- ・委員 民間企業（森の案内人）森ツアーガイド、森のサロン実施
- ・委員 民間企業（高橋金属株式会社）湖北市民会議構成員、ゼロカーボン実践企業
- ・委員 民間企業（株式会社バイオマスアグリゲーション）木質バイオマスエネルギー
- ・委員 行政機関（長浜市未来創造部）ゼロカーボンシティ宣言、地域づくり・振興関係

運営指導委員会は、県教育委員会事務局高校教育課魅力ある高校づくり推進室が管理し、魅力ある高校づくり推進室参事（校長級）が事務局長となり、業務を専属で担当する主査（副校長・教頭級）、主任主事をその任にあてる。

中学校等卒業予定者進路希望調査の結果にも注視し、長浜市内 10 中学校やそれ以外の中学校から伊香高等学校への志望者数の変化を分析しながら、本事業の地域への広報や魅力づくりについて、長浜市教育委員会等の協力も得ながら、検証していく。

（２）管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

県内における中学生の生徒数減少にともない県立高等学校の小規模化が見込まれることから、管理機関では、令和 4 年度から県予算において独自に普通科の高等学校を対象とした「県立高等学校魅力化推進事業」を実施している。この取組では、地域の企業や大学、自治体等との調整を行うなど学校と地域をつなぐコーディネートの必要性や、ICT を活用した、小規模の学校間での遠隔授業の日常的な導入に向けた研究に取り組んだ。伊香高等学校を研究校に指定した研究で、地域社会に関する学びの導入や地域社会に関する学科の設置による普通科の魅力化を進めるにあたり、コーディネーター人材の必要性がより確かになってきたところである。

コーディネーター人材に期待する、評価する考え方は 3 点ある。1 点目として、高校から地域に働きかけるコーディネーター機能として、生徒を指導するというより、授業において地域との関わり、機会を作ったり、地域行事の情報提供や人の紹介をするなど、地域に興味を持つきっかけづくりを求めたい。2 点目は、県立学校が位置する地域におけるコーディネーター機能（地域住民との関係を築きながら地域と高校をつなぐ）を求める。高校と地域住民の接点づくり、高校生と地域の協働活動を仕掛けたり、住民主体の活動に伴走したりすることで、地域の変化の流れを促進することも期待する。3 点目としては、地域連携の流れを持続可能なものにするため、属人的な活動で終わらせるのではなく、協働体制（コンソーシアム）を構築・充実させていき、事業指定終了後も持続可能な協働体制構築のコーディネーター機能を期待し、評価を行う。

令和 4 年度末に公表した「魅力化プラン」の中で、本県の普通科高校 29 校のうち、地域連携重点により魅力化を図ることを推進する 13 校で「地域連携重点魅力化連絡会議」を令和 5 年度から開催することを予定している。その中で、伊香高等学校による、地域社会に関する学科の設置に向けた具体的な提案を期待するほか、普通科改革の推進のための必要条件を探るなかで事業全体の成果・検証をしていきたい。併せて、伊香高等学校では、年 3 回運営指導委員会を開催し、事業の進捗状況や成果を確認し、適宜、事業の評価を行うことで、以後の事業運営に役立てることとしている。

さらに、管理機関は、伊香高等学校の協力を得て、卒業生を追跡調査する仕組みの構築に向け、卒業時にメーリングリストを作成するとともに、SNS（Facebook や LINE）、学校のホームページなど、複数のソーシャルメディア等を介して、ニュースレター形式で、事業のその後の取組や学校の近況について定期的・継続的に情報を配信したい。それにより卒業後も生徒とのつながりを維持したうえで、Google Form 等を活用したオンライン・アンケート調査を 4 年後・7 年後に実施し、進学・就職状況や、地域との関わり、地域の社会課題に対する意識の変容、高校時代の学びの有用性等を調査・研究し評価も行う。集計・分析した調査結果は、国の事業終了後も、伊香高等学校や県教育委員会において、本事業の成果の検証および「魅力化プラン」の地域連携重点の事業成果のための基礎資料として役立てることとしている。

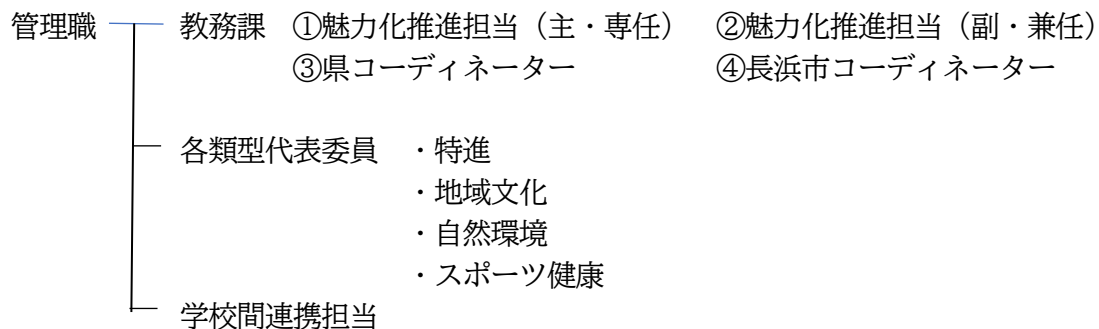
スクール・ミッション、スクール・ポリシーの観点からも事業全体の成果検証を行い評価していく。特に高校生が主体性をもって取り組み、他者と協働しながら試行錯誤し探究することや、小さなことでも実際の政策や企業活動の実践や提案を行い、社会的評価も受けるところまで、学校での学びと実社会を結び付けた取組としての観点で評価する。さらに県教育委員会では実施する中学校等卒業予定者進路希望調査の結果も注視し、長浜市内 10 中学校やそれ以外の中学校から

伊香高等学校への志望者数の変化を分析しながら、本事業の地域への広報や魅力、成果について、長浜市教育委員会とも協力し検証していく。

(3) 学際領域学科又は地域社会学科等を設置する高等学校における事業の管理方法

校内では、令和4年度より教務課内に魅力化推進担当を置き、伊香高等学校の4類型（特進、地域文化、自然環境、スポーツ健康）から選出した委員と魅力化学校間連携担当者、県配置のコーディネーターで構成する「魅力化推進室」を設置、魅力化の方向性を模索し、新学科設置について検討してきた。令和5年度から「森の探究科推進室」と改称し、新たに長浜市が採用する地域おこし協力隊のコーディネーターを加えて、新学科設置に向けての取り組みを推進する。合わせて、令和4年度より検討してきた、伊香高等学校における3年間を通した「総合的な探究の時間」についての授業内容も本推進室で一体的に管理していくことで、新学科での学びと普通科全体の探究的な授業が相乗効果を発揮できるように留意する。また「総合的な探究の時間」、学校設定教科、公民や理科などのカリキュラムマネジメントに努め、森の探究科の学びの推進に努める。

〔森の探究科推進室 構成〕



推進室では、全体での検討会議を月1回程度開催するとともに、核となるメンバーについては、1) コンソーシアム運営、2) 新学科カリキュラム、3) 広報のそれぞれの分野を担当し、週1回以上の頻度でチーム会議を行い進捗確認や各種相談を行う。また、本校ですでに活用している Microsoft Teams を活用することで、日頃のやりとりを可視化し、お互いの状況把握が常時可能な状況をつくる。

また、高校教育課魅力ある高校づくり推進室の担当者と校長で月1回以上は取組状況を共有するとともに、取組を推進していくうえでの諸課題の解決に向けた協議を行うほか、高校教育課魅力ある高校づくり推進室の担当者を、生徒の活動発表や外部講師によるワークショップなどの学習活動に立ち合い、成果や改善点を校長や森の探究科推進室メンバーなどと協議を行う。

県教育委員会事務局高校教育課魅力ある高校づくり推進室が管理する運営指導委員会は年3回開催され、伊香高等学校としては、そこに向け、事業の進捗状況や成果をその都度確認し、適宜事業の評価を行うことで、以後の事業運営に役立てる。また管理機関が行う「地域連携重点魅力化連絡会議」において、本校からの提案等を行い、地域連携に対する諸課題等の情報共有を行うとともに、本校の改善点等に関する助言も得たいと考えている。

(4) 管理機関及び申請校における研究開発の実績（申請校が新設校の場合、管理機関における実績のみを記載）

地域社会学科に関わる研究開発の実績としては、令和3年度からマイスター・ハイスクール事業（次世代地域産業人材育成刷新事業）を彦根工業高校において実施している。彦根工業高等学校は、「ものづくりはひとつづくり」をモットーとした創立100年の歴史ある学校である。高校が

ある彦根市には高等教育機関として、滋賀県立大学工学部・環境科学部や滋賀大学データサイエンス学部等がある。伝統技術等のビッグデータ分析など ICT・デジタル教育で連携を図りながら、社会的課題を新たなチャンスととらえ、高付加価値を持つ産業へと創出できる“人財”を多様な主体の共創により育成するシステムを構想し、研究推進に取り組んでいる。

絶えず革新し続ける最先端技術と滋賀の風土が培ってきた伝統産業等の技と心を生かし、地域産業界と彦根工業高校が一体・同期化し、郷土愛にあふれた人財育成によって地域を活性化させ、地域産業の未来像の実現を資するものである。

また、令和元年から実施された文部科学省事業である「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に3校が申請を行ったが、令和元年度からグローバル型アソシエイト校に高島高等学校、令和2年度からプロフェッショナル型アソシエイト校に大津高等学校が認定された。

高島高等学校は、地域の特性に応じながら同時にグローバルな視点ももって社会課題の研究を行う、フィールドワークを含む「高島学」での探究的な学びを実施している。また大津高等学校は地域の課題を家庭科の視点から捉え、地域と連携・協働しながら、地域理解を深化させ、職業観を醸成しながら、地域をどのように活性化し、地域に貢献していくべきかを学んでいる。両校の事業指定は終了したが研究成果をいかし、地域連携を推進する取組を継続していくとともに、県内高等学校へも情報発信を行う。

さらに、滋賀県独自の研究開発事業として、3つの事業を実施している。

「県立高等学校魅力化推進事業」では、モデル校に伊香高等学校を指定し、地域連携のためのコーディネーターを配置、現在および将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びの推進と、ICTによる学校間連携授業に取り組んだ。

「高等学校における地域との連携による主権者教育の充実事業」では、研究推進校に伊香高等学校を指定し、選挙権年齢、成年年齢の引き下げを契機に、主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に、地域社会の様々な課題を自らの問題として主体的に捉え、解決しようとする態度の育成を通して、高等学校における主権者教育の充実に取り組んだ。

「未来の担い手を育むキャリア教育形成支援事業」では、自己を振り返り、変容を確認する取組をすすめることにより、自らのキャリア形成を見通す力を向上させ、インターンシップをはじめとして、課題対応能力やチャレンジ精神、創造性などを育む取組を進めることで、自分の将来を展望し、たくましく生き抜く態度や能力を身につけさせる教育の研究に取り組み、伊香高等学校をはじめ、17校を指定している。

このように、本県では、県立高等学校と地域社会との連携は重要であるにとらえ、伊香高等学校をはじめ複数の学校に対し、県独自の地域連携事業をはじめ、学校運営協議会設置を推進し、コミュニティ・スクールを拡大してきた。現在、伊香高等学校はコミュニティ・スクールの取り組みも進めているが、「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」の指定を受けることにより、学校と地域の関係性をさらに深め、学校と地域の連携・協働による教育活動の推進の先導性を高めることで、本県高校教育の更なる充実をはかりたい。

(5) 運営指導委員会の体制

所属	氏名	主な実績
滋賀県立大学環境科学部 准教授	平岡 俊一	環境科学部環境政策・計画学科
滋賀大学教育学部 教授	岳野 公人	環境教育・技術教育
里山実験室 HareMori 森づくりコーディネーター	山本 綾美	森林総合監理士 滋賀もりづくりアカデミー講師
森の案内人 合同会社 NiwaMori 代表社員	三浦 豊	森ツアーガイド、森のサロン実施 著書『木のみかた 街を歩こう、森へ行こう』 (ミシマ社)出版
高橋金属株式会社 代表取締役社長	高橋 康之	長浜市で脱炭素社会に向けて取り組む企業
株式会社バイオマスアグリゲ ーション 代表取締役	久木 裕	長浜市で脱炭素社会に向けて取り組む企業
長浜市未来創造部 部長	中嶋 克之	ゼロカーボンシティ宣言・地方創生担当

(6) 運営指導委員会が取り組む内容

新学科「森の探究科」で学ぶ内容は、「森林サービス産業」と「脱炭素に資する森林エネルギー利活用」に関するものの大きく2つに分けられる。それぞれの視点が上手く統合され相乗効果が発揮されるよう、運営指導委員会では、新学科カリキュラム内容や運営体制構築に関して専門的立場から助言を行う。また、高校教員やコンソーシアムの参加主体の当該テーマ理解向上に向けた講習などの実施も検討する。また、外部専門家のみならず、地域内で関連した活動を実際に計画し推進している実践者にも委員会にご参画いただくことで、高校と地域のスムーズな連携実現を目指す。

2-1-4 学際領域学科又は地域社会学科等における取組

(1) 学際領域学科又は地域社会学科等におけるカリキュラムや教育方法等の特色・魅力ある先進的な教育の内容

「森の探究科」の学びのベースには県の提唱する MLGs（マザーレイクゴールズ・琵琶湖を切り口とした滋賀県版 SDGs）をおき、持続可能な社会と琵琶湖に根ざした暮らしの創造、人と自然が共存する循環型社会の構築を考える人材育成を図る。また地域の森林資源を活かした仕事やまちづくりにつなげ、地域活性化と地域創生を目指す。教育内容は、次の2本柱とし、主な内容は次のとおりである。

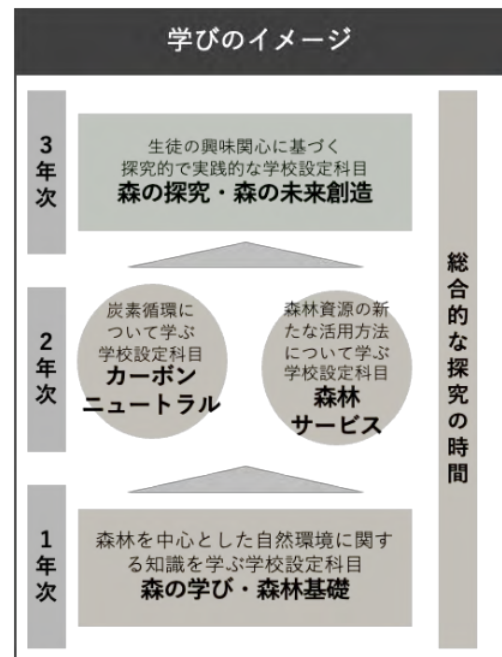
①地元長浜市との協働による環境未来人材の育成：「カーボンニュートラル」

学校が立地する地元長浜市では 2022 年3月「ゼロカーボンシティ宣言」がなされ、それに先だって「湖北環境経済協議会」が設立されており、行政、民間ともに、2050 年までに市全体の温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す脱炭素社会実現への機運が高まりつつある。この脱炭素社会を構築していくうえで、今後、環境・エネルギー分野をはじめ専門性を有する人材へのニーズが高まることが予想される。さらに脱炭素社会を地域主導で進め、エネルギーの地産地消を達成していくためには、その知識やスキル、ノウハウを持つ人材を地域の中で育成していくことが必要である。地域の未来を見据えて子どもへの環境・エネルギー教育を進め、地域で育ち、地域で活躍する人材づくりを推進する長浜市と協働し、地域振興に資する長浜の脱炭素社会を実行する環境未来人材の育成に取り組む。

②新たな森林空間の総合利用に関する学び：「森林サービス」

地元の森林資源の整備と活用を実践的に学ぶなかで、特に森林空間を利用するサービスについて、例えばキャンプやトレッキング等のアウトドア活動、森林浴等のリラクゼーション活動、森のようちえん等自然を活かした教育活動などをフィールドワークや地域の専門家との対話を通して探究的に学ぶ。既存のサービスの充実だけでなく新たなサービスの創出を図り、そこで展開される活動をビジネスとして展開できるか、地域主導で持続可能なものであるか等を高校生の瑞々しい感性で探究し提案していく。このことは、人口減少や流出が激しい地域の活性化と地域創生につながる取り組みとなる。これは林野庁が提唱する「新たな森と人とのかかわり」＝「Forest Style」の創造につながる学びであり、人生100年時代のあらゆるステージにおいて、森林とのふれあいや森の恵みをいただきながら、健康的、文化的で心豊かな暮らしを目指す資質を涵養することにもつながる。その結果、地球環境の保全や地域社会の活性化、持続性の向上にも貢献することができると考えている。

学校設定科目としては、1年時に森林を中心とした自然環境に関する基礎的な知識の習得を目的とする「森の学び」科目を、2年時には「カーボンニュートラル」と「森林サービス」に関する地域と連携した専門的な科目をそれぞれ設定。3年時にはそれまでの授業を踏まえながら、生徒の興味関心に基づく探究的で実践的なマイプロジェクトを実施しその内容をまとめる「森の未来創造」を設定し、新学科における教育の集大成とする。また、新学科での学びと普通科全体の探究的な授業が相乗効果を発揮できるように留意するとともに、学校設定科目や総合的な探究の時間、公民や理科などのカリキュラムマネジメントに努め、森の探究科の学びの推進に努める。さらに修学旅行・文化祭などの学校行事や部活動、地域活動への参加など、学校生活の様々な機会を活用して、当該分野の知識や興味関心を深める内容とする。

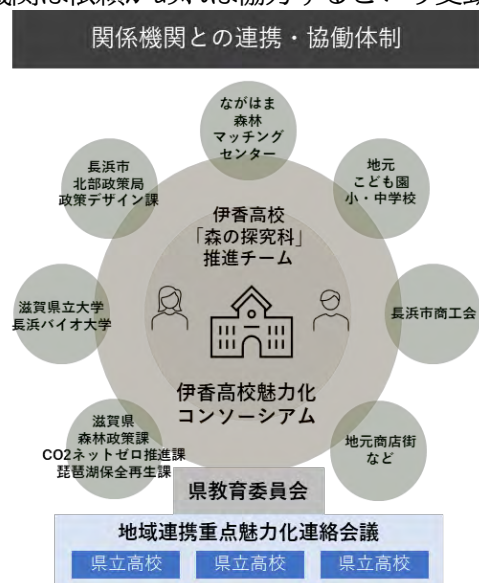


(2) コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制の構築の考え方・方法

すでに連携・協力をいただいている関係機関もあり、今後正式にコンソーシアムの委員委嘱等をしながら体制作りを行う。ややもすれば、地域や関係機関は依頼があれば協力するという受動的なかわりになる傾向もあり、そうではなく、それぞれができることや意見を出し合う場としてコンソーシアムは構築したいと考えている。

伊香高等学校側では、前述の「森の探究科推進室」が中心となり、コンソーシアムとのやり取りを行う。本事業に関連し県が採用するコーディネーターには、主にコンソーシアムマネージャーとして、コンソーシアム構成員との関係性構築やコンソーシアムが実際に動くものになるような働きかけや仕組みづくりを期待する。

コンソーシアム構成員は、本事業で重点を置く「1. カーボンニュートラル」「2. 森林サービス」「3. 地域連携」という大きく3つの視点を持って構成する。カーボンニュートラルにおいては、脱炭素社会構築に向けた活動を計画している長浜市をはじめ、地域のエネルギー



一専門家、大学、県庁関係部署等を構成員として迎え入れる。また、森林サービスに関しては、長浜市内の森林関係団体の協議会である森林マッチングセンターや商工会や市内関連事業者、県庁森林政策課などを迎え入れる。地域連携に関しては、自治会等の地域づくり組織や地元商店街、近接することも園や小・中学校、市役所関連部署等を迎え入れる。

コンソーシアムは、全体的な方針の審議を行うハイレベル会議と、個別の活動（例：森の探究活動、地域連携活動、保幼小中連携活動、など）を推進する専門部会の2階層とし、機動的に活動を推進できる体制とする。

高校生が主体性をもって取り組み、他者と協働しながら試行錯誤し探究することや、小さなことでも実際の政策や企業活動の実践や提案を行い、社会的評価も受けるところまで、学校での学びと実社会を結び付けた取組としたいことから、コンソーシアムの構成員から、高校生の取組に対する社会的評価も期待している。

(3) コンソーシアムの構成員

所属	氏名	主な実績
滋賀県森林政策課	調整中	森林サービス産業に関すること
滋賀県琵琶湖保全再生課	調整中	森林サービス（エコツーリズム）
滋賀県CO2 ネットゼロ推進課	調整中	ゼロカーボンに関すること
長浜市政策デザイン課	調整中	市の重点プロジェクトに関すること
長浜市北部政策局	調整中	市の北部政策に関すること
長浜市森林田園整備課	調整中	市の森林政策に関すること
長浜市教育委員会	調整中	小中高連携に関すること
長浜森林マッチングセンター	調整中	森林サービス産業に関すること
ロハス長浜	調整中	森林サービス産業に関すること
長浜市伊香森林組合	調整中	林業に関すること
長浜市商工会	調整中	地域商工業者との連携
湖北市民会議	調整中	長浜市の脱炭素に関する活動
木之本地区地域づくり協議会	調整中	木之本の地域づくりに関すること
木之本宿活性化推進協議会	調整中	木之本の地域づくりに関すること

(4) 配置するコーディネーターの属性や役割

所属	氏名
合同会社 kei-fu (ケイフー)	中山 郁英 氏
長浜市地域おこし協力隊	副島 拓歩 氏

▼当該者の主な実績

中山郁英氏は長浜市出身で、帰郷前には東京大学のイノベーション教育プログラムに携わっていた。Uターン後は地域のコミュニティスペース運営や幅広い分野で行政と協働した事業を行っている。本事業に先立ち、令和4年から伊香高校地域連携コーディネータとして活動。島根大学の社会教育主事講習を受講し社会教育士の資格を得るなど、教育分野のコーディネートに関する知見を持つ。

副島拓歩氏は、NPO 法人カタリバでのインターンシップなどを通して探究教育や地域と連携した教育に関する経験を積み、地域おこし協力隊として取組を行っている。

▼コーディネーターが取り組む内容（勤務形態を含む）

中山氏は、県や高校担当者と協働し、主に事業全体の企画立案やコーディネートを行う。またコンソーシアムマネージャーとして、本事業に関わる行政や民間事業者、地域組織など多様な主体との調整や事業推進を行う。校内への駐在や電話・オンラインでのやりとりなど、月 72 時間（1日6時間として月 12 日）相当程度業務に従事する。教務課に配置し、学校管理職や教員との情報交換などを魅力化推進担当の教員とともに進行。具体的には以下のような業務を行うことを想定している。

- ・本事業に関するコンソーシアム組成のための各主体との調整、立ち上げ
- ・コンソーシアムの運営方法検討、専門部会設置検討と運営支援
- ・地域や専門家と連携した新学科カリキュラム形成支援
- ・地域連携のための拠点整備支援
- ・その他、学校経営や生徒募集、情報発信など全般に関する支援

コーディネーター業務を中山氏に委嘱する中で、中山氏の経営する合同会社 kei-fu（ケイフー）より非常勤のスタッフを1名配置し、業務のサポートを行うことを想定している。

副島氏は主に学校内で活動し、各担当教員と連携しながら、新学科のカリキュラム検討に関連した地域の各種主体と連携した授業や活動などの実施や、ウェブサイトや SNS などを活用した情報発信などを行う。デスクを職員室内に設置し、週3日程度は学校内に滞在し業務を行う。

長浜市の委嘱する地域おこし協力隊としての活動となるが、その業務管理においては、長浜市と伊香高校が協働して実施する。

中山氏は主に学校外部との関係構築・事業推進、副島氏は主に学校内部での関係構築・事業推進と主たる担当領域を分けるが、密に情報交換しながら一体的に事業が推進されるように留意する。

（5）学際領域学科又は地域社会学科等の設置及び設置に向けた検討に関する生徒、保護者、地域等への説明の実施

県教育委員会では、急速な社会情勢の変化に対応し、時代の要請に応じた滋賀の高等学校教育の適正化および質の向上を図るため、外部有識者から成る滋賀県立高等学校在り方検討委員会を設置し、令和2年度から2年間にわたって議論を積み重ねてきた。そこで出された答申は、令和3年度末の県民県政コメントの反映を経て、令和4年3月「基本方針」として策定し、公表した。

令和4年8月には、各県立高等学校のスクール・ミッションを再定義し、伊香高等学校については、①地域の熱意と協力により開校した伝統のもと、地域との連携・協働した学びにより、将来の地域を担う人材を育成する学校、②基礎学力の充実や発展的な学習等により、生徒の進路希望を実現するための確かな学力を育成する学校と公表し、生徒、保護者にも知らせた。また、伊香高等学校の魅力づくりについて、10月には生徒会を中心に、生徒との話し合いを行い、さらに11月には地元住民の皆さんからのヒヤリングを行い、さまざまな意見を賜った。

令和4年11月には、「魅力化プラン」策定に際し、市町のまちづくり主管課、教育委員会、地域の中学校長、保護者とそれぞれの代表に出席いただき、滋賀の県立高等学校の魅力化の方向性についての意見聴取（地域別協議会）を、管理機関が実施した。その中の意見を受けて、令和5年3月には「魅力化プラン」を提示した。伊香高等学校については、地域の専門家と協働し、森・川・里・湖がつながる県北部ならではの学びの実施と、地域をフィールドに、「地域の人々や文化的資源」と「生徒の興味関心や進路希望」を掛け合わせた多様な地域探究の学びに取り組む地域連携重点校として、新学科設置による魅力化を推進することを示した。

また、令和5年3月に、「伊香高等学校魅力化シンポジウム」を開催し、その中で令和4年度の伊香高等学校の教育活動の広報、生徒による地域連携についての研究発表、さらに県教育委員会も交え、今後の伊香高等学校の魅力化の方向性、地域連携の取組について、地域の行政機関、

企業、中学生、保護者に向けてメッセージを発信している。令和6年3月にもシンポジウムを開催し、情報を発信するとともに、魅力化に対する意見を伺う場としたい。シンポジウムのみならず、運営指導委員会やコンソーシアム全体会議、学校運営協議会において、多くの当事者で課題を共有し、一方通行にならないよう意見交換等の機会を設けるよう努め、それぞれの立場や果たすべき役割の理解を深めることにも留意したい。

管理機関においては、県教育委員会のホームページはもちろん、保護者向け情報誌「教育しが」や、県立高等学校の魅力や特色を知っていただくための「滋賀県立高等学校デジタルスクールガイド」を活用し、生徒・保護者・地域への情報発信を行いたい。また、伊香高等学校の所在地の長浜市公報にも掲載をいただくとともに、地域密着型生活情報誌「リビング滋賀」に高等学校教育改革の特集の掲載を依頼していきたい。

令和6年度には、令和7年度新学科実施に向け、全県下の中学生・保護者・地域住民を対象とした「学校説明会」を県教育委員会が主催して行うとともに、長浜市を中心に、地域連携の取組、学校改革についての説明会を、地元小中学校、地元商工会議所、地元自治会を基本とした形で実施し、生徒・保護者・地域に対する説明を行う。また学校は夏季休業期間を活用して中学生や保護者に向けたオープンスクールを実施し、新たな学科の設置について魅力発信していく。

2-1-5 実施計画

(1) 3ヶ年の実施計画の概要

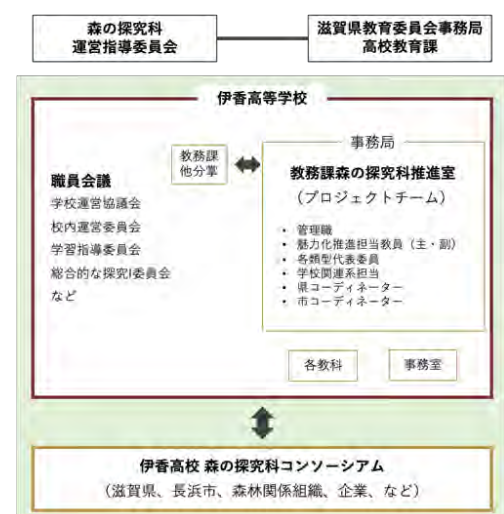
令和5年度の校内校務分掌において、研究事業推進の事務局として、教務課森の探究科推進室（プロジェクトチーム）を組織する。そのうえで、委嘱した運営指導委員、校長、教頭、事務長、教務主任を中心に研究にかかわる組織ならびに運営指導委員会、コンソーシアムを右記のように構成する。

管理機関の担当者と校長は、月1回以上は取組状況を共有しながら、諸課題の解決に向けた協議を行う。また生徒の活動発表や外部講師によるワークショップなどの学習活動を複数回見学し、成果や改善点を校長やプロジェクトリーダーなどと協議を行い、学校設定科目「森林基礎」「森林サービス」「カーボンニュートラル」「森の未来創造」の充実をはかる。特に、森の探究科運営指導委員会において、校内事務局は地域連携コーディネーターと協働して作成した学校設定科目のシラバスについて、評価・検討し改善を重ねる。

将来的には木質バイオマスの熱利用や太陽光発電を高校自体に取り入れることで、学習内容を体験的に理解するとともに、日本初の「ゼロ・カーボン高校」を目指す。また近接する保幼・小中学校も含めた地域のカーボンニュートラルに貢献できる環境を整える。

管理機関においては、「滋賀県立学校の校舎、課程、部および学科等の設置等に関する規則（滋賀県教育委員会規則第5号）」改正を行い、新学科設置を正式決定する。また「地域連携重点魅力化連絡会議」「運営指導委員会」を開催し、課題の整理や他校への情報発信、連携促進に努める。

令和6年度は、新学科設置の周知活動として、県教育委員会ホームページや保護者向け情報誌「教育しが」や、「滋賀県立高等学校デジタルスクールガイド」を活用し、生徒・保護者・地域への情報発信を行う。また8月には高等学校が主体なり、11月には県教育委員会が主催し学校説明会を実施する。並行して、地域連携コーディネーターと協働して学校設定科目について、普通科生徒の教育課程を一部変更するなど、指導と評価を一体的に行い、教育課程について、総合的



な探究の時間を含め、さらなる改善を図るとともに、コンソーシアム構築の充実を図る。卒業生にはアンケートを実施し、新学科1期生との比較も図っていく。

令和7年度入学生が1期生となる。地域連携コーディネーターと協働して練り上げた学校設定科目や総合的な探究の時間、その他各教科の教育活動等をマネジメントしながら実施し、生徒アンケートや関係者の評価を受けながらカリキュラムについてさらに改善したり、構築したコンソーシアムの充実化を図りながら、指定事業終了後の体制づくりについても、長浜市やコンソーシアムの関係団体等と確認を行う。高校生が主体性をもって取り組み、他者と協働しながら試行錯誤し探究することや、小さなことでも実際の政策や企業活動の実践や提案を行い、社会的評価も受けるところまで、学校での学びと実社会を結び付けた取組としたい。

コーディネーターと連携しながら、滋賀県立大学の大学生も含めた地域の「森の探究家」（森林サービス産業や環境エネルギーに関連する専門家）のタネを育てる、高校生と大学生が共に学びあいをするコンソーシアム構築を目指す。

(2) 令和5年度の計画の内容

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月		
5月	森林サービス、カーボンニュートラルそれぞれの専門家の選定・打診	コンソーシアム参画者への報告と聞き取り
6月	新学科コンセプトとカリキュラムのたたき台検討 (カリキュラムアドバイザー)	コンソーシアムの全体会キックオフ ・事業の進め方についての共有 第1回運営指導委員会
7月	中学生と保護者への新学科コンセプトに関する調査1回目	分科会の発足： 1) 新学科カリキュラム検討 2) 地域連携 3) 広報 →テーマに合わせて随時活動
8月	新学科コンセプトの決定とカリキュラムの大枠検討 (カリキュラムアドバイザー、革新的な教育活動講師)	

9月	森林サービス、カーボンニュートラル それぞれの専門家とプレ授業1の内容 検討 (カリキュラムアドバイザー2回、 革新的な教育活動講師)	
10月	プレ授業1の実施と振り返り (カリキュラムアドバイザー2回) 中学生と保護者への新学科コンセプト 調査2回目	
11月	プレ授業2の検討 新学科カリキュラムの決定とシラバス の大枠作成 (カリキュラムアドバイザー2回、 革新的な教育活動講師)	コンソーシアム2回目全体会の実施 ・新学科コンセプトと カリキュラムの大枠共有 第2回運営指導委員会
12月	プレ授業2の実施と振り返り新学科カリ キュラムと シラバスの初稿作成 (カリキュラムアドバイザー、 革新的な教育活動講師)	
1月	新学科コンセプト、カリキュラム、シ ラバスにする専門家との集中検討 (カリキュラムアドバイザー)	第3回運営指導委員会
2月	新学科コンセプト、カリキュラム、シ ラバスの最終確定 (カリキュラムアドバイザー)	(新学科コンセプト、カリキュラムを関 係者に対し個別に説明)
3月	次年度の授業準備 新学科広報のための各種ツール作成	年度の成果を発表するシンポジウムの開 催 (コンソーシアム3回目全体会を兼ね る)

(3) 事業の進捗状況の定期的な確認や改善の仕組み

管理機関による「地域連携重点魅力化連絡会議」を年2回開催する。ただし令和5年度については令和6年1月下旬に開催する。働き方改革の観点から、オンラインによる開催を積極的に取り入れ、安定的で計画的な会の開催に努める。その際に伊香高等学校から事業の進捗状況や成果と課題について報告を行い、他の地域連携に取り組む県内高等学校への情報提供とともに評価も行う。

伊香高等学校において、年3回（おおよそ6月、11月、1月）、運営指導委員会を実施していくなかで、本構想において実現する成果目標の設定を行う。現時点においては就職希望者のうち県内に就職する生徒の割合を95%以上とすることや、進学志望者のうち将来県内での就職を希望する生徒の割合80%以上とすること、生徒アンケートにおいて「地域における課題に関わりたいと思う生徒の割合」を80%以上、「地元で貢献したいと思う生徒の割合」80%以上、「勉強したことを実際に応用してみたい生徒の割合」85%以上とすること、さらに「森林環境とエネルギーの問題が、自分たちの身の回りの生活にどのようにかかわっているかを知っている」生徒の割合を95%以上とすることなどを想定している。

事業実施校は、地域連携を重点として高校の魅力化を推進し、地域で活躍する人材を育成する高校として、生徒が地域に赴き、地域の人々と協働して何かに取り組む回数や地域の方々や卒業生を学校に招く回数をあわせて年間20回をめざし、地域に開かれた学校づくりを推進する。また自治体に対する政策等の提案を年間3回、市内の高校による合同発表会や研究報告会等への参加回数を最終年次は6回としたい。

管理機関としては、伊香高等学校の協力を得て、卒業生を追跡調査する仕組みの構築に向け、卒業時にメーリングリストを作成するとともに、SNS（Facebook や LINE）、学校のホームページなど、複数のソーシャルメディア等を介して、ニュースレター形式で、事業後の取組や学校の近況について定期的・継続的に情報を配信したい。それにより、卒業後も生徒とのつながりを維持したうえで、Google Form 等を活用したオンライン・アンケート調査を4年後・7年後に実施し、進学・就職状況や、地域との関わり、地域の社会課題に対する意識の変容、高校時代の学びの有用性等を調査・研究する。

最終的には、コーディネーターと連携しながら、滋賀県立大学の大学生も含めた地域の「森の探究家」（森林サービス産業や環境エネルギーに関連する専門家）のタネを育てる、高校生と大学生が共に学びあいをするコンソーシアム構築を目指す。そのためにコンソーシアムの構成メンバーを再検討したり、学校運営協議会組織とも関連付けたりしながら、より実効性のある活動ができる組織としていく。

2-1-6 成果の普及のための仕組み

管理機関では、令和4年度から県独自の「県立高等学校魅力化推進事業」を実施し、地域社会に関する学びの導入や地域社会に関する学科の設置において、コーディネーター人材の必要性が見えてきたところである。伊香高等学校において開催する年3回の運営指導委員会を通じた研究の深まりにより、「魅力化プラン」の中で、地域連携重点による魅力化推進を指定した普通科13校による「地域連携重点魅力化連絡会議」の中で、地域社会に関する学科の設置推進に向けた具体的な提案により、地域連携の課題研究と解決の方向性の提案を期待している。

また、生涯学習課が主管する「県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会」における事例発表を行うことにより、コミュニティ・スクールの円滑かつ効果的な導入や取組の充実が図られ、県立学校の地域連携・協働の推進につなげたい。

さらに県総合教育センターにおける中堅教諭等資質向上研修において、「これからの滋賀の県立高等学校のあり方について」と題し、学校改革の視点として伊香高等学校の取組について講義することにより、中堅教諭の学校の魅力化・改革推進に対する資質向上、学校改革のボトムアップ

の力につなげ、他の県立高等学校改革にいかしたい。

事業実施校は、オープンスクールを年3回実施したり、学校のホームページに様々な活動を掲載し情報を発信したり、長浜市の公報や学校独自の広報誌（学校通信）を発行したりするなど、地域住民や地元中学校などに向け情報発信を行っていく。

2-1-7 国の指定終了後の取組継続のための仕組み

①管理機関

・国の指定終了後も、「地域連携重点魅力化連絡会議」を運用し、関係機関、特に、市町まちづくり主管課と連携を強化したうえで、事業の自走化を図り、「魅力化プラン」の推進に、構築したシステムの普及啓発を行う。

・指定終了後もコーディネーターの継続的雇用の必要性があることが想定され、地域おこし協力隊も含め、県教育委員会は長浜市と事業指定3年間に協議を重ねる。その際、クラウドファンディングやふるさと納税等を活用した教育活動資金獲得について、研究を継続し知見を共有する。

・「地域連携重点魅力化連絡会議」を継続して実施することで、「基本方針」に基づき作成した、「魅力化プラン」の事業成果の検証を行う。

・教育委員会内の体制の継続、また必要な予算を獲得し、伊香高等学校が、県予算で自走していきけるよう必要な支援を継続する。

②伊香高等学校・長浜市

・地域社会に関する学科の学びの成果や課題に係る調査・分析・検証については、外部機関と連携しながら継続して取り組み、さらなる改善・充実を図る。コーディネーターやコンソーシアム等の関係機関等と学校運営協議会の連携・協力体制を維持、強化しながら、特に長浜市の地域おこし協力隊の制度等を活用したコーディネート人材の活用、ふるさと納税等を活用した教育活動資金獲得など、時代の要請に応じた新たな取組の企画・開発を継続する。

管理機関名：滋賀県教育委員会 令和5年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）



2-2 事業の実施日程（事業結果説明書より）

事業項目	実施日程（令和5年6月1日～令和6年3月31日）												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
カリキュラムや教育方法等の検討・開発・実施													
新学科設立に向けた先行実施授業				●			●	●	●				
地域をフィールドにした 探究的な学び				●	●	●	●	●	●				
カリキュラム開発会議				●			●	●	●				
カリキュラム分科会							●					●	
県外先進校訪問				●		●							
関係機関との連携協力体制の構築・維持													
運営指導委員会				●				●					●
コンソーシアム関連会議							●		●				●
地域各団体への説明								●	●	●	●	●	●
コーディネーター													
コーディネーター（中山氏）			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コーディネーター（副島氏）			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
新学科設置に向けた説明会等の実施													
伊香高通信の発行					●			●				●	
地域各団体への説明（同上）								●	●	●	●	●	●
オープンハイスクールの実施					●		●						
地域中学校への訪問				●								●	
成果発表・成果普及													
中堅教諭等資質向上研修								●					
滋賀県総合教育会議											●		
地域連携重点魅力化連絡会議											●		
北の近江高校生サミット												●	
伊香高校魅力化シンポジウム													●
成果検証													
運営指導委員会や 先行実施授業後の生徒アンケート等													随時
成果目標アンケート												●	
中学校等卒業予定者の進路志望調査												●	

2-3 事業の実施概要（事業結果説明書より）

（1）カリキュラムの検討内容

本校は、現在開設している普通科自然環境類型を、令和7年度より普通科新学科として改編することを想定し、現在カリキュラム等を検討している。令和5年度はその新学科のコンセプトや学校設定教科・科目の大枠を検討してきた。令和6年度も、引き続き検討を加え、現在の計画をより具体化させていきたい。

① カリキュラム開発に関わる会議の体制および取組

新学科のカリキュラムについては、コアメンバー（推進室長＋コーディネーター）、本校理科教員に地域の実践者をカリキュラムアドバイザーとして加えた校内組織「カリキュラム開発会議」を中心に検討し、原案を作成した。カリキュラムアドバイザーには、地域で森林自然関係やゼロカーボンに関連した経験や人のつながりを持つ前田壮一朗氏を任命し助言をいただいた。また、教育コーディネーターとして探究活動のデザインを行っている余島純氏には、オンラインにて会議に参加していただいた。

この「カリキュラム開発会議」では、1年生～3年生のタテの積み重ねや学年内での学びの系統性、実際にフィールドへ出て体験・実践することを大切にしながら、地域の実践者や団体と連携・協働して授業を進められるよう協議を重ねた。

また、外部組織である「カリキュラム分科会」を発足させ、新学科の育てたい人材像や新学科の学びに関する検討を行った。「カリキュラム分科会」のメンバーは以下の表の通りである。

■カリキュラム分科会参加組織

市内事業者・団体	株式会社バイオマスアグリゲーション
	ながはま森林マッチングセンター
	長浜市伊香森林組合
長浜市	森林田園整備課
	環境保全課
	政策デザイン課
長浜市教育委員会	教育指導課（環境教育担当）
滋賀県	教育委員会事務局高校教育課
	魅力ある高校づくり推進室
	びわ湖材流通推進課

令和5年度は2回会議を実施し、参加者からは新学科設置における、地方創生や小学校から中学校、高等学校へとつながる継続的な学びへの期待など、貴重な意見を伺うことができた。さらに、岐阜県立森林文化アカデミー、京都府立北桑田高等学校、徳島県立那賀高等学校の3校の先進校を訪問し、森林資源・自然環境に関する専門的な学びや学校づくりに対して説明を受け、また本校の新学科設置に向けて意見を伺った。

また、以上のカリキュラム開発と並行する形で、学校内において月1回実施される「学習指導委員会」と「教科会議」の中で、新学科が設置される令和7年度の教育課程についても検討した。この「学習指導委員会」のメンバーは教頭、教務課主任、教務課 ICT 担当、各教科代表で構成されており、この会議を経て令和7年度の教育課程について決定することができた。

■カリキュラム開発会議（校内）

	実施日	実施内容
第1回	R5. 7/ 6	・新学科のコンセプトの検討
第2回	R5.10/11	・新学科で育てたい人材像の検討
第3回	R5.10/23	・新学科で育てたい人材像、学びに関するキーワードの要素の検討
第4回	R5.11/16	・新学科のカリキュラム案の検討
第5回	R5.11/30	・新学科のカリキュラム案の再検討
第6回	R5.12/ 7	・新学科のカリキュラム案の再検討
第7回	R5.12/19	・新学科のカリキュラム案の統合 ・各授業に関する関係機関の整理と予算

■カリキュラム分科会（外部）

	実施日	実施内容
第1回	R5.10/30	・本校の活動、普通科改革支援事業の概要説明 ・新学科カリキュラム案の共有
第2回	2月 書面開催	・新学科カリキュラムの具体案の共有

■先進校訪問

実施日	訪問先	内容
R5. 7/27	岐阜県立森林文化アカデミー	森林や木材に関わる様々な分野の授業を展開されており、その具体的な教育内容や卒業後の進路について説明を受けた。
R5. 9/14	京都府立北桑田高等学校	京都府内で唯一の林業科が設置されており林業を主とした学校づくりや教育に加え、学校における魅力づくり（部活動・進路実現）についてお伺いした。
R5. 9/15	徳島県立那賀高等学校	県内唯一の普通科と農業科（森林クリエイト科）を併せ持った特色ある高校で、魅力ある授業や設備、学校の様子についてお伺いした。

■令和7年度の教育課程に関する検討会（校内）

実施日	実施会議	実施内容
R5.11/ 1	学習指導委員会	・令和7年度の新学科における大学進学希望者への対応の検討
R5.11/27 ～30	教科会議	・各教科で上記の内容を検討
R5.12/ 7	学習指導委員会	・新学科の進学先の方向性を検討

② 新学科設立に向けた先行実施授業

新学科のカリキュラムで展開予定の授業を令和5年度より先行的に一部開講した。地域の企業や事業者等と連携し、自然環境類型「環境Ⅰ」の授業や「総合的な探究の時間」を通して、森・

川・里・湖がつながる県北部ならではの学び、また新カリキュラム設計に向けた検証材料にすべく授業を実施した。

■授業計画

	時期	取り組み内容	実施生徒	協力機関（敬称略）
1	R5. 7/ 6	地産地消で挑む エネルギー問題	25名 （2年生 自然環境類型）	株式会社 バイオマスアグリゲーション
2	R5. 7/ 6	内湖で体験する マリンスポーツ	24名 （2年生スポーツ 健康類型）	近江八幡市安土B&G 海洋センター
3	R5. 7/31	地域の伝統産業と 文化の継承 （炭焼き体験）	25名 （2年生 自然環境類型）	余呉在住の方々
4	R5.10/13	クリーンエネルギー の現状と課題	25名 （2年生 自然環境類型）	山室木材工業株式会社、 姉川ダム管理事務所
5	R5.10/16	林業の現状と課題	25名 （2年生 自然環境類型）	伊香森林組合
6	R5.12/ 7 12/14 12/15	断熱改修 ワークショップ	25名 （2年生自然環境 類型）	エネルギーまちづくり社、清水 建設、エネシフ湖北、地元工務 店の方々、伊香高校同窓会、等
7	R5. 9/28 ～ 12/ 8	森林サービス体験	62名 （3年生）	奥村氏（滋賀県森林政策課）、音 川氏（ヨガ講師）、齋藤氏（地 域おこし協力隊）、北川氏（もり のもり）、土屋氏（地域おこし協 力隊）、隅田氏（星の馬WORKS）、 大山氏（大見いこいの広場）
8	R6. 2/ 8	製材所・エコハウス 見学	25名 （2年生自然環境 類型）	a-café、 内保製材株式会社

③ 地域をフィールドにした探究的な学び

地域をフィールドに、「地域の人々や文化的資源」と「生徒の興味関心や進路希望」を掛け合わせた多様な地域探究を行う魅力的なカリキュラムの開発を目的として、類型での授業や「総合的な探究の時間」の中で様々な活動を実施した。

■授業計画

	時期	取り組み内容	実施生徒	協力機関（敬称略）
1	R5.10/30 ～ 11/27	自己理解探究・ゲスト トーク「地域で暮らす 人の話を聞く」	86名 (1年生)	山本氏（鍋庄商店）、竹内氏 （フォトグラファー）、富 士野氏（さぎなみ整形外科 理学療法士）、秋田氏・中村 氏・土屋氏（長浜市地域お こし協力隊）
2	R5.12/18	キャリア企画2023・ク ロストークセッション	99名 (2年生)	岩根氏（株式会社キクヤ）、 速水氏（株式会社速水電機 商会）、山岡氏（山岡精機株 式会社）、竹内氏（フォト グラファー）、中井氏（合同 会社 andstep）、前田氏（株 式会社バイオマスアグリ ゲーション、菅山寺の森友 の会）、森氏（元美容部員）、 脇阪氏（堤整形外科）
3	R5.7/4 ～ 7/6	長浜市立きのもと 認定こども園訪問①	22名 (2年生 地域文化類型)	長浜市立きのもと 認定こども園
4	R5.7/10 ～ 10/27	「木之本の新しいお 土産を考える」	28名 (2年生特進クラス)	二宮氏（観光コーディネー ター）、日本政策金融公庫、 菓子乃蔵 角屋、黒田柿生 産組合、atR48（ガレット& クレープ専門店）
5	R5.10/13	長浜市立きのもと 認定こども園訪問②	22名 (2年生 スポーツ健康類型)	長浜市立きのもと 認定こども園
6	R5.12/7, 14,15	味噌作り ワークショップ	22名 (2年生 地域文化類型)	TSUNAGU（地元ボランティ アグループ）
7	R5.12/13	読み聞かせ体験	28名 (2年生特進クラス)	長浜市立きのもと 認定こども園
8	R6.2/8	江北図書館見学	25名 (2年生 自然環境類型)	江北図書館、 a-café
9	R6.2/8	スケボー体験	24名 (2年生 スポーツ健康類型)	ハックルベリー
10	R6.2/13	地域に根差したもの づくり・NANGA 見学	22名 (2年生 地域文化類型)	株式会社ナンガ

■先行実施授業・地域をフィールドにした探究的な学びの総括：課題と次年度への展望

- ・事業初年度であり、また年度途中から始まったこともあって、準備が十分ではなく、それぞれの授業や実習のつながりが理解しづらい内容になっていたことは否めない。また、生徒にとっても、基礎知識が不足する中での授業や活動に唐突感を感じる内容もあったと思われる。
- ・新学科のカリキュラムについて大枠が固まったところであり、次年度は新学科カリキュラムの体系をより意識した事業や実習の組み立てにしていきたい。

④ 新学科のコンセプト

滋賀県北部地域の豊かな自然環境、森林資源などを活用し「森で学ぶ」をコンセプトに、生徒の「生きる力」を地域とともに育む<ゼロ・カーボン・ハイスクール>を目指す。

■新学科教育活動の概要

持続可能な社会と琵琶湖に根ざした暮らしの創造、人と自然が共存する循環型社会構築に資する人材育成を図る。また、地域の森林資源などを活かしたまちづくりに関わり、地域活性化との相乗効果を目指す。

- ・「森・川・里・湖」が水系でつながる滋賀北部ならではの学び
- ・地域内外の専門家と協働した循環型社会に関する実践的な学び
- ・地元地域や長浜市など地域と連携した学び

⑤ 新学科で育てたい人材像

新学科で育てたい人材像について、学校全体のポリシーも含め以下の通り検討を行った。

■伊香高校全体のグラデュエーション・ポリシー

- ・教育基本法の本質に則り、将来の地域社会に貢献しうる、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成します。
- ・地域の未来を創造し、持続可能な地域社会を支える環境未来人材を育成します。
 - ▶ 夢を描き、進路目標を実現する「自己実現力」
 - ▶ 自己の思いを伝えながら、他者の多様性を理解する「コミュニケーション力」
 - ▶ 人や地域と協働し、新たな創造に向かう「課題解決力」
 - ▶ 未知の困難に柔軟に対応し、あきらめない「レジリエンス力」

加えて、新学科ならではの育てたい人材像

- ・人と自然が共存する循環型社会構築に資する「過去と未来を思いやる力」
- ・森林や自然との関わりを通して磨く「洞察力」と「感受性」
- ・わからないことを楽しむ「好奇心」

→ 個の力 × しなやかさ × 他者への想像力 = 新学科で育てる「生きる力」

⑥ 新学科の学びに関するキーワードと大切にしたい要素

校内担当者での議論や運営指導委員会、カリキュラム分科会での助言などを踏まえ以下の通り検討した。

- ・学習内容：森林、循環、持続可能性、再生可能エネルギー、自然資源、地域資源
- ・学習方法：鳥の目虫の目、上流から下流まで、温故知新、身体を動かす、探究とコミュニケーション

また、新学科立ち上げに関する第1回運営指導委員会でもいただいたコメントも参考にしつつ、

新学科で大切にしたい学びの要素を以下の3点と考えている。

1. 現場主義 : 実際にフィールドへ出て体験・実践することを大切にする。
2. 地域連携 : 地域の実践者を講師として迎える、地域の団体と協働して授業を進める等、地域連携を大切にする。
3. 理論と実践 : 現場での体験・実践の前後に座学の時間を設ける等、理論と実践のつながりを意識した活動を大切にする。

⑦ 新学科の学校設定教科・科目

3年間で履修する全90単位のうち、10単位を新学科独自の「学校設定教科・科目」として設定予定。各学年で検討している学校設定教科・科目は以下の通りである。

○1年生

「森のキホン」：年間2単位

森林をきっかけに自然環境や森林文化に関する知識を学ぶ。

→森林を広い視野から客観的にみる。

○2年生

「森の恵み」：年間2単位

森林資源や空間の活用方法について、伝統的なものから最新の動向も踏まえて学ぶ。

「持続可能な社会」：年間2単位

再生可能エネルギーや省エネ、環境問題等について、滋賀ならではのMLGsの視点も取り入れながら学ぶ。

→身体を使いつつ森林や持続可能性というテーマと自身との関係性を確かめる、試してみる。

○3年生

「森の未来創造」：年間4単位

2年間の学びをベースに、個人やグループで課題を設定し実践する。

森林をテーマに、課題の設定・探究・表現活動を行う。

→自分がアクションすることを通して、3年間の学びをまとめる。

○「総合的な探究の時間」との連携

「総合的な探究の時間」の活動においても、学校設定科目と関連した授業を行う。

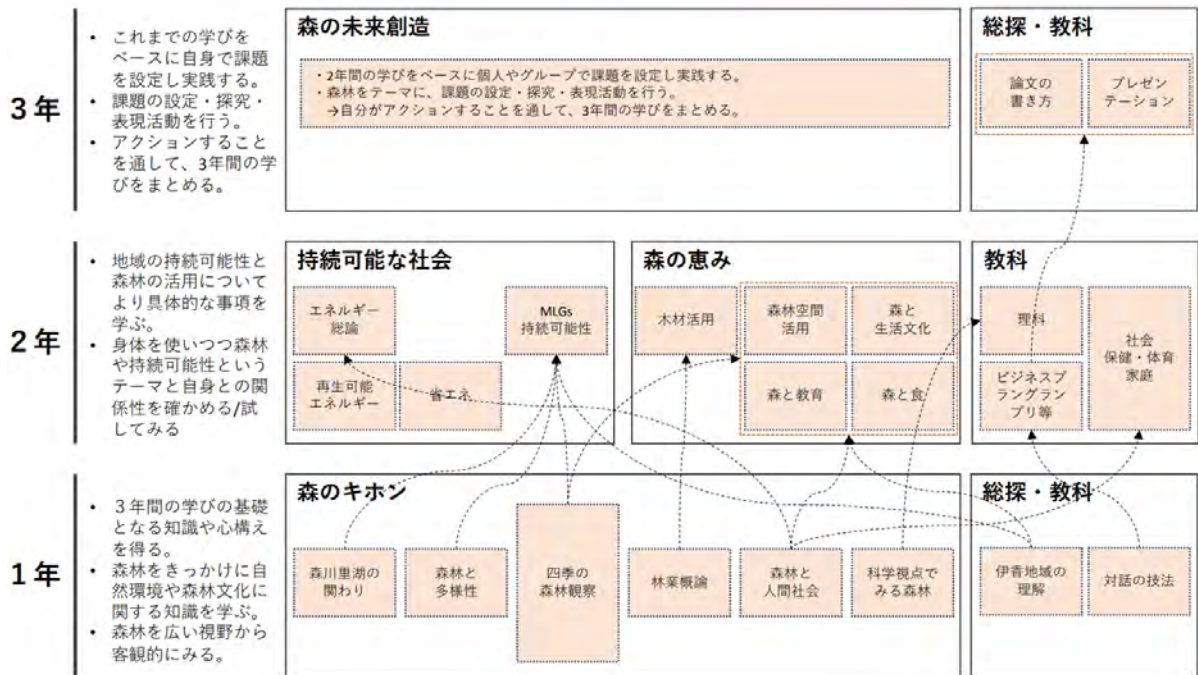
(授業例)

- ・1年生：木之本・伊香地域の理解、地域の方へのインタビュー方法、など
- ・2年生：森林資源をテーマとしたビジネスプランの作成、ビジネスプラングランプリ等への参加、など
- ・3年生：プレゼンテーションや論文執筆方法といった情報をまとめる活動、総合型選抜に対応した進路指導、など

○その他授業との連携

国語・英語・数学・理科・社会の5教科、また体育や美術、家庭等の教科とも森林資源や再生可能エネルギー、地域の生活文化や歴史を題材とした授業を行うなど、一部連携した授業を検討している。

カリキュラム全体の関係性をまとめると以下の通りとなる。



学校設定教科での学びが特殊で別枠のものとならないよう、それぞれの単元の配置を工夫して教科の学びと関連付け、融合したものとして理解が深められるようにする。また、「総合的な探究の時間」における「自己理解探究」で獲得した視点やスキルを学校設定教科の学びで活用できるようにし、3年次の「森の未来創造」での課題設定・探究・表現活動においてまとめていく。

⑧ 卒業後想定する進路

進学から就職まで幅広く、個々の生徒の希望に応じて対応する。

- ・進学希望者は、総合型選抜の機会を積極的に活用。文理を問わず進学できるよう準備する。
- ・就職希望者は、地元企業を中心に就職を支援する。
- ・地方公務員（初級）希望者には、試験対策講座を設ける。

⑨ 実施教育課程

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	国語		数学			英語			地理 歴史	理科	保健 体育		芸術	情報	森の キホン	総探														
2年	国語	数学		英語			地理 歴史	公民	理科		保健 体育	家庭	持続 可能な 社会	森の 恵み	L H R															
3年	国語	数学	英語	地理 歴史	理科			保健 体育	選択	森の未来創造		総探																		

※網掛け：「森の探究科」ならではの特色ある学び

※総探：総合的な探究の時間

※選択：生徒の希望進路等により選択

課題

- ・今年度は、新学科の学校設定教科を考えるにあたって、2年生の類型授業や3年生の「総合的な探究の時間」を使って先行授業を実施したが、授業として試行的な要素が大きく、評価指標を十分検討できないままの実施となってしまった。

次年度計画への反映方針

- ・先行実施授業が新学科内の学校設定教科で系統的なものとなるようにイメージしながら次年度の授業内に位置付け、評価指標を協議していく。

⑩ 成果目標アンケート

実施日：令和6年1月31日（水）

対象：2年生（99名）

※先行実施授業を主に実施した学年でアンケート調査をした。

■成果目標アンケートの結果

	質問項目	肯定的評価
質問1	今年度の学校魅力化事業において、様々な地域の方々と協働した学習をしました。これから「地域における課題と関わりたい」「地元に貢献したい」と思いましたか。	84.1%
質問2	これまでの「地域をフィールドとした学び」を通して、その学びを実生活や卒業後に応用してみたいと思いますか。	80.5%
質問3	（自然環境類型）環境Ⅰの授業や校外学習を通して、森林環境とエネルギーの問題が、自分たちの身の回りの生活に大きく関わっていることを理解できましたか。	85.7%
質問4	（自然環境類型）環境Ⅰの授業や校外学習を通して、地域における森林環境とエネルギーの問題に対して、自分自身で何ができるかを知りましたか。	90.5%

（2） 管理機関による事業の実施体制や管理方法

本県では、令和4年度から概ね10年から15年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのため、県立高等学校の在り方について全県の視野で基本的な考えを示す「これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針」を令和4年3月に策定した。令和5年3月には、この「基本方針」に基づき、全県の視野から各県立高等学校の魅力化の方向性を示す「滋賀の県立高等学校魅力化プラン」を作成し、各県立高等学校の魅力化の取組を推進している。

この「魅力化プラン」において、地域連携重点校に指定した普通科高等学校（13校指定）による「地域連携重点魅力化連絡会議」を令和6年1月23日に開催し、各高等学校の取組の進捗状況および目標の到達・達成状況を点検・評価するなどして、「魅力化プラン」の進捗を確認した。この連絡会議の場で、伊香高等学校は新学科設置に向けた取組状況等を発表し、本事業の効果的な実施を推進するとともに、グループ別の意見交換を通して、地域連携の取組を進める上での課題の共有と成果の普及を図った。

伊香高等学校は、地域の専門家と協働し、森・川・里・湖がつながる県北部ならではの学びの実施と、地域をフィールドに「地域の人々や文化的資源」と「生徒の興味関心や進路希望」をかけ合

わせた多様な地域探究の学びに取り組む地域連携重点校として、いち早く自然環境等の地域資源を活用した県北部ならではの学びに取り組み、普通科の特色化に向けたカリキュラム等の検討を行っており、かつ関係機関や市町等の協力体制など取り組みやすい条件が整っていること等から、新学科設置に向けた研究を進めた。

事業の実施にあたっては、高校教育課魅力ある高校づくり推進室が事務局を担当し、室長1名、参事1名、主担当として主査1名、主任主事1名をその任に充て、学校の支援を行ってきた。適宜、伊香高等学校に出向き、モデル授業の参観や取組を推進する上での諸課題の解決に向けた協議を行うとともに、3回開催した運営指導委員会では、事業の進捗状況や成果をその都度確認し、外部有識者による指導・助言・評価を行うことで、以後の事業運営に役立ててきた。令和6年度も高校教育課内の体制を継続し、学校の取組を支援していきたい。

令和6年1月に実施した中学校等卒業予定者の進路志望調査では、伊香高等学校への志望者数は前年同期調査と比較して増加した。長浜市内10中学校やそれ以外の中学校から伊香高等学校への志望者数の変化等を分析し、新学科の地域への広報や魅力づくりについて長浜市教育委員会等の協力も得ながら検証し、令和6年度以降の周知活動に努める。

■協議や先行実施授業等への参加状況

活動日程	活動内容
R5. 5/ 1	・今年度の取組について協議
R5. 6/19	・取組を推進する上での諸課題の解決に向けた協議
R5. 7/ 3	・運営指導委員を委嘱
R5. 7/18	・第1回運営指導委員会 ▶ 授業参観、今後の方向性や事業に関する指導・助言
R5. 8/24	・びわこ成蹊スポーツ大学を訪問 ▶ 大学と連携したスポーツ教育について協議
R5. 8/30	・伊香高等学校の校内研修会に参加 ▶ カリキュラムの検討状況や新学科の名称等について
R5.10/ 3	・伊香高校魅力化コンソーシアム第1回準備会議に出席 ▶ コンソーシアム構築に向けた協議
R5.10/12	・伊香高等学校の地域を教育資源としたモデル授業を参観 ▶ 森林等の自然環境を活用した体験学習
R5.10/30	・伊香高校の遠隔授業を参観 ・新学科に関する協議
R5.11/21	・「長浜市北部地域における県立高校魅力化検討委員会」に出席 (きのもと交遊館) ▶ 伊香高校の魅力化について
R5.11/30	・第2回運営指導委員会 ▶ 事業に関する指導・助言
R5.12/14	・長浜市教育委員会訪問 ▶ 学校改革について周知ならびに協議
R5.12/14, 15	・伊香高等学校の環境教育に関するモデル授業を参観 ▶ 断熱改修ワークショップ
R5.12/25	・伊香高校魅力化コンソーシアム第2回準備会議に出席 ▶ コンソーシアム設立にあたって・名称、参画団体、規約案の協議

R6. 1/23	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携重点魅力化連絡会議 ▶ 地域連携の取組を進める上での課題の共有と成果の普及
R6. 3/23	<ul style="list-style-type: none"> ・伊香高等学校魅力化シンポジウム ▶ 成果発表、コンソーシアム発足 ・第3回運営指導委員会 ▶ 今年度の取組に関する総括的な指導・助言

課題

- ・伊香高等学校では、先行実施授業や地域をフィールドとした探究的な学びを数多く実施されたが、それらの取組全てに立ち会うことができなかった。

次年度計画への反映方針

- ・新学科での学びがより充実したものとなるよう、月1回以上は伊香高等学校に出向き、取組を推進する上での諸課題の解決に向けた協議を行うとともに、生徒の活動発表や外部講師によるワークショップ等の学習活動に立ち合い、成果や改善点を校長やプロジェクトリーダー、コーディネーター等と協議を行いながら進め、事業管理を行う。
- ・令和6年1月に実施した中学校等卒業予定者の進路志望調査では、伊香高等学校への志望者数は前年同期調査と比較して増加した。長浜市内10中学校やそれ以外の中学校から伊香高等学校への志望者数の変化等を分析し、新学科の地域への広報や魅力づくりについて長浜市教育委員会等の協力も得ながら検証し、令和6年度以降の周知活動に努める。

(3) 高等学校における事業の実施体制や管理方法

本校では令和4年度より地域連携実践モデル校として地域と連携した取組を進めてきた。今年度は、取組の基盤となる組織や仕組みづくりをすることを主眼に、以下の項目を実施した。

■校内での取り組み

- ・校内校務分掌において、研究事業推進の事務局として、教務課内に森の探究科推進室（プロジェクトチーム）を組織。室長、県コーディネーター、市コーディネーターを中心に、教務主任、各類型主任が所属。
- ・コーディネーターを校務分掌に位置付け役割を明確化するとともに、職員室内に専用のデスクを配置。
- ・コアメンバー（推進室長＋コーディネーター）は、週1回60-90分程度の進捗確認会議を実施し、情報共有と実施事項を確認。
- ・地域の実践者をカリキュラムアドバイザーとして任命し、地域と連携したカリキュラム内容構築に向け専門的助言を受ける。
- ・職員会議等にて事業内容の共有を図るとともに、新学科設立に関連した教員向けの研修を年3回実施。
- ・運営指導委員会等の会議資料や議事録を教員向けに共有。職員室内に簡易の情報掲示スペースを設ける。
- ・新学科設立に伴う既存普通科の新類型内容の検討。

■運営指導委員会の開催

- ・運営指導委員会を年3回実施。大学教員、新学科に関連した実践者、地域の自治体・事業者等からなる委員より助言を受ける。

- ・助言の内容を踏まえ、新学科のコンセプトやカリキュラム内容を検討。

■コンソーシアム準備会議・設立総会の開催

- ・本校では、コンソーシアムの母体となるような会議体がなかったため、年度内のコンソーシアム立ち上げに向けた準備会議を2回実施。地元自治体、地域づくり協議会、同窓会が参加。コンソーシアムの構成や規約、名称についての議論を行う。
- ・新学科カリキュラムについては、先行して分科会を立ち上げ会議を実施。2回目は書面開催で会議を行い、意見を集約した。
- ・2024年3月23日にコンソーシアムを正式に立ち上げた。立ち上げに向け、想定する参画団体を個別訪問し説明を実施した。

課題

- ・令和4年度より地域と連携した取組を先行して実施しているが、授業ごとの散発的な連携となっており、1年生～3年生というタテの積み重ねや教科を超えたヨコの連携等、全体のカリキュラム・マネジメントについては今後の課題であると考えている。
- ・校内は、新学科推進室が中心となり定期的な活動が実施できているものの、校外との連携については組織的な動きができていない。

次年度計画への反映方針

- ・令和7年度の新学科立ち上げに向け、次年度は特にカリキュラム内容のさらなる精緻化と、地元地域住民や中学生向け、また広く県内への広報活動が重要になると考えている。
- ・教科や類型を横断したカリキュラム・マネジメントについては、既存の学習指導委員会等の組織での対応を検討する。
- ・また、校外連携については、新たに立ち上げるコンソーシアムの理事会と分科会の運営を通じた公式な情報共有・協議体制の構築を行っていく。

(4) 運営指導委員会の体制および取組

運営指導委員会では、活発な議論が行われ、学校が求めるカリキュラム検討やコンソーシアム構築等における大切な視点について、多くの指導・助言をいただいた。事前に資料を配付することで、日程が合わず当日欠席の運営指導委員からも指導・助言をいただき、運営指導委員会当日に紹介することができた。運営指導委員の専門的な立場からの様々な指導・助言は、学校としても貴重であり、令和6年度も引き続き、年3回は運営指導委員会を開催していく。

■運営指導委員会の体制

氏名	所属
平岡 俊一	滋賀県立大学環境科学部 准教授
岳野 公人	滋賀大学教育学部 教授
山本 綾美	里山実験室 HareMori 森づくりコーディネーター
三浦 豊	森の案内人 合同会社 NiwaMori 代表社員
高橋 康之	高橋金属株式会社 代表取締役社長
久木 裕	株式会社バイオマスアグリゲーション 代表取締役
中嶋 克之	長浜市未来創造部 部長

■運営指導委員会の取組

	開催日	内容
第1回	R5. 7/18	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観 ・今後の方向性や事業に関する指導・助言 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 育成を目指す生徒像について ▶ 卒業後の進路イメージについて ▶ 育成を目指す生徒像を踏まえたカリキュラム構成について ▶ 学校内外での連携体制について <p style="text-align: right;">など</p>
第2回	R5.11/30	<ul style="list-style-type: none"> ・事業に関する指導・助言 <ul style="list-style-type: none"> ▶ コンソーシアムなど地域との協働体制について ▶ 新学科カリキュラムの更なる充実について ▶ 広報活動など新学科の打ち出し方について <p style="text-align: right;">など</p>
第3回	R6. 3/23	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組に関する総括的な指導・助言 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 伊香高等学校魅力化シンポジウムについて ▶ 次年度の取組について <p style="text-align: right;">など</p>

課題

- ・年3回開催して、事業の進捗状況や成果を確認し、適宜、事業の評価を行うことで、以後の事業運営に役立てるよう努めてきた。一方、学校と十分打ち合わせの時間を取れないこともあり、今後学校が求める指導・助言等を、より十分にいただけるように準備を進める必要がある。

次年度計画への反映方針

- ・運営指導委員会の開催にあたっては、学校の進捗状況等をしっかり確認しながら進めていく。

(5) コンソーシアムの体制および取組

伊香高校の魅力化活動の目標である「伊香高校と地域がともに未来を創る」ことを実現するため、高校と地域の諸団体が連携するための基盤となる組織としてコンソーシアムを位置付ける。

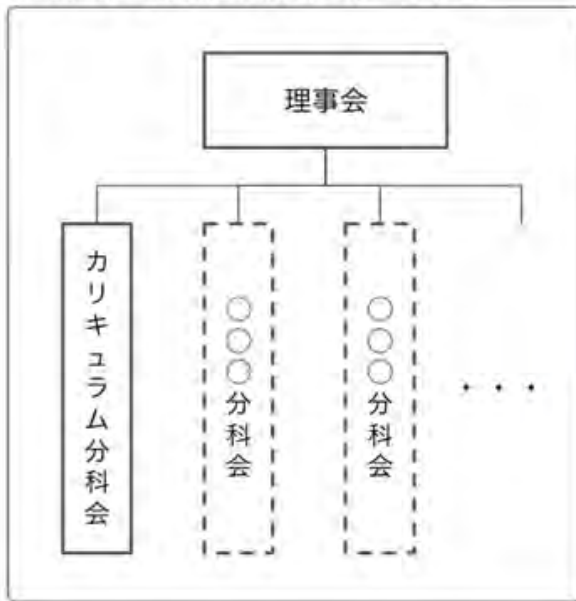
具体的には：

- ・学校と地域の協働に関するビジョンや学校経営の基本方針等について協議・共有し、必要に応じて承認等を行う。
- ・「生徒たちがどのように育ってほしいのか、高校として何を実現していくのか」という、目標や活動方針が話し合われる場として運営する。
- ・また、その議論の前提として、「高校の所在する伊香地域がどのようにあってほしいか」という地域の未来についても思いが共有される場にする。

コンソーシアムの運営を通して、「高校を核とした地方創生」の実現を目指す。

コンソーシアムは全体の方向性を検討する「理事会」と、個別の事案について検討する「分科会／ワーキンググループ」の2階層制とする。

仮称) 伊香高校魅力化コンソーシアム



◎目標◎
「伊香高校と地域がともに未来を創る」

学校経営の
方針

育てたい
生徒像

地域の
ありたい姿

■理事会参画団体 (敬称略)

- ・旧伊香郡地域の各地域づくり協議会 (高月、杉野、高時、木之本、伊香具、余呉、西浅井)
- ・長浜市商工会
- ・長浜市
- ・長浜市教育委員会
- ・滋賀県教育委員会
- ・伊香高校同窓会
- ・伊香高校 PTA
- ・伊香高校学校運営協議会
- ・伊香高校

「分科会／ワーキンググループ」は必要に応じて設置し、活動内容を理事会にて報告する予定である。現時点では、新学科カリキュラムに関する分科会を設置し開催した。人数や参加団体を規約で規定せず、柔軟な運営を行う。

課題

- ・コンソーシアムは令和5年度中に立ち上げたが、本格的な運営は令和6年度からとなる。まずは運営を軌道に乗せること、またしっかりと動きのあるコンソーシアムとなるよう協議体制をつくるのが課題となる。
- ・コンソーシアム参画団体が多いため、会議以外の場においても各団体とコミュニケーションを意識的にとっていく必要がある。
- ・コンソーシアムと学校運営協議会の位置付けが重複する部分があるため、役割の明確化が必要である。

次年度計画への反映方針

- ・コンソーシアム事務局としての機能を学校内部に構築していく必要があり、推進室の体制強化や校務分掌での位置付けなどを検討していく。

- ・地域の団体との連携において、特に地元自治体とどのような協力関係で実施していくか協議していきたい。
- ・コンソーシアムと学校運営協議会については、将来的に統合していくことを検討する。時期などを協議していく。

(6) コーディネーターの配置および活動内容

令和5年度は、本事業に関連したコーディネーターとして、県より中山氏、長浜市より地域おこし協力隊の制度を活用して副島氏が勤務にあたった。それぞれ活動時間は週3日程度であった。

2名は校務分掌において、教務課内「森の探究科推進室」に所属し、教員と連携し業務を行った。

中山氏は、主に学校外部との関係構築や事業推進、新学科カリキュラムの検討を担当、副島氏は、学校内部での関係構築や「総合的な探究の時間」と関連させた事業推進を主たる担当として領域を分けるが、定例会議等で密に情報交換しながら一体的に事業が推進されるように留意してきた。

中山氏は、高校担当者と協働し、主に事業全体の企画立案やコーディネートを実施した。コンソーシアムマネージャー的な役割として、コンソーシアム立ち上げに向けて行政や民間事業者、地域組織など多様な主体との調整を実施した。また、新学科のコンセプトやカリキュラム内容の検討においても取りまとめとしての役割をし、教員や地域の専門家とともに新学科の内容を検討してきた。

■主な実施事項

- ・コンソーシアムの運営方法や活動内容の検討
- ・コンソーシアム立ち上げのための各主体との調整、準備会議の運営
- ・教員や地域、専門家と連携した新学科コンセプトやカリキュラム検討
- ・地域向けの情報発信、特に季刊の紙媒体「伊香高通信」の発行

副島氏は、主に学校内で活動し、各担当教員と連携しながら、新学科のカリキュラム検討に関連した「総合的な探究の時間」の授業や、地域の各種主体と連携した授業などの実施、ウェブサイトやSNS等を活用した情報発信等を行った。

長浜市の委嘱する地域おこし協力隊としての活動ではあるが、その業務管理においては、長浜市と伊香高校が協働して実施。職員室内にデスクを置き、半常駐型での勤務を行った。

■主な実施事項

- ・新学科に関連した「総合的な探究の時間」の授業内容検討、実施支援
- ・アントレプレナーシップ教育に関連した特別授業の実施
- ・地域の事業者や活動家との対話の機会づくり
- ・ウェブサイトやSNSでの情報発信

■コーディネーターの勤務記録

	中山コーディネーター		副島コーディネーター	
	時間数	主な取組事項	時間数	主な取組事項
4月	-	-	140	・「総合的な探究の時間」調整、設計、実施 ・学校広報

5月	-	-	110	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」調整、設計、実施 ・学校広報 ・学校パンフレット作成諸調整
6月	64	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム立ち上げに関する調査、資料作成 ・地域連携授業の準備 	110	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」調整、設計、実施 ・学校広報 ・学校紹介動画作成
7月	82.5	<ul style="list-style-type: none"> ・新学科カリキュラムの大枠検討、準備備品等の検討 ・コンソーシアム立ち上げの方向性等の確認 ・地域連携授業の企画運営 ・先進校訪問 など 	110	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」調整、設計、実施 ・特別時間割 授業調整、設計、実施 ・学校広報 ・中学生体験入学準備
8月	68	<ul style="list-style-type: none"> ・広報資料の作成 ・コンソーシアム立ち上げ準備 ・教員研修企画運営 など 	100	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」調整、設計 ・課外活動の伴走 ・魅力化研修にむけた準備 ・学校広報 ・体験入学準備、実施
9月	65	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム立ち上げ準備 ・先進校訪問 など 	130	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」調整、設計、実施 ・課外活動の伴走 ・学校広報
10月	71	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム分科会準備と実施 ・新学科に関連した試行授業準備 など 	120	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」調整、設計、実施 ・課外活動の伴走 ・学校広報
11月	90	<ul style="list-style-type: none"> ・新学科カリキュラムの大枠内容検討 ・コンソーシアムに関連した地域各団体への説明 など 	140	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」調整、設計、実施 ・課外活動の伴走 ・学校広報 ・普通科類型の紹介動画作成
12月	88	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム立ち上げ準備 ・地域と連携した授業の企画運営 など 	100	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」調整、設計、実施 ・特別時間割 授業調整、設計、実施 ・学校広報 ・事業報告書作成
1月	46	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム立ち上げ準備 ・シンポジウムの開催準備 ・事業報告書の作成 など 	100	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」調整、設計 ・学校 SNS ・新学科広報方針調整 ・事業報告書作成

2月	50	・コンソーシアム関連資料の作成、各種団体との連絡調整、依頼まわり ・カリキュラム分科会のとりまとめ など	100	・「総合的な探究の時間」調整、設計 ・学校 SNS ・新学科広報紙作成 ・事業報告書作成
3月	70	・コンソーシアム設立総会資料作成 ・シンポジウム資料作成 ・次年度に関する打合せ など	100	・次年度「総合的な探究の時間」設計 ・学校 SNS ・次年度学校案内作成

課題

- ・新学科の立ち上げだけでなく、既存の普通科も含めた学校全体の魅力化を行っていく必要がある。コーディネーターの関わる業務範囲が多岐にわたる。注力分野を決める必要がある。
- ・令和6年度は、新学科の開設準備を本格的に行う必要がある。推進室においても新学科のカリキュラムに関する専門性を高める必要がある。

次年度計画への反映方針

- ・教員とコーディネーターの担当分野や範囲を徐々に明確にし、より多くの教員に探究的な授業や地域連携に関わってもらえるようにする。
- ・新学科のキーワードである「森林資源」や「自然環境」、「持続可能社会」に知見を持つ地域人材に関わってもらいやすい体制づくりを行っていく。
- ・新学科の学校設定教科・科目を主に担当する理科教員の体制強化を検討する。

(7) 新学科の設置及び設置に向けた検討状況・関係者への説明の実施状況

■伊香高等学校

新学科設置は令和7年度を予定しており、中学生向けの広報活動は令和6年度から本格的に実施していく予定である。

それに先駆け、地域向けの広報活動を、以下の通り実施し始めたところである。

- ・季刊発行予定の「伊香高通信」を作成し、旧伊香郡地域の自治会に配布した。地元自治会へは全戸配布、その他地域は回覧板での回覧をお願いした。主に地域連携や新学科に関する内容を掲載している。
- ・公式フェイスブックとInstagramのアカウントを開設し、地域の方向けに学校の活動や日常風景を発信した。
- ・学校魅力化プロジェクト「伊香高 Go Beyond プロジェクト～超えてゆけ～」の説明パンフレットを作成し、シンポジウムや会議等のタイミングで校外の方に向け配布した。

また、2024年3月23日には、主に地域の方を対象とした、第2回伊香高シンポジウムを実施した（生徒による活動報告や学校魅力化の内容共有）。

また、コンソーシアム設立に合わせて、以下の団体に対して学校の取組について説明した。

- ・旧伊香郡地域の各地域づくり協議会（高月、杉野、高時、木之本、伊香具、余呉、西浅井）
- ・長浜市商工会
- ・長浜市
- ・長浜市教育委員会

課題

- ・地元地域からは、より積極的な情報発信を求める声があり、新学科や学校魅力化の取組に対する理解が広がっていない現状がある。
- ・新学科については、既存の普通科類型や専門学科との違いが分かりづらく、丁寧な説明やアピールポイントの整理が必要である。

次年度計画への反映方針

- ・ウェブサイトだけでなく、紙面やメディアを活用した学校の取組についての広報活動を継続的に行っていく。
- ・新学科に特化した広報資料や説明会の開催等、情報共有について地道に取り組んでいく。

■管理機関

管理機関として、伊香高等学校が所在する長浜市教育委員会には、伊香高等学校では新学科「森の探究科」のカリキュラム研究等を行っていることを説明した。あわせて、令和7年度設置予定であることから、特に現中学2年生を対象に市内中学校等への周知や、必要に応じて県教育委員会や伊香高等学校から中学校長会進路指導主事会に出向いて新学科の説明をさせていただくこと等をお願いした。令和5年度末には、新学科に関する広報チラシを作成し、近隣中学校を中心に周知活動に努める。

新学科「森の探究科」の設置は令和7年度を予定しており、本格的な広報活動は令和6年度より実施する。管理機関においては、県教育委員会のホームページはもちろん、保護者向け情報誌「教育しが」や、県立高等学校の魅力や特色を知っていただくための「滋賀県立高等学校デジタルスクールガイド」を活用し、生徒・保護者・地域への情報発信を行いたい。また、長浜市公報にも掲載をいただくとともに、地域密着型生活情報誌に高等学校教育改革の特集の掲載を依頼していきたいと考えている。

また、長浜市を中心とした中学生・保護者・地域住民を対象とした「学校説明会」を県教育委員会が主催して、新学科について説明を行うことを考えている。学校は夏季休業期間を活用して中学生や保護者に向けたオープンハイスクールを実施し、新たな学科の設置について魅力を発信していく。

令和6年1月に実施した中学校等卒業予定者の進路志望調査では、伊香高等学校への志望者数は前年同期調査と比較して増加した。長浜市内10中学校やそれ以外の中学校から伊香高等学校への志望者数の変化等を分析し、新学科の地域への広報や魅力づくりについて長浜市教育委員会等の協力も得ながら検証し、令和6年度以降の周知活動に努める。

課題

- ・伊香高等学校での新学科設置に向けた検討状況は、長浜市教育委員会や県議会等に適宜説明してきた。令和6年2月6日に「滋賀県立学校の校舎、課程、部および学科等の設置等に関する規則（滋賀県教育委員会規則第5号）」改正を行ったところであり、本格的な周知活動は、令和6年度から実施する。

次年度計画への反映方針

- ・県教育委員会のホームページはもちろん、保護者向け情報誌「教育しが」や、県立高等学校の魅力や特色を知っていただくための「滋賀県立高等学校デジタルスクールガイド」を活用し、生徒・保護者・地域への情報発信を行いたいと考えている。
- ・長浜市公報にも掲載をいただくとともに、地域密着型生活情報誌に高等学校教育改革の特集の掲載を依頼していきたいと考えている。

- ・長浜市内 10 中学校やそれ以外の中学校から伊香高等学校への志望者数の変化等を分析し、新学科の地域への広報や魅力づくりについて長浜市教育委員会等の協力も得ながら検証し、令和 6 年度以降の周知活動に努める。

(8) 管理機関における事業全体の成果検証、評価

令和 4 年度末に公表した「魅力化プラン」の中で、本県の普通科高等学校 29 校のうち地域連携重点により魅力化を図ることを推進する 13 校で、「地域連携重点魅力化連絡会議」を令和 5 年度から開催することとした。今年度は、令和 6 年 1 月 23 日に 1 回開催し、連絡会議の場で伊香高等学校は新学科設置に向けた取組状況等を発表し、普通科改革の推進のための必要条件を探る中で事業全体の成果検証を行った。連絡会議は定期的に開催することを予定しており、令和 6 年度も引き続き開催する。

あわせて、年 3 回の運営指導委員会によって事業の進捗状況や成果を確認し、事業の評価を行うことで、以後の事業運営に役立てた。運営指導委員会では、学校が求めるカリキュラム検討やコンソーシアム構築等における大切な視点について、多くの指導・助言をいただいた。運営指導委員の専門的な立場からの様々な指導・助言は、学校としても貴重であり、令和 6 年度も引き続き、年 3 回は運営指導委員会を開催していく。

令和 4 年度滋賀県教育研究事業「県立高等学校魅力化推進事業」において、地域連携のためのコーディネーターを伊香高等学校に配置し、炭づくり、薪割り体験や地域住民とのふれあい対談等、地域を教育資源とした地域連携活動に取り組み、現在および将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びの推進と、ICT による学校間連携授業に取り組んでいる。このように、伊香高等学校では、1 年先行して普通科改革の研究を進めてきたこともあり、コーディネーターを中心とした新学科のカリキュラムやコンソーシアム構築等の検討は、令和 7 年度設置に向けて順調に進んでいると評価している。

課題

- ・「地域連携重点魅力化連絡会議」や運営指導委員会の場で、取組の成果について検証・評価いただけてきた。一方、運営指導委員会については、学校と十分打ち合わせの時間を取れないこともあり、今後学校が求める指導・助言等を、より十分いただけるように準備を進める必要がある。

次年度計画への反映方針

- ・運営指導委員会の開催にあたっては、学校の進捗状況等をしっかり確認しながら進めていく。
- ・「伊香高等学校魅力化シンポジウム」や、その他成果発表会等の機会を活用して成果検証・評価を行い、以後の事業運営に役立てる。

(9) 管理機関による支援体制

伊香高等学校の新学科「森の探究科」は、森林管理や木工加工等の実習や森林資源を活用したサービス産業、地球環境や再生可能エネルギー等をテーマとした探究学習に取り組む学科を考えており、木工加工等のための実習室や、学校設定科目に必要な備品等の用意、指導できる教職員の配置が必要である。備品等については、令和 6 年度県事業「『北の近江振興』高校魅力化プロジェクト事業」や「しが CO2 ネットゼロに向けた高等学校の研究取組推進事業」において予算化し、教職員については、事業終了後は、新学科の専門的な学びに対応した特別非常勤講師について検討を始めた。

(10) 成果普及のための取組

■伊香高等学校

伊香高等学校は、中学3年生向けのオープンハイスクールを年2回実施したり、学校のホームページや SNS を活用して様々な活動を掲載し情報を発信したり、伊香高通信を発行したりするなど、地域住民や地元中学校等に向け情報発信を行った。

また、滋賀県総合教育センター主催の「中堅教諭等資質向上研修」が11月21日に実施され、講師として伊香高等学校の教頭とコーディネーター（中山氏）が学校改革の視点から伊香高等学校の取組状況等について講義し取組内容を共有した。伊香高等学校は、研修受講者と同世代の教諭が魅力化推進担当として学校改革に取り組んでいる。同世代が学校の中心となって活躍していることで研修受講者に刺激を与え、中堅教諭等の学校の魅力化・改革推進に対する資質向上、学校改革のボトムアップの力につなげ、他の県立高等学校改革に活かすとともに、伊香高等学校の成果の普及を図った。

また、令和6年1月15日に開催された令和5年度第5回滋賀県総合教育会議では、「県立高等学校の魅力化に向けた、地域・企業・大学と連携した学びについて」をテーマに議論された。この場で、伊香高等学校の校長とコーディネーター（中山氏）が、ゲストスピーカーとして、伊香高等学校でのコーディネーターの仕事や地域と連携した取組内容、そして地域連携による学校改革を進める上で大事にしていること等について発表した。

また、「魅力化プラン」において、地域連携重点校に指定した普通科高等学校（13校指定）による「地域連携重点魅力化連絡会議」を令和6年1月23日に開催し、各高等学校の取組の進捗状況および目標の到達・達成状況を点検・評価するなどして、「魅力化プラン」の進捗を確認した。この連絡会議の場で、伊香高等学校は新学科設置に向けた取組状況等を発表し、本事業の効果的な実施を推進するとともに、グループ別の意見交換を通して、地域連携の取組を進める上での課題の共有と成果の普及を図った。連絡会議は定期的を開催することを予定しており、令和6年度も引き続き開催する。

さらに、2月10日に開催された「北の近江振興 高校生サミット 集え！北の高校生たちよ！」では「地域のエネルギーの未来を考える～エネルギーの地産地消～」をテーマにした1年間の探究活動の成果を発表した。2月18日には、近畿ESD推進ネットワーク地域フォーラムにおいて、ICT教室の断熱改修にご協力いただいたエネシフ湖北のメンバーとともに、その取組について発表した。3月23日には木之本スティックホールで「伊香高等学校魅力化シンポジウム」を開催し、今年度の教育活動の報告や、生徒による地域連携についての研究発表等を行い、伊香高等学校の新学科について、地域の行政機関、企業、中学生、保護者等に向けてメッセージを発信した。

令和5年度から実施している「高校生による【しが】学びの祭典」は、各校で実践した探究的な学びの取組やその成果について発表し、探究的な学びを全県に普及するとともに、同世代の高校生の課題研究の発表を聴くことで、生徒の学問的探究心を養うことを目的としている。令和6年度の「学びの祭典」において、「森の探究科」の学びに関わる研究成果の事例発表を行い、新学科設置を県内の中学生等にアピールしていく。

- ・R5.11/21：県「中堅教諭等資質向上研修」にて取組内容の共有
- ・R5.12/22：愛知教育大学風岡ゼミ視察受け入れ
- ・R6. 1/15：滋賀県総合教育会議での取組内容の共有
- ・R6. 1/23：地域連携重点魅力化連絡会議において地域連携における課題共有と成果普及
- ・生徒による授業内容の発表
 - ▶ R6.2/10：北の近江振興 高校生サミット
（発表テーマ「地域のエネルギーの未来を考える～エネルギーの地産地消～」）
 - ▶ R6.2/18：近畿ESD推進ネットワーク地域フォーラム
（発表テーマ「ICT教室の断熱改修について」）

■管理機関

滋賀県総合教育センター主催の「中堅教諭等資質向上研修」が11月21日に実施され、高校教育課魅力ある高校づくり推進室の参事1名と主査1名が講師として、「これからの滋賀の県立高等学校のあり方について」をテーマに講義した。この研修では、講師として伊香高等学校の教頭とコーディネーター（中山氏）に学校改革の視点から伊香高等学校の取組状況等について講義していただき、取組内容を共有した。伊香高等学校は、研修受講者と同世代の教諭が魅力化推進担当として学校改革に取り組んでいる。同世代が学校の中心となって活躍していることで研修受講者に刺激を与え、中堅教諭等の学校の魅力化・改革推進に対する資質向上、学校改革のボトムアップの力につなげ、他の県立高等学校改革に活かすとともに、伊香高等学校の成果の普及を図った。

また、令和6年1月15日に開催された令和5年度第5回滋賀県総合教育会議では、「県立高等学校の魅力化に向けた、地域・企業・大学と連携した学びについて」をテーマに議論された。この場で、伊香高等学校の校長とコーディネーター（中山氏）には、ゲストスピーカーとして、伊香高等学校でのコーディネーターの仕事や地域と連携した取組内容、そして地域連携による学校改革を進める上で大事にしていること等について発表いただいた。

さらに、「魅力化プラン」において、地域連携重点校に指定した普通科高等学校（13校指定）による「地域連携重点魅力化連絡会議」を令和6年1月23日に開催し、各高等学校の取組の進捗状況および目標の到達・達成状況を点検・評価するなどして、「魅力化プラン」の進捗を確認した。この連絡会議の場で、伊香高等学校は新学科設置に向けた取組状況等を発表し、本事業の効果的な実施を推進するとともに、グループ別の意見交換を通して、地域連携の取組を進める上での課題の共有と成果の普及を図った。連絡会議は定期的を開催することを予定しており、令和6年度も引き続き開催する。

課題

- ・今年度実施した「地域連携重点魅力化連絡会議」では、本事業の指定を受けた学校の取組状況等を発表していただくことで、本事業の効果的な実施と、各校での地域連携の取組や地域社会に関する学科の検討の一層の推進を図った。地域連携の取組を進めるには、コーディネーターの配置や教職員の時間軽減等、予算・人員配置が焦点になりがちだが、それ以外のところも県教育委員会として各校の取組を支援する方策を考えたい。

次年度計画への反映方針

- ・伊香高等学校が行うオープンハイスクールとは別に、県教育委員会として、長浜市を中心とした中学生・保護者・地域住民を対象とした「学校説明会」を主催し、新学科について説明を行うことで伊香高等学校の取組の成果を普及する。

(11) 国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組

■管理機関

- ・国の指定終了後も「地域連携重点魅力化連絡会議」を運用し、関係機関、特に、市町まちづくり主管課と連携を強化したうえで、事業の自走化を図り、「魅力化プラン」の推進に、構築したシステムの普及啓発を行う。
- ・指定終了後もコーディネーターの継続的雇用の必要性があることが想定され、地域おこし協力隊も含め、管理機関である県教育委員会は長浜市と事業指定3年間に協議を重ねる。その際、クラウドファンディングやふるさと納税等を活用した教育活動資金獲得について、研究

を継続し知見を共有する。また、県教育委員会事務局生涯学習課の令和6年度県事業「県立学校地域協働モデル事業」では、モデル的に県立学校に地域コーディネーターを配置し、学校運営協議会と連携しながら地域学校協働活動を推進し、モデル校での取組を検証・事例として活用することにより、県域への普及を目指すこととしており、この事業推進に協力していく。12月15日に開催された令和5年度第2回エコシステム研究会（高校コーディネーターとの協働による高校改革に向けたエコシステム研究会）に参加し、他府県でのコーディネーターの採用・配置に関する状況を学んだ。他府県の取組を参考にして、コーディネーターの継続的雇用の方策を研究していく。

- ・「地域連携重点魅力化連絡会議」を継続して実施することで、「基本方針」に基づき作成した「魅力化プラン」の事業成果の検証を行う。
- ・令和3年度から令和5年度にかけて、彦根工業高等学校においてマイスター・ハイスクール事業（次世代地域産業人材育成刷新事業）を実施した。この事業で培った知的財産を継承するため、令和6年度県事業「シン・マイスター・ハイスクール～地域創生への挑戦～」において予算を確保し、彦根工業高等学校が地域の産業界や彦根市との共創により、地域を活性化させ、自律的で持続的な未来社会を創生できる産業人財を継続的に排出する持続可能な人材育成プログラムを構築することとしている。あわせて、彦根市や彦根地域の企業等から費用も含めた支援を受けながら、長期間を見据えた持続可能な人材育成システムの構築に向けて取組を進めている。同様に、本事業においても、「森の探究科」の学びの継続・充実のための予算確保や、長浜市や地域の企業等から費用も含めた支援も含め検討していく。
- ・県教育委員会内の体制や予算等、伊香高等学校が自走していけるよう必要な支援を継続する。
- ・特別非常勤講師の仕組みを活用して、外部講師による教育内容の充実・継続を図る。

■伊香高等学校・長浜市

- ・地域社会に関する学科の学びの成果や課題に係る調査・分析・検証については、外部機関と連携しながら継続して取り組み、さらなる改善・充実を図る。コーディネーターやコンソーシアム等の関係機関等と学校運営協議会の連携・協力体制を維持、強化しながら、特に長浜市の地域おこし協力隊の制度等を活用したコーディネート人材の活用、ふるさと納税等を活用した教育活動資金獲得など、時代の要請に応じた新たな取組の企画・開発を継続する。

(12) 他の事業との関係

県内における中学生の生徒数減少にともない県立高等学校の小規模化が見込まれることから、令和4年度から県予算において独自に普通科の高等学校を対象とした「県立高等学校魅力化推進事業」を実施している。この取組では、地域の企業や大学、自治体等との調整を行うなど学校と地域をつなぐコーディネートの必要性や、ICTを活用した、小規模の学校間での遠隔授業の日常的な導入に向けた研究に取り組んだ。伊香高等学校を研究校に指定した研究で、地域社会に関する学びの導入や地域社会に関する学科の設置による普通科の魅力化を進めるにあたり、コーディネート人材の必要性がより確かになってきたところである。

遠隔授業の研究については、令和4年度から滋賀県総合教育センターと協力して実施している。伊香高等学校と伊吹高等学校を対象とした取組で、2校の生徒がオンラインで地域探究活動や「化学基礎」の科目で合同授業に取り組んだ。令和6年度は、「森の探究科」での学びを見据えて、県内の農業高校等との遠隔授業を考えている。

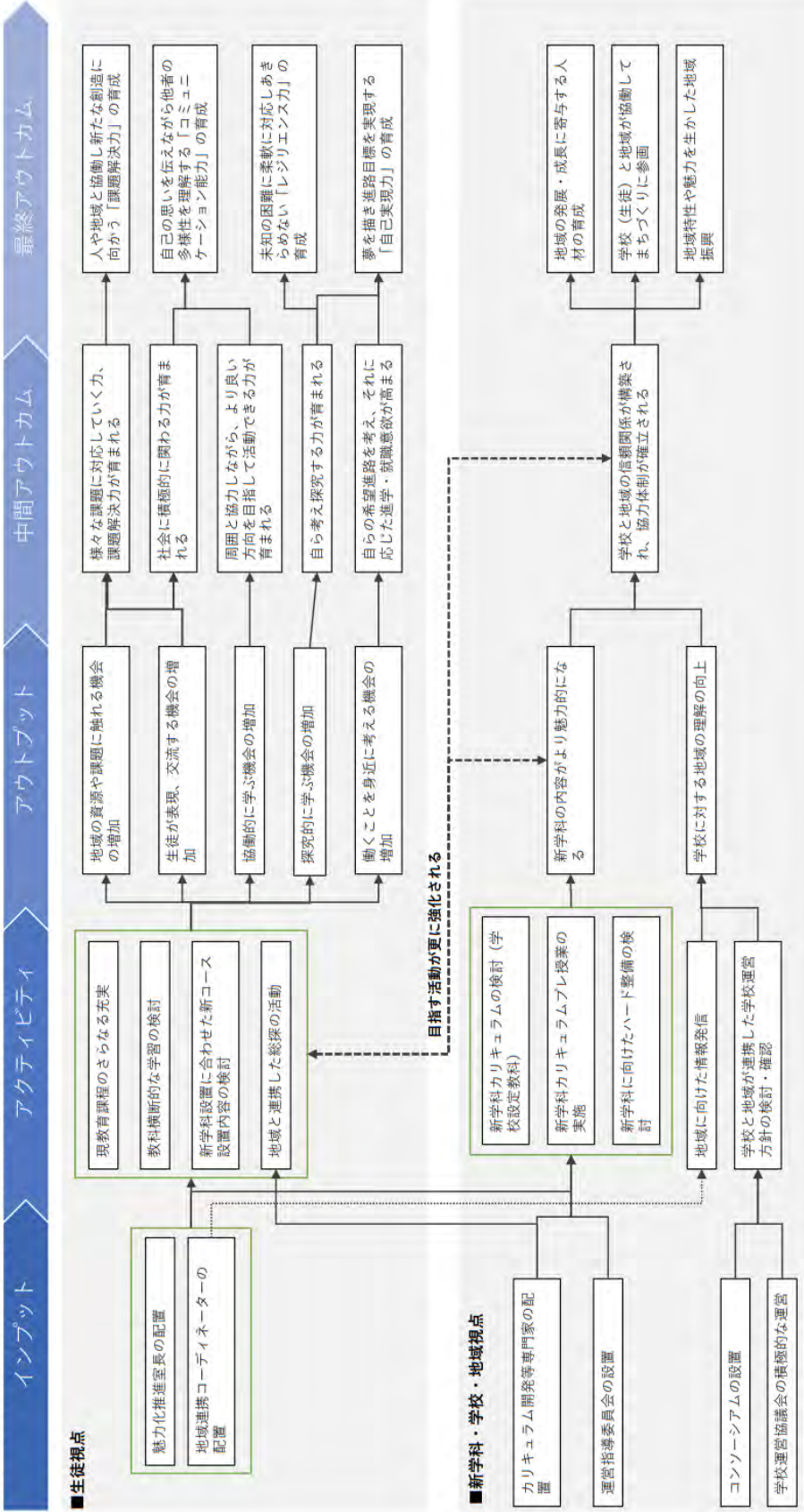
また、令和5年度から県北部地域の高校（伊香高校はその対象）を対象とした「『北の近江振興』高校魅力化推進プロジェクト」を実施している。この取組は、北部地域の高校の魅力化を進めることで、北部地域の高校やそこで学ぶ生徒が、地域で探究的な学びを深めることにより、地域振興に寄与する人材を育成すること、また、高校生が地域課題解決に向けた施策構築や地域振興、

企業に必要な資質「解決したい課題を発見し、その解決方法を共同で検討し、提案・実践する力」を養成することで、未来の北部振興に挑戦する精神の育成、若い世代の育成につなげるとともに、地域に定着し貢献する人材の育成につなげることを目的としている。

「北部ならではの学びの創出」は、県北部地域の豊かな自然環境や森林資源等を活用し、「森で学ぶ」をコンセプトに人と自然が共存する循環型社会構築に資する人材を育成するとともに、地域の森林資源等を活かしたまちづくりにかかわり、地域活性化との相乗効果を目指す取組である。森林資源等の自然環境を活用した炭焼き体験やアウトドアキャンプ実習、また、環境教育の一環として近隣の発電所見学や教室の断熱改修ワークショップ等、新学科設置に向けた様々な取組を実施した。また、県外の先進校も視察し、カリキュラム検討の参考とした。3月23日には木之本スティックホールで「伊香高等学校魅力化シンポジウム」を開催し、今年度の教育活動の報告や、生徒による地域連携についての研究発表等を行い、伊香高等学校の新学科について、地域の行政機関、企業、中学生、保護者等に向けてメッセージを発信した。

令和6年度も引き続き「『北の近江振興』高校魅力化推進プロジェクト」を実施し、北部地域の高校の魅力化を進めたい。

ロジックモデル（滋賀県立伊香高等学校）



第3章 研究開発の内容

3-1 運営指導委員会

■第1回運営指導委員会

<会議の日時等>

開催日時 令和5年7月18日(火) 10:00~11:45 (伊香高等学校 第3会議室)

出席者 【運営指導委員】

久木裕委員 高橋康之委員 岳野公人委員 中嶋克之委員 平岡俊一委員

三浦豊委員 山本綾美氏

【伊香高校 森の探究科推進室】

大森文子校長 二宮良信教頭 箕浦総子事務長 水谷智宏教諭 富山昌彦教諭

中山郁英コーディネーター 副島拓歩コーディネーター

内 容 (1) 「普通科改革支援事業」の取組状況について

(2) 事業に関する指導助言等

<協議要旨>

○資料説明(二宮良信教頭)

別紙参照

<主な意見>

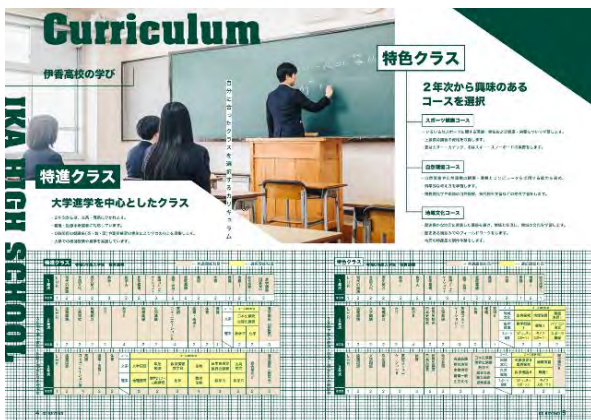
- ・「ゼロカーボン」は、時代とともに変わっていくもの。ニュートラルな視野で学んでいくことが大事ではないか。
- ・今の林業がダメだからゼロカーボンを学ぶという考えではなく、課題を認識し、それに対応した取組が必要だと学ぶことで、その先に仕事生まれてくることもある。
- ・学んだことを仕事にできる仕掛けづくりを、民間と行政が一体となって考えていくことが必要ではないか。
- ・生徒や保護者にとって、新学科卒業後の進路イメージは大事。新学科の学びから社会で生きる力を身に付けられることを、カリキュラムの中から読み取れるようにする必要があるのではないか。
- ・人口減少が進む中、学校、行政、企業等はしっかり連携していく必要がある。例えば、学校であっても地域づくりに参加したり、企業へ提言したり、企業の広報を手伝う等、学校内だけで閉じない体験ができる学びに取り組む必要がある。
- ・学んだことを企業や行政等に提言し、それが実際に社会で生かされていくと生徒たちの自信につながる。
- ・現場主義を徹底することで、座学が苦手な生徒も活躍する場が生み出せる。
- ・新学科の学びは、長浜市が抱える地域課題の学びと重なる。地域の将来像を見据えて、どのような学びが必要か、どんな人材を育成するのか等を、学校と地域が歩調を合わせて検討を進めていただきたい。
- ・山に入って何ができるかをイメージし実践できる人材育成を目指したプログラムを組み込み、「知識」と「技術」を共に習得できるカリキュラムができるといいのではないか。
- ・「この人のようにになりたい」というロールモデルは必要で、市内外問わず「その道のプロ」に協力してもらおう方がいい。
- ・これからの時代に必要な力は「協働力」「コーディネート力」「コミュニケーション力」である。地域には魅力ある人材がたくさんいるので、そういった方々と関わる学びを組み込んだカリキュラムができれば、これらの力の育成が図れるのではないか。生徒たちにとって、魅力的な大人との出会いは何よりの勉強になる。

- ・森での学びを通して、生徒たちは若い感性で何かを感じ取り、みんなで問いを考え、対話することで、コミュニケーション力や協働力も芽生えてくるのではないかな。
- ・人間社会において、常に「森とは何か」が問いとしてある。それを子どもたちに問いかけ、自分の生き方とも照らし合わせながら考えることで、何かを見出してほしい。
- ・「森の探究科」の名称は、林業系の学びがメインに見えてしまう。例えば「森・川・里・湖の探究科」等、森以外のことも学ぶ学科であることが伝わるネーミングになると幅広い人に興味を持ってもらえる。
- ・森林は環境をイメージする。森だけでなく川や湖等も含めた自然環境を活用した学びに取り組む学科であることが伝われば、「森の探究科」という名称でもいいのではないかな。

<会議資料>

- ・令和5年度 伊香高等学校 実施計画書（普通科改革支援事業）
- ・令和5年度 伊香高等学校 新学科構想ビジュアル図
- ・令和5年度 伊香高等学校 学校案内パンフレット 【下記資料】
- ・令和4年度 伊香高等学校 魅力化シンポジウムでの配布資料 【下記資料】

▼学校案内パンフレット



文化クラブ紹介

美術部 Art and Photography (11名)

吹奏部 Brass Band (7名)

ホームライオン部 Home Making (11名)

吹奏部 The Art (Trumpet) (11名)

年間スケジュール Schedule

全学集会 (School Assembly) (11月)

IKA HIGH SCHOOL

IKA HIGH SCHOOL

進路実績 (2021)

進路	人数	割合
大学進学	10	54%
専門学校進学	4	17%
その他	1	8%
その他	4	20%

〒920-0202 石川県白山市伊賀町1-1-1
TEL: 0768-82-4343 FAX: 0768-82-4344
E-MAIL: info@ika-hs.ac.jp

OB,OG's Message

卒業生からのメッセージ

IKA HIGH SCHOOL

ACCESS

石川県立伊賀高等学校

〒920-0202 石川県白山市伊賀町1-1-1
TEL: 0768-82-4343 FAX: 0768-82-4344
E-MAIL: info@ika-hs.ac.jp

▼令和4年度 伊香高等学校 魅力化シンポジウムでの配布資料

やりたいことがはっきりと見えないことをあせらなくても、もがなくても大丈夫。目の前のことを一つ一つこなしていこう。すべての今が、未来をつくるから。

今日の自分を超えていこう。

ぜひ伊香高校の未来をつくる取組みをご支援ください！
ご支援の方法は以下のような方法があります。

- 伊香高校の情報を受けとる**
伊香高校ホームページに最新情報を「お知らせ」として更新しています。ぜひご覧ください。
また、今後フェイスブックやインスタグラムなどのSNSも開設予定です。フォローし情報共有をお願いします。
- 伊香高校生の活動を支援する**
伊香高校では、生徒たちが地域において活動の機会を増やしていきたいと考えています。
地域の先輩として、適切な支援などの指導をお願いします。
- 伊香高校の部活動を応援する**
野球や柔道、テニスなどの今年実施活動が、吹奏楽や美術部などといった文系系部活動など、地域の方の注目や理解が力になります。
引が続き応援をよろしくお願いします。

伊香高校の魅力化

伊香高等学校 “Go Beyond” プロジェクト

超えてゆけ



お問合せ

滋賀県立伊香高等学校
滋賀県立伊香高等学校
〒524-8501 伊香町 1-1-1
TEL: 0749-32-3141
FAX: 0749-32-3142
E-MAIL: ika@ikaga-h.ac.jp
<http://www.ikaga-h.ac.jp/>




伊香部長「三萬一心」の熱い期待のもと誕生した伊香高校。本年度で創立126年、県立移管100周年を迎えました。伊香高校がさらに魅力的な学校になり、これからの未来を描いていくため、魅力化プロジェクトを立ち上げました。これまでも、これからも地域とともに、歩み続けます。

■伊香高 “Go Beyond” プロジェクトについて

「Go Beyond-超えてゆけ-」を合言葉に、高校より魅力的にしていこうと令和4年度にスタートしました。地域の創り出された高校の歴史と伝統に「伊香高校と地域がともに未来を築く」という活動の柱を設定しています。

そのために、学校に関わる「生徒」「先生」「地域」が一体としていかに力があがき、そのような活動をつくっていくために、様々な活動を実施していきます。



■新学科「森の探究科」の概要

森の探究科は、自然環境の保全と持続可能な社会の実現を目指す学科です。自然環境の保全と持続可能な社会の実現を目指す学科です。自然環境の保全と持続可能な社会の実現を目指す学科です。

■新学科「森の探究科」の概要

森の探究科は、自然環境の保全と持続可能な社会の実現を目指す学科です。自然環境の保全と持続可能な社会の実現を目指す学科です。自然環境の保全と持続可能な社会の実現を目指す学科です。

■地域と連携した探究活動

探究活動のさらなる発展のため、伊香高校では地域と連携した活動を展開してまいりました。

令和4年度より必修となった「総合的な学習の時間」の学習を推進させ、生徒たちが地域で学び実践することを通じて「今日自分を見つめて、いくことができる人間を育てたい」と考えています。



■新学科「森の探究科」

教育目標 自然環境の保全と持続可能な社会の実現を目指す。自然環境の保全と持続可能な社会の実現を目指す。自然環境の保全と持続可能な社会の実現を目指す。

■ポイント

探究活動のさらなる発展のため、伊香高校では地域と連携した活動を展開してまいりました。



■第2回運営指導委員会

<会議の日時等>

開催日時 令和5年11月30日(木) 14:00~15:35 (伊香高等学校 第3会議室)

出席者 【運営指導委員】

久木裕委員 岳野公人委員 平岡俊一委員 三浦豊委員

【伊香高校 森の探究科推進室】

大森文子校長 二宮良信教頭 箕浦総子事務長 水谷智宏教諭 富山昌彦教諭

三國莉奈教諭 木谷昌子教諭

中山郁英コーディネーター 副島拓歩コーディネーター

内容 (1) 「普通科改革支援事業」の取組状況について
(2) 事業に関する指導助言等

<協議要旨>

○資料説明(二宮良信教頭)

別紙参照

<主な意見>

- ・ビジネスプラン作成の授業は、学びが仕事につながることを考えられるので良い学びになる。
- ・生徒・先生の移動に係る旅費について、例えばライドシェアに賛成している運行会社等に協力してもらう等、高校改革と地域課題の解決を同時にできればいいのではないかと。
- ・理系寄りのカリキュラムにするならそれでいいが、文系も取り込みたいなら文系的な要素も盛り込んだ方がよい。ビジネスや社会実装を目指した時、純粋な理系だと進路が難しいところがある。
- ・いわゆる「普通の」進路設定だと「普通の」人材しか生み出せない。
- ・「森と地域を突破する」「わくわくを突破する」という感じを盛り込むと、文理関係ない雰囲気になるのではないかと。
- ・カリキュラムに対する「わくわく感」が、もっとあるとよい。例えば、体育でトレイルラン、家庭科でジビエ等も、「森」の特色が出ていいのではないかと。
- ・なぜ森林について学ぶのかの説明が十分でないと、中学生にも社会的にも理解が進みにくいのではないかと。
- ・教職員の負担を少しでも減らすため、地域の施策で使っているリーフレット等を教科書にすれば、新しく教材を準備する手間を省けるのではないかと。
- ・コンソーシアムを2層制にしたのはよい。
- ・コンソーシアムは、背景が違うメンバーで構成した方がいいのではないかと。
- ・コンソーシアムを長期的に維持していくための予算確保として、外部資金の調達についても考えた方がいいのではないかと。

<会議資料>

- ・伊香高校 第2回運営指導委員会 会議資料 【下記資料】
- ・滋賀県立高等学校魅力化に向けた学科改編等実施計画(案) 【下記資料】

2023年11月24日版

1. 2 新学科の立ち上げ

- 新学科立ち上げにともない、「普通科」と「普通科新学科」の2学科体制となる予定。
 - 編成としては普通科2クラス、普通科新学科1クラスの3クラスを予定。
 - 普通科内のコース編成については現在検討中（イメージは下記）。

現在のクラス編成



R7からのクラス編成



1. 3 伊香高校コンソーシアムの位置づけ

コンソーシアムとは？

伊香高校の魅力化活動の目標である「伊香高校と地域がともに未来を創る」ことを実現するため、町村やその市町村が所属する小・中学校等、地域の企業、高等教育機関、研究機関、高等学校等の教育活動を支援する団体等が、計画的・持続的に連携・協働を図るための協議体です。（文部科学省資料より）

- 学校と地域の協働に関するビジョンや学校設置の基本方針等について協議・共有し、必要に応じて承認等を行う。
- 「仕掛け」が活し合われる場として運営。
- また、その協議の前提として、「高校の所在する伊香地域がどのようなか」という地域・未来についても思いが共有される場であってほしい。
 - 「高校を核とした地方創生」の実現

制定されるコンソーシアム参画団体
 高校全体の方向性を検討する「役員会」と個別の事業について検討する「分科会/ワーキンググループ」の2層体制とする。

2023年11月24日版

伊香高校 第2回運営指導委員会 会議資料

■目次

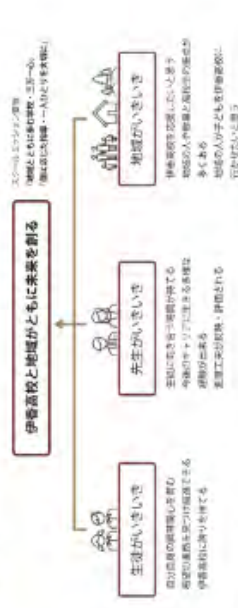
- 1. 伊香高校魅力化の活動について
 - 1.1 高校全体としての取組み
 - 1.2 新学科の立ち上げ
 - 1.3 伊香高校コンソーシアムの位置づけ
- 2. 新学科カリキュラム（案）について
 - 2.1 育てたい人材像
 - 2.2 半ばに開するキーワード
 - 2.3 大切にしたい学びの要素
 - 2.4 新学科の学校設定科目
 - 2.5 卒業後の進路
 - 2.6 カリキュラム実施の課題
- 3. その他

■運営指導委員の皆さまより特にコメントを頂きたい観点

1. コンソーシアムなど地域協働の体制について更に検討すべき点
2. 新学科カリキュラムをより実定させるために更に検討すべき点
3. 広報活動など新学科の打ち出し方について検討すべき点

1. 伊香高校の魅力化の活動について

1. 1 高校全体としての取組み



- 「伊香高 Go Beyond プロジェクト」と題し、「伊香高校と地域がともに未来を創る」ことを目標に令和4年度より開始。既存の各コースで地域と連携した取組を実施中。
- 取組み内容を発信する「伊香高通信」をこの夏より発行開始。
- 活動内容については動画あり。

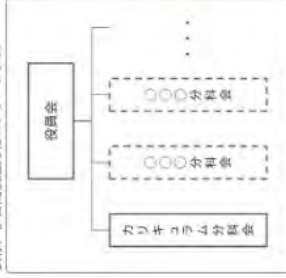
2023年12月ごろ：第2回準備会議

- 進捗の共有
- コンソーシアム規約（案）についての議論
- コンソーシアム名称の決定
・・・など

2024年3月23日(土)午後：コンソーシアム発足式&伊香高シンポジウム

- 生徒による活動発表なども合わせて実施予定

仮称）伊香高校魅力化コンソーシアム



◎目標◎
「伊香高校と地域がともに未来を創る。」

学校経営の
方針

育てたい
生徒像

地域の
ありたい姿

■想定する役員会参画団体（敬称略）

- 旧伊香郡地域の各地域づくり協議会
（高月、杉野、高時、木之本、伊香具、余呉、西浅井）
- 長浜市商工会
- 長浜市
- 長浜市教育委員会
- 滋賀県教育委員会
- 伊香高校同窓会
- 伊香高校 PTA
- 伊香高校学校運営協議会
- 伊香高校

■コンソーシアム立ち上げまでの想定スケジュール

立ち上げに向けて、準備会議を年度内に2回程度実施予定。2024年3月末に正式に立ち上げとしたい。

2023年10月3日：第1回準備会議（実施済）

- 準備会議参画団体（敬称略）
 - 伊香高校同窓会
 - 木之本地区地域づくり協議会
 - 長浜市（北部政策課、政策デザイン課）
 - 滋賀県（魅力ある高校づくり推進室）
- アドバイザー：滋賀県立大学環境科学部 平岡 俊一准教授

2023年11月ごろ：役員会参画想定団体へのご説明・依頼

2. 3 新学科で大切にしたい学びの要素

新学科立ち上げに関する第一回運営指導委員会で行ったコメントも参考にしつつ、新学科で大切にしたい学びの要素を以下の3点と考えている。

1. **現場主義**：実際にフィールドへ出て体験・実践することを大切にす。
2. **地域連携**：地域の実践者を講師として迎える、地域の団体と協働して授業をすすめるなど、地域連携を大切にす。
3. **理論と実践**：現場での体験・実践の前後に座学の時間を設けるなど、理論と実践のつながりを意識した活動を大切にす。

2. 4 新学科の学校設定科目

3年間で履修する全90単位のうち、**10-12単位(約12%)が新学科独自の「学校設定科目」として設定される予定。**

- 農業科などの専門学科の場合、全体の40%程度が専門科目
- 年間35単位時間の授業で1単位

森林環境や循環型社会に関する学びに加え、総合的な探究の時間の活用、また他コースと連携・協働しながら地域を知る学びも行う。
各学年で検討している学校設定科目は以下の通り。

○1年生

(仮称)「**森林基礎**」：年間2単位

- 森林をきっかけに自然環境や森林文化に関する知識を学ぶ。
→森林を広い視野から客観的にみる

○2年生

(仮称)「**森林サービス**」：年間2単位

- 森林資源や空間の活用方法について、伝統的なものから最新の動向も踏まえて学ぶ。
- (仮称)「**カーボンニュートラル**」：年間2単位
- 再生可能エネルギーや省エネ、環境問題などについて遊覧ならではのMLGsの視点も取り入れながら学ぶ。
→身体を遣いつつ森林や持続可能性というテーマと自身との関係性を確かめる/試してみる

○3年生

(仮称)「**森の未来創造**」：年間4～6単位

- 2年間の学びをベースに個人やグループで課題を設定し実践する。
- 森林をテーマに、課題の設定・探究・表現活動を行う。
→自分がアクションすることを通して、3年間の学びをまとめる。

○総合的な探究の時間との連携

総合的な探究の時間やコース活動においても、専門科目と関連した授業を行なう。

2. 新学科カリキュラム(案)について

2. 1 新学科で育てたい人材像

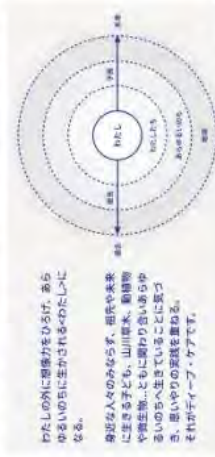
伊香高校全体のラジエーションポリシー

- 教育基本法の精神に則り、将来の地域社会に貢献しうる、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成します。
- 地域の未来を創造し、持続可能な地域社会を支える環境未来人材を育成します。
- 夢を描き、進路目標を実現する「自己実現力」
- 自己の思いを伝えながら、他者の多様性を理解する「コミュニケーション力」
- 人や地域と協働し、新たな価値に向かう「課題解決力」
- 未知の困難に柔軟に対応し、あきらめない「レジリエンス力」

加えて、**新学科ならではの育てたい人材像**

- 人と自然が共存する循環型社会構築に資する「**過去と未来を思いやる力**」
- 森林や自然との関わりを通して磨く「**洞察力**」と「**感受性**」
- わからないことを楽しむ「**好奇心**」

→ **個の力** × **しなやかさ** × **他者への想像力** = **新学科で育てる「生きる力**



2. 2 新学科の学びに関するキーワード

- 学習内容：森林、循環、持続可能性、再生可能エネルギー、自然資源、地域資源
- 学習方法：鳥の目虫の目、上流から下流まで、温故知新、身体を動かす、探究とコミュニケーション

授業例

- 1 年生：木之本・伊香地域の理解、地域の方へのインタビュウ方法、など。
- 2 年生：森林資源をテーマとしたビジネスプランの作成、政策金融公庫債権ビジネスプランニングラブリなどへの参加、など。
- 3 年生：プレゼンテーションや論文執筆方法といった情報をまとめる活動、総合型選抜に付した進路指導、など。

○その他授業との連携

- 国語・英語・数学・理科・社会の5教科、また体育や美術、家庭などの教科とも一部連携した授業を検討したい。
- 森林資源や再生可能エネルギー、地域の生活文化や歴史を題材とした授業を行うなど。

2. 5 卒業後の進路

- 進路から就職まで幅広く、個々の生徒の希望に応じて対応する。
 - 進路希望者は総合型選抜の機会を積極的に活用。
 - 就職希望者は地元企業を中心に就職を支援。

進路先の例

- 滋賀県立大学 理科学部
- 京都府立大学 生命環境学部
- 龍谷大学 先端理工学部
- ・・・など

2. 6 カリキュラム実施に関する課題

生徒の移動手段

- 地域に出る実習が多くなると移動手段が課題となる。
 - 視察した京都府や徳島県の高校では自校でマイカーバスを保有。

外部講師の継続的な参画方法

- 学校設定科目において、地域から外部講師を招く場合どのような方法がとれるか。
 - 教員免許を持たない方を特別非常勤講師として雇用検討するなど。
 - その他、外部講師以外に継続的に専門家を雇用することは可能か。
 - 新学科専門のコーディネーターのイメージ。
 - 京都や他府では実習主任・助手として林業の専門家を雇用。

生徒の進路指導

- 新学科入学生徒の希望に合わせた進路指導を行う必要がある。
 - 進学：関連した学習内容を持つ大学入試、総合型選抜等の研究が必要。
 - 就職：希望者には工務店や林業事業体、森林サービス事業者、行政森林整備事務所など新学科に関連した企業・事務所の職業体験機会などの提供も検討。

以上

▼滋賀県立高等学校魅力化に向けた学科改編等実施計画（案）

地域連携重点

魅力化に向けた学科改編等実施計画（案）

伊香高校

地域連携

多様な学び

生活・スポーツ・芸術系

<スクール・ミッション>

- ①未来を拓く心豊かでたくましい人づくりのため、生徒の自立する力・伝える力・協働する力・創造する力等の生きる力を育成する学校
- ②地域の熱意と協力により開校した伝統のもと、地域との連携・協働した学びにより、将来の地域を担う人材を育成する学校
- ③基礎学力の充実や発展的な学習等により、生徒の進路希望を実現するための確かな学力を育成する学校

育成を目指す資質・能力（クラデュエーション・ポリシー）

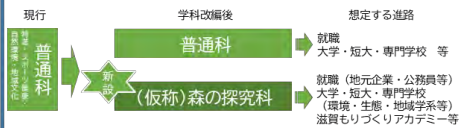
- ◆教育基本法の精神に則り、将来の地域社会に貢献しうる、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成します。
- ◆地域の未来を創造し、持続可能な地域社会を支える環境未来人材を育成します。
 - ・夢を描き、進路目標を実現する自己実現力
 - ・自己の思いを伝えながら、他者の多様性を理解するコミュニケーション力
 - ・人や地域と協働し、新たな創造に向かう課題解決力
 - ・未知の困難に柔軟に対応し、あきらめないレジリエンス力

特色ある教育活動（カリキュラム・ポリシー）

- ◆自身の興味関心や希望進路にあった類型を選び、進路実現を目指します。
- ◆小規模を強みとして、個に応じた学習を習熟度・少人数で展開します。
- ◆滋賀北部ならではの地域資源を活用し、地域と協働した学びを実施します。
- ◆外部講師を招き、地域をフィールドとした多様な授業を設定しています。
- ◆自身で設定した課題を探究し、地域での実践を通して、学びを深めます。

※アドミッション・ポリシーについては、入学選抜の改革を見直しながら検討する。

クラス編成



「(仮称) 森の探究科」の教育課程

<コンセプト>
滋賀県北部地域の豊かな自然環境、森林資源などを活用し「森で学ぶ」をコンセプトに、生徒の「生きる力」を地域とともに育む<ゼロ・カーボン・ハイスクール>を目指す。

<学びのイメージ>

3 年 次	生徒の興味関心に基づく実践的な探究学習 森の未来創造 (森の探究)	◆教育活動の概要 持続可能な社会と琵琶湖に根ざした暮らしの創造、人と自然が共存する循環型社会構築に資する人材育成を図る。また、地域の森林資源などを活かしたまちづくりに関わり、地域活性化との相乗効果を目指す。 ○「森・川・里・湖」が水系でつながる滋賀北部ならではの学び ○地域内外の専門家と協働した循環型社会に関する実践的な学び ○地元地域や長浜市など地域と連携した学び			
2 年 次	<table border="1"> <tr> <td>炭素循環について学ぶ カーボンニュートラル</td> <td>森林資源の新たな活用方法について学ぶ 森林サービス</td> </tr> <tr> <td>・持続可能な環境社会の構築 ・エネルギー教育 ・校内のエネルギー検証</td> <td>・森と人との関わり ・森林アクティビティ ・森林×経済×ビジネス</td> </tr> </table>		炭素循環について学ぶ カーボンニュートラル	森林資源の新たな活用方法について学ぶ 森林サービス	・持続可能な環境社会の構築 ・エネルギー教育 ・校内のエネルギー検証
炭素循環について学ぶ カーボンニュートラル	森林資源の新たな活用方法について学ぶ 森林サービス				
・持続可能な環境社会の構築 ・エネルギー教育 ・校内のエネルギー検証	・森と人との関わり ・森林アクティビティ ・森林×経済×ビジネス				
1 年 次	森林を中心とした自然環境に関する知識を学ぶ 森林基礎 (森の学び)				

学校を取り巻く環境

- 【伊香高校】
 - ◆地域に根ざした伝統校
 - ◆生徒の興味・関心等にに応じた4つの類型の学び
 - ◆地域とのつながりを重視した教育活動
 - ◆令和4年度魅力化推進事業の指定で地域コーディネーターを先行して配置
 - ◆地域の生徒数減少に起因する小規模化
 - ◆伊吹高校とのICT活用による遠隔合同授業の研究
 - ◆生徒の9割以上が長浜市内の中学校出身
- 【長浜市】
 - ◆人口減少地域であり、地域に想いを持った人材の育成が必要
 - ◆林業に従事する地域おこし協力隊
 - ◆脱炭素社会実現への動き「ゼロカーボンシティ宣言」
- 【滋賀県】
 - ◆MLGsとSDGs達成に向けた取組の推進
 - ◆挑戦する若者の集う県北部を目指す「北の近江振興プロジェクト」

魅力化特色化

魅力化プラン

- ★地域の専門家と協働し、森・川・里・湖がつながる県北部ならではの学び
- ★地域をフィールドに、「地域の人々や文化的資源」と「生徒の興味関心や進路希望」をかけた多様な地域探究の学び
- ★専門スポーツ（野球・柔道等）の競技力向上や野外スポーツ等の学び

スケジュール

- 令和5年度 教育委員会規則を改正
- 令和6年度 学校説明会・体験入学等における新しい取組の周知
→新学科生徒募集
- 令和7年度～ 新学科設置

■第3回運営指導委員会

<会議の日時等>

開催日時 令和6年3月23日(土) 15:45~16:55 (木之本まちづくりセンター 集会室)

出席者 【運営指導委員】

久木裕委員 岳野公人委員 中嶋克之委員 平岡俊一委員 山本綾美委員

【伊香高校 森の探究科推進室】

大森文子校長 二宮良信教頭 箕浦総子事務長 水谷智宏教諭 富山昌彦教諭

江竜利恵教諭 三國莉奈教諭 木谷昌子教諭

中山郁英コーディネーター 副島拓歩コーディネーター

内容 (1) 「普通科改革支援事業」の取組状況について
(2) 事業に関する指導助言等

<協議要旨>

○資料説明(大森文子校長)

別紙参照

<主な意見>

○伊香高等学校魅力化シンポジウムについて

- ・生徒たちが主体的に取り組んでいて良かった。
- ・地元の方々の伊香高校に対する強い思いを感じた。一方、地元の方々は伊香高校の昔のイメージを強く持っているが、伊香高校を昔のイメージに戻すわけではないので、丁寧に学校改革を進めていく必要があると感じた。
- ・高校卒業後も地元で活躍してもらうための取組は、学校だけでできるものではない。そういう意味でコンソーシアムがある。
- ・全国のどの地域の高校もトライ&エラーを繰り返しながら学校改革を進めている。失敗を恐れずに取り組んでほしい。
- ・新学科を設置して、その先のゴールを具体的に持つておく必要があるのではないか。

○次年度の取組について(カリキュラム)

- ・7月の暑い時期に防護服を着てチェーンソー実習をするのは難しいのではないかと。
- ・「森の探究科」卒業後の将来像をイメージできれば、生徒の学びに対するモチベーションは高くなる。学校設定教科・科目のカリキュラムの中にキャリア教育を組み込んだ方が、より生徒の学びに対するモチベーションは上がる。
- ・様々な学びの中の一つにSDGsを取り扱うのであればいいが、2030年に終わるSDGsに特化した学びには違和感がある。
- ・1・2年次で様々な分野をインプットして3年次にアウトプットするような組み立てになっているが、1・2年次にアウトプットがあってもいいのではないかと。アウトプットすることで身に付くことはある。
- ・教職員にとって慣れない授業を盛り込み過ぎるのは大きな負担になるのではないかと。
- ・カリキュラムの中に、「森林の多面的機能」を十分に理解できる柱が必要になる。
- ・ゼロベースで「カリキュラム」と「評価」を考えていくなれば、学習指導要領を活用して検討を進めていくといいのではないかと。学習指導要領には様々な分野の学びについて詳細に書かれているので参考になる。
- ・学校設定教科・科目より他の普通教科の方が単位数は大きいので、普通教科に近いところからカリキュラム検討を進めていくのが現実的と思う。

- ・属人的なカリキュラムでは持続しないので、シンプルなカリキュラムの方がいいのではないか。

○次年度の取組について（生徒募集・広報）

- ・伊香高校に入学したら子どもがどう成長するのかのイメージがしっかり伝わるのが大事になる。
- ・環境系団体が発行している広報誌に取り上げてもらうなど、森林に興味を持つ人たちに情報が伝わる取組も効果的ではないか。
- ・保護者ではなく中学生に魅力を伝えるために、例えばTikTok等のようなツールを使った広報も効果があるのではないか。
- ・中学校では、高校のホームページを使った進路学習に取り組む。ホームページを見て興味を持つ中学生はいるので、ホームページを充実させることも大事になる。
- ・いきなり遠方から生徒募集しても難しいと思う。現実的に通いやすい地域に焦点を絞った広報もいいのではないか。

<会議資料>

- ・伊香高校 第2回運営指導委員会 会議資料 【下記資料】
- ・伊香高校新学科 学校設定教科・科目授業案（2024年2月版） 【下記資料】
- ・伊香高校新学科カリキュラム相関図（2024年2月版） 【下記資料】
- ・滋賀県立高等学校魅力化に向けた学科改編等実施計画 【下記資料】

▼伊香高校 第3回運営指導委員会 会議資料

2024/03/23

伊香高校 第3回運営指導委員会 会議資料

■ 本日の伊香高等学校魅力化シンポジウムについて

伊香高校魅力化、今年度の取り組み発表

- 地域をフィールドにした探究的な学び・新学科設立にむけた先行実施授業
 - 令和7年度からの伊香高校・新学科「森の探究科」について
 - 「地域と伊香高のミライ創造コンソーシアム」の発足式
- * 本日のシンポジウムのご感想をお聞かせください。

■ 次年度の取り組みについて

- 新学科「森の探究科」カリキュラム詳細の検討と先行実施授業
- 校内体制、新学科設備等の整備
- 地域との連携強化・情報共有、コンソーシアムの運営
- 生徒募集（R7年度入学生）と広報
- R8年度入学者選抜での全国募集実施準備等

【運営指導委員の皆様より特にコメントを頂きたい観点】

- * 新学科「森の探究科」カリキュラムについて（資料をご覧ください）
- * 生徒募集（R7年度入学生）と広報について

▼伊香高校新学科 学校設定教科・科目授業案 (2024年2月版)

伊香高校新学科 学校設定教科・科目授業案 (2024年2月版)

年度: カウニール

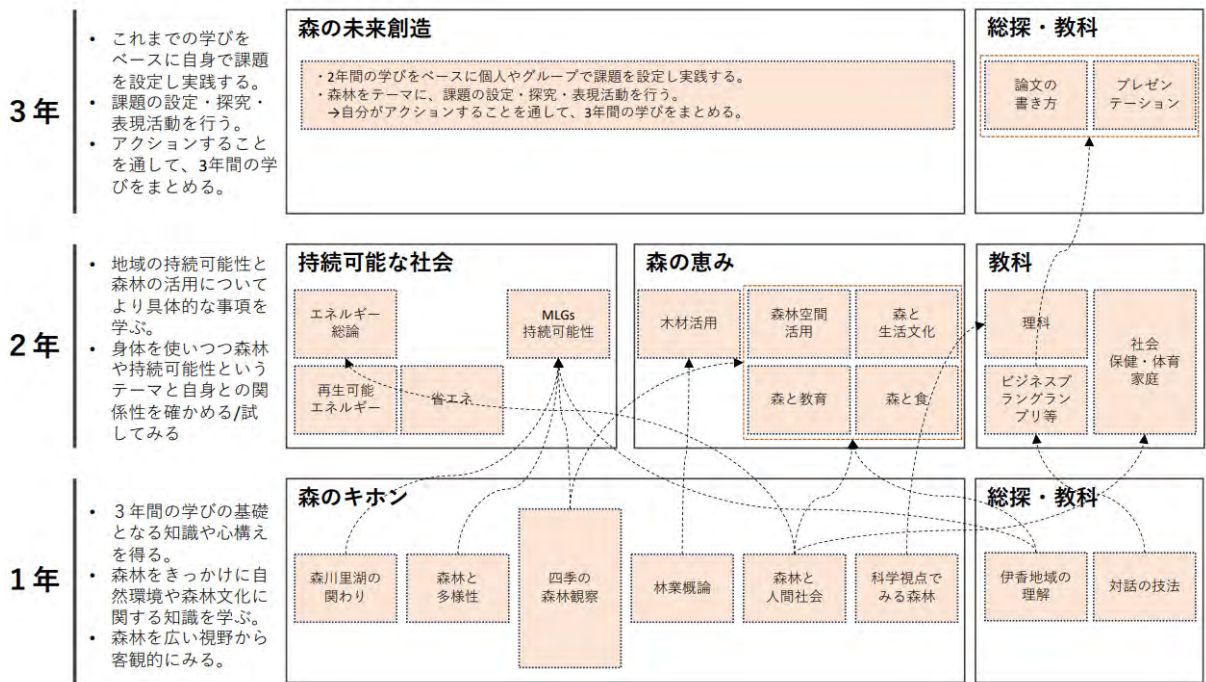
第1年 (1年・2年単位)

第2年 (2年・2年単位)

特許可能な社会 (2年・2年単位)

学年	学期	科目	単元	内容	担当	場所	担当	担当	担当	担当	
第1年	1学期	基礎科目	1	1	1	1	1	1	1	1	1
			2	2	2	2	2	2	2	2	2
			3	3	3	3	3	3	3	3	3
			4	4	4	4	4	4	4	4	4
			5	5	5	5	5	5	5	5	5
			6	6	6	6	6	6	6	6	6
			7	7	7	7	7	7	7	7	7
			8	8	8	8	8	8	8	8	8
			9	9	9	9	9	9	9	9	9
			10	10	10	10	10	10	10	10	10
			11	11	11	11	11	11	11	11	11
			12	12	12	12	12	12	12	12	12
			13	13	13	13	13	13	13	13	13
			14	14	14	14	14	14	14	14	14
			15	15	15	15	15	15	15	15	15
			16	16	16	16	16	16	16	16	16
			17	17	17	17	17	17	17	17	17
第2年	2学期	基礎科目	18	18	18	18	18	18	18	18	18
			19	19	19	19	19	19	19	19	19
			20	20	20	20	20	20	20	20	20
			21	21	21	21	21	21	21	21	21
			22	22	22	22	22	22	22	22	22
			23	23	23	23	23	23	23	23	23
			24	24	24	24	24	24	24	24	24
			25	25	25	25	25	25	25	25	25
			26	26	26	26	26	26	26	26	26
			27	27	27	27	27	27	27	27	27
			28	28	28	28	28	28	28	28	28
			29	29	29	29	29	29	29	29	29
			30	30	30	30	30	30	30	30	30
			31	31	31	31	31	31	31	31	31
			32	32	32	32	32	32	32	32	32
			33	33	33	33	33	33	33	33	33
			34	34	34	34	34	34	34	34	34
35	35	35	35	35	35	35	35	35			
36	36	36	36	36	36	36	36	36			
37	37	37	37	37	37	37	37	37			
38	38	38	38	38	38	38	38	38			
39	39	39	39	39	39	39	39	39			
40	40	40	40	40	40	40	40	40			
41	41	41	41	41	41	41	41	41			
42	42	42	42	42	42	42	42	42			
43	43	43	43	43	43	43	43	43			
44	44	44	44	44	44	44	44	44			
45	45	45	45	45	45	45	45	45			
46	46	46	46	46	46	46	46	46			
47	47	47	47	47	47	47	47	47			
48	48	48	48	48	48	48	48	48			
49	49	49	49	49	49	49	49	49			
50	50	50	50	50	50	50	50	50			
51	51	51	51	51	51	51	51	51			
52	52	52	52	52	52	52	52	52			
53	53	53	53	53	53	53	53	53			
54	54	54	54	54	54	54	54	54			
55	55	55	55	55	55	55	55	55			
56	56	56	56	56	56	56	56	56			
57	57	57	57	57	57	57	57	57			
58	58	58	58	58	58	58	58	58			
59	59	59	59	59	59	59	59	59			
60	60	60	60	60	60	60	60	60			
61	61	61	61	61	61	61	61	61			
62	62	62	62	62	62	62	62	62			
63	63	63	63	63	63	63	63	63			
64	64	64	64	64	64	64	64	64			
65	65	65	65	65	65	65	65	65			
66	66	66	66	66	66	66	66	66			
67	67	67	67	67	67	67	67	67			
68	68	68	68	68	68	68	68	68			
69	69	69	69	69	69	69	69	69			
70	70	70	70	70	70	70	70	70			

▼伊香高校新学科カリキュラム相関図（2024年2月版）



▼滋賀県立高等学校魅力化に向けた学科改編等実施計画

滋賀県立高等学校魅力化に向けた学科改編等実施計画

伊香高校 | 地域連携 | 多様な学び | 生活・スポーツ・芸術系

<スクール・ミッション>
 ①未来を拓く心豊かでたくましい人づくりのため、生徒の自立する力・伝える力・協働する力・創造する力等の生きる力を育成する学校
 ②地域の熱意と協力により開校した伝統のもと、地域との連携・協働した学びにより、将来の地域を担う人材を育成する学校
 ③基礎学力の充実や発展的な学習等により、生徒の進路希望を実現するための確かな学力を育成する学校

育成を目指す資質・能力（グラデュエーション・ポリシー）

- ◆教育基本法の精神に則り、将来の地域社会に貢献しうる、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成します。
- ◆地域の未来を創造し、持続可能な地域社会を支える環境未来人材を育成します。
- ・夢を描き、進路目標を実現する自己実現力
- ・自己の思いを伝えながら、他者の多様性を理解するコミュニケーション力
- ・人や地域と協働し、新たな創造に向かう課題解決力
- ・未知の困難に柔軟に対応し、あきらめないレジリエンス力

「森の探究科」の教育課程

<コンセプト>
滋賀県北部地域の豊かな自然環境、森林資源などを活用し「森で学ぶ」をコンセプトに、生徒の「生きる力」を地域とともに育む<ゼロ・カーボン・ハイスクール>を目指す。

<学びのイメージ>

- 3年次** 生徒の興味関心に基づく実践的な探究学習
森の未来創造（森の探究）
自身の興味関心と課題意識をもとにテーマ設定・探究活動
→専門家による指導助言、地域での実践活動（まちづくり参画）
学びの成果をまとめた卒業論文や発表会
- 2年次** 炭素循環等について学ぶ 持続可能な社会（カーボンニュートラル）
森林資源の新たな活用方法について学ぶ 森の恵み（森林サービス）
・持続可能な環境社会の構築
・エネルギー教育
・校内のエネルギー検証
・森と人との関わり
・森林アクティビティ
・森林×経済×ビジネス
- 1年次** 森林を中心とした自然環境に関する知識を学ぶ 森のキホン（森林基礎）
・森の歩き方（森と林に関する学び・実習）
・森林環境の現状と課題
・木育、森林管理

◆教育活動の概要
持続可能な社会と琵琶湖に根ざした暮らしの創造、人と自然が共存する循環型社会構築に資する人材育成を図る。また、地域の森林資源などを活かしたまちづくりに関わり、地域活性化との相乗効果を目指す。
○「森・川・里・湖」が氷系でつながる滋賀北部ならではの学び
○地域内外の専門家と協働した循環型社会に関する実践的な学び
○地元地域や長浜市など地域と連携した学び

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
科目	国語	数学	英語	地理歴史	公民	理科	保健体育	芸術	総合	特別活動	キャリア教育	進路指導
2年	国語	数学	英語	地理歴史	公民	理科	保健体育	芸術	総合	特別活動	キャリア教育	進路指導
3年	国語	数学	英語	地理歴史	理科	保健体育	芸術	総合	特別活動	キャリア教育	進路指導	進路指導

※開校後：「森の探究科」ならではの特色ある学び
 ※編入：総合的な探究の時間
 ※選択：生徒の希望に基づきにより選択

学校を取り巻く環境

【伊香高校】
 ◆地域に根ざした伝統校
 ◆生徒の興味・関心等に応じた4つの類型の学び
 ◆地域とのつながりを重視した教育活動
 ◆令和4年度魅力化推進事業の指定で地域コーディネーターを先行して配置
 ◆地域の生徒数減少に起因する小規模化
 ◆伊香高校とのICT活用による遠隔合同授業の研究
 ◆生徒の9割以上が長浜市内の中学校出身

【長浜市】
 ◆人口減少地域であり、地域に想いを持った人材の育成が必要
 ◆林業に従事する地域おこし協力隊
 ◆脱炭素社会実現への動き「ゼロカーボンシティ宣言」

【滋賀県】
 ◆MLGsとSDGs達成に向けた取組の推進
 ◆挑戦する若者の集う県北部を目指す「北の近江振興プロジェクト」

魅力化特色化

- ★地域の専門家と協働し、森・川・里・湖がにつながる県北部ならではの学び
- ★地域をフィールドに、「地域の人々や文化的資源」と「生徒の興味関心や進路希望」をかけた合わせた多様な地域探究の学び
- ★専門スポーツ（野球・柔道等）の競技力向上や野外スポーツ等の学び

スケジュール

- 令和5年度 教育委員会規則を改正
- 令和6年度 学校説明会・体験入学等における新しい取組の周知 →新学科生徒募集
- 令和7年度～ 新学科設置

3-2 カリキュラム開発に関わる会議

3-2-1 カリキュラム開発会議

カリキュラム開発会議については、本校「森の探究科推進室（室長、コーディネーター2名）」に加えカリキュラムアドバイザー前田氏、また必要に応じて理科教員も参加し以下の日程で行われた。各回、2時間程度の会議が行われた。

■カリキュラム開発会議（校内）

	実施日	実施内容
第1回	R5. 7/ 6	・新学科のコンセプトの検討
第2回	R5.10/11	・新学科で育てたい人材像の検討
第3回	R5.10/23	・新学科で育てたい人材像、学びに関するキーワードの要素の検討
第4回	R5.11/16	・新学科のカリキュラム案の検討
第5回	R5.11/30	・新学科のカリキュラム案の再検討
第6回	R5.12/ 7	・新学科のカリキュラム案の再検討
第7回	R5.12/19	・新学科のカリキュラム案の統合 ・各授業に関する関係機関の整理と予算

【概要】

■第1回カリキュラム開発会議

カリキュラムアドバイザー前田氏と顔合わせを行い、これまでのご経験や活動内容について共有いただいた。また、今後のカリキュラム検討のスケジュール大枠を協議し、決定した。合わせて、7月に実施した岐阜県立森林文化アカデミー視察の内容についてすり合わせを行った。

■第2回カリキュラム開発会議

カリキュラムの詳細内容を検討する前提として、新学科で育てたい人材像について議論した。視察先高校や森林・自然環境系の大学のアドミッション・ポリシー、グラデュエーション・ポリシー等を参考にしながら参加者で議論を行った。

■第3回カリキュラム開発会議

前回会議の内容をもとに、コーディネーターがまとめた資料をみながら参加者で議論を行い、カリキュラム分科会で共有する内容（人材像や学びのキーワード、各学校設定科目の方向性）について議論を行った。また、各学校設定教科・科目について、年間の教育内容について分担して検討を開始した。

■第4回カリキュラム開発会議

カリキュラム分科会でのコメントを参考にしながら、各学校設定教科・科目の方向性に関する議論を行った。中学生にとって分かりやすく興味関心を喚起するため、科目名称についても工夫する必要があることを確認した。学校設定科目ごとに担当を割り振り、年間の詳細な教育内容と時間数について検討を開始した。

■第5回カリキュラム開発会議

各学校設定教科・科目の担当者より検討した年間の授業内容が共有され、それぞれについて議論が行われた。次回までに重複がある部分の整理を行い、外部講師が必要な授業時間数や校外学

習に関する費用を概算することとなった。また、各授業間の関係性を明確にするためカリキュラムの関係性図を作成することも確認された。

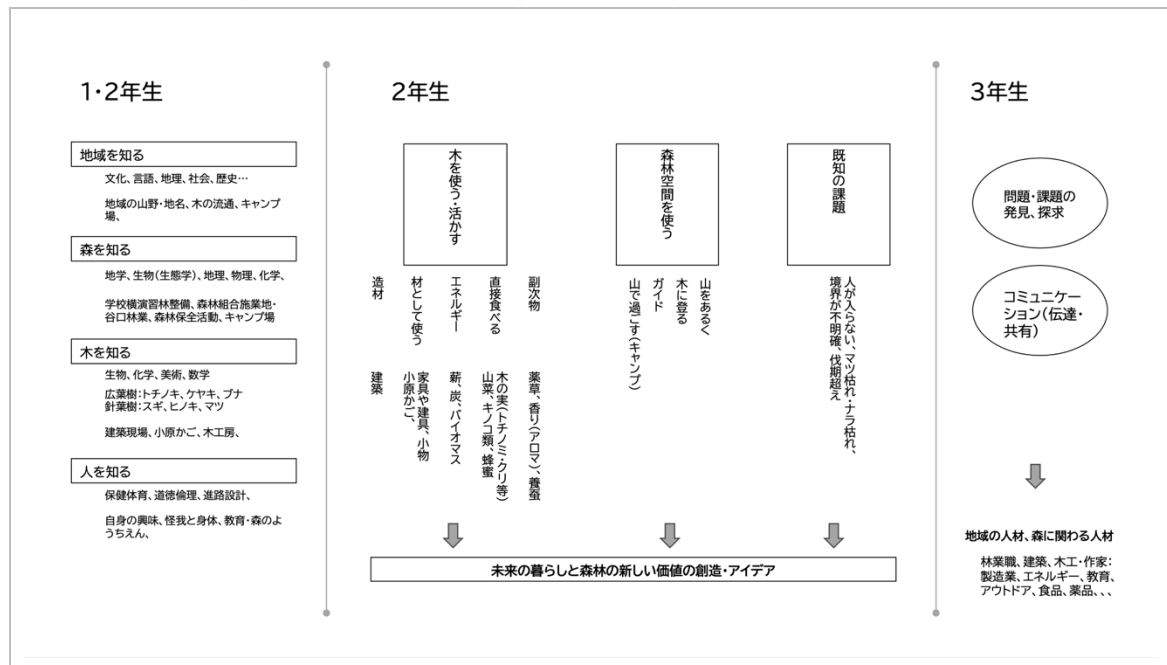
■第6回カリキュラム開発会議

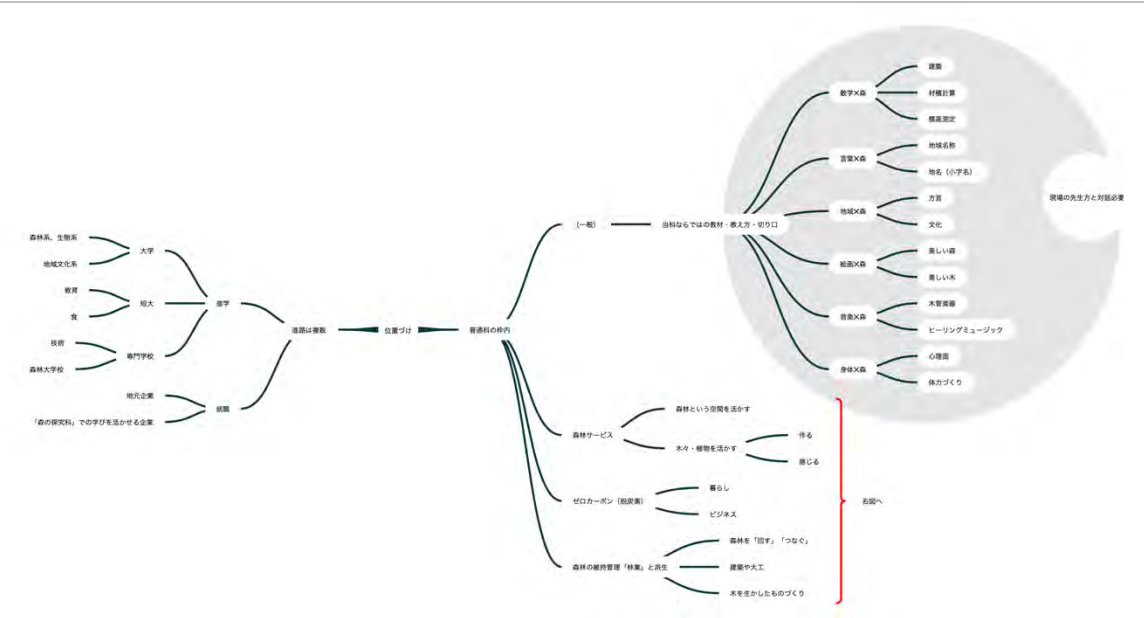
各担当者が修正した年間の授業計画を共有し確認した。想定する外部講師や実習先、また追加の修正点の議論を行った。また作成したカリキュラム・マップについても共有され、加筆修正する内容について議論した。各担当者によるカリキュラム検討を一旦終了し、コーディネーターによってカリキュラム全体の内容を統合することとした。

■第7回カリキュラム開発会議

学校設定教科・科目全体を統合したカリキュラム案と関係性図を共有し議論した。現時点での最終的な修正点を確認し、必要な予算概算についても完了した。

▼カリキュラム検討に際して作成した資料（一部抜粋）





3-2-2 カリキュラム分科会

開催日 令和5年10月30日(月)

出席者 滋賀県びわ湖材流通推進課

長浜市伊香森林組合

ながはま森林マッチングセンター

長浜市政策デザイン課

環境保全課

森林田園整備課

長浜市教育委員会

カリキュラムアドバイザー

伊香高校

知田之宏氏

高橋市衛氏

橋本勤氏

饗場喬氏 秋野拓馬氏

藪内亜美氏

横田茂隆氏 伊藤真一氏

北村友紀氏

余島純氏

大森文子校長 二宮良信教頭 富山昌彦教諭

中山郁英コーディネーター

副島拓歩コーディネーター

育てたい人材像を考える際、大人の視点からだけでなく高校生の現状を踏まえることが必要である。環境未来人材の育成を目指すとする、小中学校の環境教育とのつながりを考え、子どもたちが学びたいと思うようなカリキュラム、高校づくりをしていかなければならない。生徒が興味を持てるものになっているのか、何が求められているのかについて考え、高校をどう残していくか、地域をどうよくしていくかといった視点とともに、教育魅力化をツールとして使うことについて意見が出された。

3-3 伊香高校魅力化コンソーシアム準備会議・設立会議

コンソーシアム立ち上げに向け、本年度は準備会議を行うこととし、10月3日、12月25日の2回実施された。

<概要>

■第1回伊香高校魅力化コンソーシアム準備会議

開催日 令和5年10月3日(火)

出席者	木之本地区地域づくり協議会	寺田年克氏	岩根健治氏
	伊香高校同窓会	丹治和弘氏	
	長浜市 政策デザイン課	柴田拓也氏	
	北部政策課	木口英之氏	菅谷和宏氏
	カリキュラムアドバイザー	前田壮一郎氏	
	滋賀県教育委員会	杉原真也参事	
	滋賀県立大学	平岡俊一氏	
	伊香高校	大森文子校長	二宮良信教頭 富山昌彦教諭
		中山郁英コーディネーター	
		副島拓歩コーディネーター	

以下の項目について、情報共有・議論を行った。

1. 伊香高校魅力化の活動について
 - ・高校全体としての取組
 - ・普通科改革支援事業とは
 - ・新学科の立ち上げ
2. コンソーシアム設立について
 - ・コンソーシアムとは
 - ・コンソーシアムの位置付け
 - ・コンソーシアム参画団体
 - ・コンソーシアム規約案の作成
 - ・今後の想定スケジュール
3. 地域の将来に対する希望について

参加者の足並みを揃えるため、現在の活動内容の共有から始め、コンソーシアムの位置付けや参画団体について議論した。普通科改革支援事業に関連した取組であるが、既存の普通科も含めて地域連携を強化していくことや、令和4年度より掲げる「伊香高校と地域がともに未来を創る」ということを目的とした活動を行う組織としてコンソーシアムを位置付けることなど意識の共有が行われた。

■第2回伊香高校魅力化コンソーシアム準備会議

開催日 令和5年12月25日(月)

出席者	木之本地区地域づくり協議会	寺田年克氏	岩根健治氏
	伊香高校同窓会	丹治和弘氏	
	長浜市 政策デザイン課	柴田拓也氏	
	北部政策課	木口英之氏	菅谷和宏氏
	滋賀県教育委員会	杉原真也参事	
	滋賀県立大学	平岡俊一先生	
	伊香高校	大森文子校長	二宮良信教頭 富山昌彦教諭
		中山郁英コーディネーター	
		副島拓歩コーディネーター	

以下の項目について、情報共有・議論を行った。

1. 伊香高校魅力化の活動について
 - ・最近の地域と連携した活動
 - ・新学科カリキュラムの検討状況
2. コンソーシアム設立について (50分)
 - ・参画想定団体への御説明
 - ・コンソーシアム規約案
 - ・コンソーシアム名称について
 - ・今後のスケジュール

会議では、コンソーシアムの正式立ち上げに向け、想定する参画団体への説明状況や規約案について主に議論した。参加者からは、新学科に対して本校の立地する滋賀県湖北地域外も含めた幅広い地域からの生徒入学についての期待や、そのための中学生向けまた地元地域向け広報活動の強化、地元としての協力についてコメントがあった。

■コンソーシアム設立総会

開催日時 令和6年3月23日(土) 11:00~12:00 (木之本まちづくりセンター 集会室)

出席者	高月地域づくり協議会	片山源之氏	
	杉野地区地域づくり協議会	奥野義明氏	
	高時地区地域づくり協議会	奥村勝氏	
	木之本地区地域づくり協議会	岩根健治氏	
	伊香具地区地域づくり協議会	藤田俊博氏	
	余呉地域づくり協議会	三國晃氏	岡本圭司氏
	西浅井地区地域づくり協議会	山口正之氏	
	長浜市商工会	押谷小助氏	
	長浜市未来創造部	中嶋克之氏	
	北部政策局	伊藤治仁氏	
	政策デザイン課	柴田拓也氏	
	北部政策課	木口英之氏	
	長浜市教育委員会	織田恭淳氏	馬淵康至氏
	滋賀県教育委員会	杉原真也氏	
	伊香高校同窓会	大林利男氏	丹治和弘氏

伊香高校PTA
伊香高校学校運営協議会

那須康一氏
寺田年克氏

本総会において、コンソーシアム規約と役員を決定し、「地域と伊香高のミライ創造コンソーシアム」を設立した。同日午後の伊香高等学校魅力化シンポジウムにおいて、コンソーシアムの発足式を行った。

3-4 教育活動改善に向けた先進校視察

(1) 岐阜県立森林文化アカデミー

期 日 令和5年7月27日(木)

視察者 富山昌彦教諭 中山郁英コーディネーター 前田壮一郎カリキュラムアドバイザー

対応者 教務課長 アカデミー教授

内 容 ①授業内容について(特色ある学びについて)
②地域と連携・協働した取組について
③卒業後の進路状況について

【学校の特色】

- ・森林や木材に関わる様々な分野で活躍する人材の育成を目指して設立された2年制の県立専門学校で、高校卒業程度を対象とした「森と木のエンジニア科」と、林業や木材加工現場で働く技術者の育成を目的とした「森と木のクリエイター科」を設置している。
- ・「森と木のクリエイター科」は日ごとで時間割が異なっており、その中で生徒が学科の授業をベースに、興味のある科目を選択して履修する。
- ・「morinos」という岐阜木育の拠点施設があり、色々なイベントを実施している。

【学校の沿革】

- ・森林研究所にて昭和46年に林業短期大学校を開設。平成13年に岐阜県立森林文化アカデミーが開学し、クリエイター科を設置した。

【生徒の状況】

- ・「森と木のエンジニア科」の生徒の8割程度は、県内の農林高校から入学する。林業・林産業を中心に1年生は作業のスキルを集中的に学び、2年生はコースに分かれて学ぶ。3年次編入で4年制大学に行く学生や、特別にクリエイター科に進むことができる。
- ・「森と木のエンジニア科」は100%の就職率。8割の生徒が県内で就職することを目標としている。
- ・「森と木のクリエイター科」は、近年、木育や木工の技術をもって人と関わる教育を目的として入学する生徒が増えてきている。

【特色ある教育について】

- ・林業技術者を育てることを目的とした林業学校が多い中で、設立時から「川上から川下まで」というコンセプトで教育を展開している。
- ・「森と木のクリエイター科」は、最初にコースを分けて専門的に学ぶ。1年次で自力建設プロジェクトという学びがあり、材料は演習林から調達する。このプロジェクトは自分たちで建造物を設計することを目標としており、このプロジェクトを目的に入学する生徒もいる。
- ・様々な活動を行っており、その中で市町と連携した実践的な課題研究を行っている。

【教員について】

- ・ 18名の専任教員と50名程度の非常勤講師を抱えている。
- ・ 授業の内容は教務委員会で決定している。



【新学科への反映】

林業系の専門学校であるが、「川上から川下」までをコンセプトに、多くの魅力ある授業を展開されていた。それぞれの授業内容は、新学科「森の探究科」で大いに参考にできる内容であり、カリキュラム案の幅を具体的に広げることができた。また、新学科「森の探究科」で想定される進路先として見学することができたことも大きな成果であった。

(2) 京都府立北桑田高等学校

期 日 令和5年9月14日(木)

視察者 富山昌彦教諭 中山郁英コーディネーター 副島拓歩コーディネーター

対応者 校長 副校長 農場長

- 内 容
- ①授業内容について(特色ある学びについて)
 - ②普通科と京都フォレスト科の学びの違いについて
 - ③中学生の志望状況について
 - ④卒業後の進路状況について
 - ⑤高校生が求める林業の学びについて
 - ⑥指導する教職員について
 - ⑦寮について

【学校の立地や地域の特徴】

- ・ 北桑田高等学校が所在する美山・京北地域は、小中学校が1校ずつ、小中合同も1校、それぞれの全校生徒数40名程度と、人口減少が著しい地域である。現校長徳廣氏が着任した時から統廃合の話があがっていたが、地域との懇話会を実施し、その際改革案を提示。それ以来、地域との連携体制が始まる。寄付金によって、ボルダリング施設や自転車競技の設備購入等を行う。

【学校の沿革】

- ・ 昭和19年より京都府立北桑田農林学校が開校。様々な学科改編を経て令和2年より森林リサーチ科を設置。令和6年現在は、普通科と京都フォレスト科の2学科を設置している。

【生徒の状況】

- ・全校生徒 165 名。募集定員は普通科 60 名、京都フォレスト科 30 名。京都フォレスト科は例年定員を充足している。普通科の在籍生徒は大半が地域の子どもであるのに対し、京都フォレスト科は全県もしくは他都道府県出身で、地域から通学する生徒は少ない。その中でも林業に興味がある生徒は 1 割程度で、ほぼ部活動の志望による入学である。

【特色ある教育について】

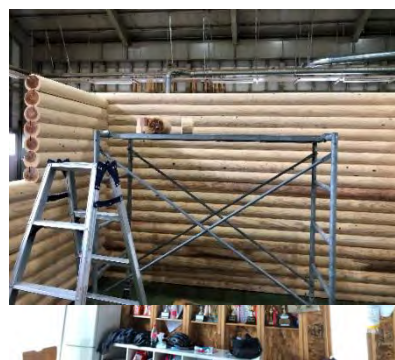
- ・林業を軸に、職業観や労働観を育てる教育を行っている。
- ・府立高校では唯一マイクロバスを所持しており、演習林での実習の際に利用。演習林以外にも、他の入りやすい森を地域の方が提供してくれる。
- ・「総合的な探究の時間」において、フォレスト科の生徒が普通科の生徒に対して、森林体験を指導するような混合授業も実施している。
- ・自転車部は 25 名程度。全国大会で数多く実績を残している。その成果で、他府県から入学者がある。
- ・自転車部以外でも、フリースポーツクラブや農業クラブ等の活動も大きな功績を残している。

【教員について】

- ・正教員は 25 名、分校を含めると 35 名程度。京都フォレスト科は 9 名（農業免許を持つ講師は 5 名、教員免許を持たない実習助手は 4 名）。実習は総がかりで行い、実際の教員が担当する実習時間は、配分コマ数よりも多くなってしまっている。

【寮について】

- ・開校当初より寮は存在。土地や建物は地域からの寄付によるもので、特色のある学科や部活動入部生徒に対して、入寮を許可している。
- ・教員 2 名、学校 0B の非常勤講師も宿泊。食事は外部に委託している。



【新学科への反映】

林業が学習の軸になっており、農業の免許を持つ教員が配置されている点でも、普通科の本校とは様相が異なっているが、多くのことをご教示いただいた。人口減少が著しい地域で、特色ある部活動を設置して全国から募集したり、地域の支援を受けて寮を設置されたりしている点において、その具体的な進め方を参考にしていく。

(3) 徳島県立那賀高等学校

期 日 令和5年9月15日(金)

視察者 富山昌彦教諭 中山郁英コーディネーター 副島拓歩コーディネーター

- 内 容：①授業内容について(特色ある学びについて)
②普通科と森林クリエイト科の学びの違いについて
③地域連携・地域課題への取り組みについて
④内部中学生・外部中学生の志望状況について
⑤卒業後の進路状況について
⑥高校生が求める林業の学びについて
⑦指導する教職員について
⑧寮について

【学校の立地や地域の特色】

- ・地元那賀町は林業7割が森林である立地で、林業が盛んな地域である。県内で林業科目を設置しているのは那賀高校を含めて3校。町内唯一の那賀高校を残すことを目的に発足した那賀高校教育振興協議会からは補助金が支給され、生徒の奨学金や交通費、進学希望者が利用するスタディサプリ、資格試験受験に利用されている。
- ・平成13年より連携型中高一貫教育校として、地元中学校と様々な連携を行っている。中学校での「技術」の授業を高校農場長が行ったり、週1時間TTの授業を展開したりしている。その成果もあり、那賀地域の中学校から20名程度が那賀高校に進学している。

【学校の沿革】

- ・昭和23年に徳島県那賀農業高等学校の驚敷分校及び延野分校として設立許可を受ける。昭和27年に徳島県那賀高等学校として独立。学科やコース再編を経て、知事の提言により平成28年に森林クリエイト科を新設し、令和4年度に創立70周年を迎える。

【生徒の状況】

- ・全校生徒170名。募集定員は普通科45名、森林クリエイト科20名。生徒の7割弱が那賀町、阿南市から通学している。県外では、淡路島や姫路出身の生徒もいる。
- ・地元国公立大学である徳島大学生物資源産業学部を地域推薦枠で受験することができる。林業関係への進路は毎年7名程度で、その中で林業科が設置された年度あたりから県林業職は年2名程度の採用がある。

【特色ある教育について】

- ・森林クリエイト科は、3年間の学習で林業関連の資格を取得できる。これらの資格は、林業アカデミーで取得できる資格と同等のものである。
- ・森林クリエイト科において3年間実施している総合実習の流れは、1年次において次年度選択で履修する内容をローテーションで実施し、2年次から専門を選択して履修を行う。
- ・総合実習で作成した成果物は、販売会で販売し、次年度の実習費に計上している。
- ・授業用のマイクロバスを保有しており、農業系の実習以外でも大学視察等でも利用している。
- ・2年生全員参加のインターンシップを実施。3日間企業に訪問して実施している。

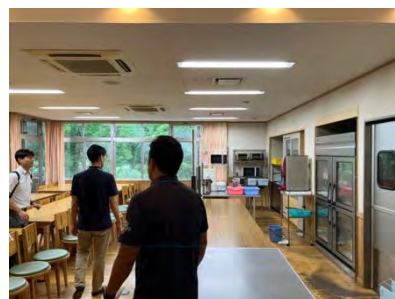
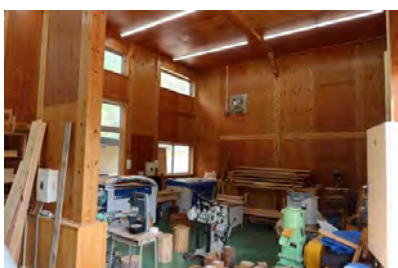
【教員について】

- ・農業の指導教員は7名で、専攻授業は教員1名と実習補助1名体制で実施している。
- ・徳島県では「社会人講師」という教員枠があり、その枠を利用して福祉や情報等の授業を行

っている。

【寮について】

- ・若鮎寮、那須菊寮、竜峰寮の3寮で定員は64名。現在は満員の状況である。
- ・基本的には、通学が困難で規約に賛同できる生徒を対象に入寮を許可している。
- ・寮事務については、寮務課で対応している。



【新学科への反映】

連携型中高一貫教育校として地元中学と様々な連携を行われており、本校の地域連携の進め方において大変参考となった。また進路指導において、進学希望者の地元大学への進学やその指導方法についていただいた助言を本校で活かしていく。

3-5 新学科設立に向けた先行実施授業

新学科のカリキュラムで展開予定の授業を、令和5年度より先行的に一部開講した。地域の企業や事業者等と連携し、自然環境類型の「環境Ⅰ」の授業や「総合的な探究の時間」を通して、森・川・里・湖がつながる県北部ならではの学び、また新カリキュラム設計に向けた検証材料にすべく授業を実施した。

3-5-1 地産地消で挑むエネルギー問題

(1) 活動目標

- 我が国で2050年までに地球温暖化の防止を目的とした「カーボンニュートラル」を目指すことが宣言され、再生可能エネルギーの利用など二酸化炭素の排出を抑制することは急務となっている。地域で木質バイオマス活用事業に取り組んでいる企業を訪問することで、私たちの生活とエネルギーの関わりを、カーボンニュートラルの観点から考える機会とする。

(2) 実施概要

【スケジュール】

- 7月6日：株式会社バイオマスアグリゲーションの訪問

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員 2 名
- 対象生徒：2 年生自然環境類型 25 名
- 企画：教諭 富山昌彦
- 協力：株式会社バイオマスアグリゲーション

(3) 活動実績

【活動内容】

- 本校からバスで 10 分程度の距離に所在するバイオマスアグリゲーションは、木質バイオマス事業に関するコンサルティングを行っている企業である。本授業では、バイオマス事業に関する講義を受けた後、2 グループに分かれて地元材を使ったエコハウスと工場見学、薪割り体験を行った。



【生徒の感想】

- 「自然の風や太陽の向きを考えたエコハウス内は、非常に気持ち良かった」
- 「毎日の生活を環境に配慮して見直すきっかけになった」

【成果と課題】

- 長浜市のゼロカーボンへの取組と、各家庭や地域で取り組み可能な省エネ対策について学び、環境に配慮した暮らしについて考えることができた。
- バイオマス事業の背景にある「カーボンニュートラル」についての理解が深まっておらず、生徒にとって講義の難易度が高く感じられた。

【次年度への反映】

- カーボンニュートラル等の背景となる知識を事前に学習する時間をさらに設ける等、事前学習を丁寧に行うことで生徒の理解が深まるようにする。
- 見学を受け入れていただく事業者様側に生徒の知識レベル等を事前に伝えておく。

3-5-2 内湖で体験するマリンスポーツ

(1) 活動目標

- 滋賀県の自然環境を考える上で欠かすことができない琵琶湖でのアクティビティを行うことで、滋賀県の豊かな自然環境と私たちの生活が密接に繋がっていることを学び、自然環境に興味関心を持つことや持続可能な社会の構築に向けて自然と共生を図りながら生活することを考える。

(2) 実施概要

【スケジュール】

- 7月6日：近江八幡市安土B&G海洋センターにて実施

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員 2 名、滋賀県カヌー協会指導者
- 対象生徒：2 年生スポーツ健康類型 24 名
- 企画：教諭 脇阪博也
- 協力：近江八幡市安土 B & G 海洋センター

(3) 活動実績

【活動内容】

- 近江八幡市にある西の湖にて体験を実施。講師よりカヌー競技の基礎知識や自然環境の楽しみ方を聞いた後、安全講習を行った。安全講習後は、実際にカヌー体験を行いその魅力を体感した。



【生徒の感想】

- 「まっすぐ進むことが難しかったが、夏のレジャースポーツが体験できて楽しかった」
- 「琵琶湖ならではのレジャーを体験することができて良かった」

【成果と課題】

- 滋賀県における貴重な水資源を生かしたスポーツ体験を行うことで、マリンスポーツと地域の魅力について知ることができた。
- 当初は身近な地域である旧伊香郡西浅井等の地元民間施設での実施を検討したが、コストが合わず見送ることとなった。
- 水資源を生かしたスポーツ体験を行うことで滋賀県の魅力については感じられたが、自身の生活との関連や持続可能な社会の構築といった視点を持つところまでは至らなかった。

【次年度への反映】

- 体験活動を行うだけでなく、琵琶湖の水資源や水文化について知り、自身の生活との関連や持続可能な社会について考え、学習内容の充実を図る。

3-5-3 地域の伝統産業と文化の継承（炭焼き体験）

(1) 活動目標

- 地球温暖化に関する学習を進める中で、二酸化炭素の排出を抑制するため森林資源の活用を図ることは非常に重要であることを学習した。そこで今回の校外実習では、森林資源の活用方法として長い歴史をもつ「炭焼き」に着目し、本校周辺で製炭業が盛んであった地域で実際に炭焼き体験を実施する。活動を通して、木炭がエネルギーとして利用されてきた歴史とその伝統を継承することの意義と課題を考える。

(2) 実施概要

【スケジュール】

- 7月12日：事前学習
- 7月31日：炭焼き体験

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員2名
- 対象生徒：2年生自然環境類型25名
- 企画：教諭 富山昌彦
- 協力：余呉在住の方々

(3) 活動実績

【活動内容】

- 炭焼きを行う炭窯に炭木を搬入し立て込む作業と、近辺にある焼畑跡地の見学を2部制にして行った。



【生徒の感想】

- 「炭木が想像以上に重く、搬入が大変だった」
- 「炭焼きは工程が多く、エネルギーをつくる大変さを知った」
- 「焼畑という農法を知らず、また長浜でこのような取組をされていることを知ることができて良かった」

【成果と課題】

- 昔の地域の暮らしについて知ることができ、昔と現代のエネルギーの使用量に大きな差があることが体験的に理解できた。
- 現代の生活が当たり前であるため、炭焼きの重労働が自分達の暮らしとかけ離れた過去のものと捉えてしまう生徒が多かった。

【次年度への反映】

- 昔と現代の暮らしや社会の違いについて、「エネルギー」「カーボンニュートラル」の観点から捉え直す事前学習を行う。
- 炭焼きという活動を通して、森林資源とエネルギーの関連について考えるきっかけとなるような授業の流れをつくる。
- 炭焼きの伝統を継承しようと現在活動されている方々の考えを聴き取り、その意義と課題を考えていく。

3-5-4 クリーンエネルギーの現状と課題

(1) 活動目標

- 今回の校外実習では、湖北地域で再生可能エネルギー事業（バイオマス発電・水力発電）に取り組まれている企業を訪問し、その取組と発電所を見学することで、私たちの生活に必要なエネルギーの膨大さとそれが生み出される仕組みについて考える。

(2) 実施概要

【スケジュール】

- 10月13日：事前授業、バイオマス発電所見学、姉川ダム見学

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員2名
- 対象生徒：2年生自然環境類型25名
- 企画：教諭 富山昌彦
- 協力：山室木材工業株式会社、姉川ダム管理事務所

(3) 活動実績

【活動内容】

- バイオマス発電を行う施設の見学を行った後、姉川ダムへ移動。ダムの役割について説明を受けた後、姉川ダムで行っている水力発電を見学した。



【生徒の感想】

- 「バイオマス発電所は、環境に配慮された無駄を出さない設備となっていることに驚いた」
- 「バイオマス発電所の施設は非常に大きく、現代で利用するエネルギーの膨大さを知ることができた」
- 「姉川ダムは非常に大きかったが、発電を行う施設自体は小さかったことに驚いた」

【成果と課題】

- 滋賀北部で行われている再生可能エネルギーの発電所を見学することができ、再生可能エネルギーについて身近に感じることができた。
- 地球環境に配慮するため、再生可能エネルギーの利用が有効であることは理解できているが、それを生み出す発電所等を建設する難しさの理解ができておらず、再生可能エネルギー利用のメリット・デメリットまで理解できている生徒が少ない。

【次年度への反映】

- エネルギー問題を自分ごととして捉え、自分の生活を振り返る時間を作る。
- 再生可能エネルギーの多様な種類とそのメリット・デメリットが理解できるような学習を行う。
- 長浜市内のエネルギー・エージェンシーへの取組を取材し、エネルギーの地産地消について考えていく。

3-5-5 林業の現状と課題

(1) 活動目標

- これまで地球温暖化の防止のため、木質バイオマス資源の活用について学習を進めてきた。今回の実習では、本校近辺の森林資源に目を向け、森林探索を行う中で、実際に森林が手入れされている現場を見学し、森林資源の活用や循環について知る。

(2) 実施概要

【スケジュール】

- 10月16日：森林探索

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員2名
- 対象生徒：2年生自然環境類型25名
- 企画：教諭 富山昌彦
- 協力：伊香森林組合

(3) 活動実績

【活動内容】

- 本校裏にある森林を伊香森林組合の方に案内していただき、植林や伐採の様子、獣害対策等を見学して林業の現状や課題を知った。



【生徒の感想】

- 「森林がどのように整備されているか知ることができた」
- 「林業は時間のかかる作業であることを知った」

【成果と課題】

- 学校近くにある森林の整備現場を見ることができ、あまり接する機会のない林業について知るきっかけになった。
- 林業自体が身近な業界ではないため、興味・関心を持たせるには一回の見学では足りない。

【次年度への反映】

- 実際に見学することから発展させ、林業の課題や先端的な林業技術について触れる時間を作りたい。
- 学校裏山の整備をされている森林組合の方とともに実習を行い、体験を通して森林について興味関心を高め、森林の多面的機能についての理解を進める。

3-5-6 断熱改修ワークショップ

(1) 活動目標

- 地球温暖化防止のため、再生可能エネルギーの利用や現状について学習し、エネルギーを代替することについて理解を深めてきたが、代替と同時に利用するエネルギー消費を削減する省エネについても理解する必要がある。そこで省エネについて体感的に学ぶため、多くの時間を過ごす教室の断熱化を図ることで断熱の重要性について学ぶ機会を設ける。今回の活動は、高校性自身が教室の断熱工事を行う DIY ワークショップの形で実施した。

(2) 実施概要

【スケジュール】

- 12月7日：事前授業
- 12月14日：断熱ワークショップ1日目
- 12月15日：断熱ワークショップ2日目

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員2名
- 対象生徒：2年生自然環境類型25名
- 企画：教諭 富山昌彦
- 協力：エネルギーまちづくり社、清水建設、エネシフ湖北、地元工務店の方々、伊香高校同窓会

(3) 活動実績

【活動内容】

- 本実習は、玄関が近くすきま風の入りやすい1階の教室で作業を行った。具体的には、中庭側と廊下側の壁と窓に対して作業を行い、中庭側は二重窓の設置(図1)と壁への断熱材(スタイロフォーム)のはめ込み、上からベニヤ板の貼り付け(図2)、廊下側は中庭側と同様に壁への断熱材(スタイロフォーム)のはめ込み、上からベニヤ板の貼り付け(図3)と窓への断熱材(ポリカーボネート)の貼り付け・設置(図4)を行った。この工程は4班をローテーションする形で全行程を体験できるように行い(図5)、2日間かけて実施した。2日間ともに各班1名の工務店の方に指導していただく形で、安全面に配慮して作業を行った。1日目の最終時間は、講師の内山氏からこの断熱ワークショップの意義と日本の住宅の課題についての講義を受け、2日目の最後は、振り返りを座談会形式で行った。

【当日のスケジュール】

■12月14日(木)：1日目

時間	内容
8:55	開会あいさつ、関係者紹介
9:00	ラジオ体操、安全講習

9:30	作業開始：4班に分かれて作業 (主な作業) ○二重窓の設置(1班) ○断熱材のカット、ベニヤ板の打ち付け(2班) ○断熱材のカット、窓への貼り付けと設置(1班)
11:55	講師からの講演
12:45	終了

■12月15日(金)：2日目

時間	内容
8:55	ラジオ体操
9:15	作業開始：4班に分かれて作業 (主な作業) ○二重窓の設置(1班) ○断熱材のカット、ベニヤ板の打ち付け(2班) ○断熱材のカット、窓への貼り付けと設置(1班)
12:45	振り返り
12:55	終了

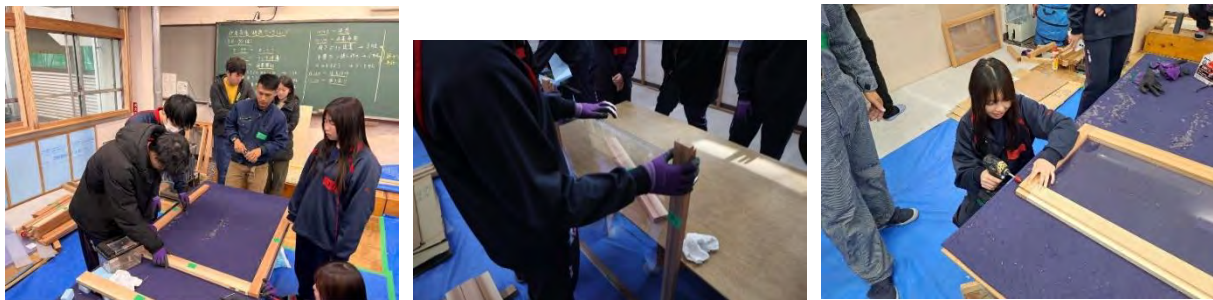


図1：二重窓の組み立て(木枠の組み立て・透明板のはめ込み・ビス打ち)



図2：断熱材のカット(スタイロフォーム)と中庭側の壁へのベニヤ板の打ち付け



図3：断熱材のカット（スタイロフォーム）と廊下側の壁へのベニヤ板の打ち付け



図5：作業全体図



図6：振り返り

【生徒の感想】

- 「1日目は大人の方が多くて緊張したが、2日目は緊張も薄れて楽しくできた。特にビス打ちの作業が楽しかった」
- 「断熱材は、壁枠の長さの寸法を正確に測ってカットしなければならず、カットして壁枠にはめでの繰り返しの作業が大変だった」
- 「講師の方からの講義を聴いて、日本の住宅の断熱化が遅れていることを知り、住宅や今回行ったような学校の断熱化が進めば良いと感じた。」

【成果と課題】

- 身近に感じる事が難しい省エネ対策や断熱対策を、自分達が普段使用する教室で行うことができ、その方法について具体的に知ることができた。
- 地域の工務店の方など多数の方に協力していただいたことで、様々な方との交流を通してキャリア教育の機会とすることができた。
- 今回の断熱工事は、教室が冷え込む冬場だけでなく、暑くなる夏場にも効果が期待できるため、本クラスだけでなく学校内で環境教育の題材とすることができる。
- 本実習は、材料費や人件費などの多額の費用が必要であり、実習の継続性確保に課題がある。

【次年度への反映】

- 今回の取組を、体験したことだけで終わらせるのではなく、生徒たち自身がその体験と成果

を発信する。

○今回の断熱改修の取組を、学校内や地域に広げ、環境教育の実践と普及を行う。

○断熱改修において省エネについて体感的に学ぶだけでなく、その効果をデータ等で示せるような学習を取り入れ、発展させる。

3-5-7 森林サービス体験

(1) 活動目標

○「森とどうすれば親しくなれるだろうか？」をテーマに、湖北地域の森林資源をフィールドとして実習を行うことで、地域や自然の魅力・課題を発見し、表現することを目指す。

(2) 実施概要

【スケジュール】

○9月28日：キックオフデー（県森林政策課の奥村氏をお招きし、人と森の繋がり、森林サービス産業について御講演 @高校武道場）

○9月28日：キックオフデー（各実習講師より実習内容の紹介 @高校武道場）

○10月4日：事前学習（考えたいことの深堀り・体験で何を学びたいかを考える @教室）

○10月12日：6体験場所に分かれ、チームごとに現地で実習

○10月19、25日、11月1、11、15、16、22日：振り返りと発表資料作成

○12月8日：発表会の実施

【実施体制】

○授業実施：伊香高校教員 12 名

○対象生徒：3年生 62 名

○協力：奥村氏（滋賀県森林政策課）、音川氏（ヨガ講師）、齋藤氏（地域おこし協力隊）、北川氏（もりのもり）、土屋氏（地域おこし協力隊）、隅田氏（星の馬 WORKS）、大山氏（大見いこいの広場）

(3) 活動実績

【活動内容】

○本校が位置する湖北地域では、山村地域に新たな雇用と所得機会を生み出す森林サービスに関連した活動に取り組む方々が多い。そのような地域の方々に実習講義をしていただき、チームで湖北地域の可能性や課題・魅力を発見し、パワーポイントにて表現する連続授業を行った。この活動を通して、自己実現力・コミュニケーション能力・課題解決力を身に付けることを目指した。



9/28：県森林政策課の奥村氏と各体験講師によるキックオフ講演



10/12：森林浴（西浅井町 山門水源の森）



10/12：土倉鉾山トレッキング（木之本町金居原 土倉鉾山）



10/12：森林ヨガ（余呉町中河内 秋葉神社）



10/12：森と馬-森林浴（西浅井町 黒山）



10/12：グリーンウッドワーク（余呉湖畔）



10/12：キャンプ（大見いこいの広場）

○ 活動の紹介記事：https://note.com/ika_hs/m/m8bf743018ee0

【生徒の感想】

- 「同じ木之本でも知らない姿を知ることができた」
- 「先祖のことを知ることができてよかった」
- 「森の中が気持ちよかった。もっと長い時間いたかった」

【成果と課題】

- 生徒の感想にあるように、実習を通して地域への理解や肯定感が高まった。
- 授業内容をまとめる際に、アプリへのログインやパワーポイントの操作等、タブレット使用におけるトラブルが多発した。
- 実習を一度しか実施することができず、複数回試しながら理解を深める学習スタイルを取れなかったため、自己実現力・課題解決力を身に付けるところまで取り組めなかった。
- 協力者が多く、クラスを解体してグループを組んだこともあって、コミュニケーション能力の高まりは見られた。

【次年度への反映】

- 今回の実習は、学年が6つの体験場所に分かれて実施していたため、他のチームに自チームの体験の良さや魅力をどう伝えるのかを工夫するべく発表準備に取り組んだ。次年度は、講師の方に教えてもらったことをもとに、最終的に自チームが他チームに森林サービスを実際に提供する等のアクションをする形を取るなかで、自己実現力・課題解決力を身に付けさせたい。

3-5-8 製材所・エコハウス見学

(1) 活動目標

- 2013年の東日本大震災よりエネルギー需要に対する考え方は大きく変化しており、住宅・建造物の省エネルギー性能は大きな向上が求められるようになった。とりわけ滋賀県では、木材がカーボンニュートラルな素材であることから、びわ湖材に代表される県産材を用いた建築に補助金を助成する等、公共建築の木材利用を推進している。そこで、今回の校外学習では、設計士の方から住宅をとりまく環境についての講義を聞いた後、工務店の製材所とモデルハウスを見学し、木材と住宅の関係性を踏まえた、環境に配慮した持続可能なまちづくりについて考える。

(2) 実施概要

【スケジュール】

- 2月8日：本校、内保製材株式会社製材所、エコハウス（ふくらの杜）、モデルハウス（響きの杜）

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員 3名
- 対象生徒：2年生自然環境類型 25名
- 企画：教諭 富山昌彦
- 協力：a-café、内保製材株式会社

(3) 活動実績

【活動内容】

○本校にて、設計事務所 a-café の清水氏から、設計士の仕事についての紹介後、関わった湖北地域の住宅設計の内容と間取りの工夫について講義いただいた。その後、バスで内保製材株式会社の製材所に移動し、製材の様子を見学した。あわせて、太陽光発電に加え太陽熱温水パネルや木質バイオマスを利用した熱需要をまかなったエコハウスと、昔ながらの間取りを現代に活かした暮らしギャラリーを見学した。



【生徒の感想】

- 「木材を切る機械の切れ味の鋭さに驚いた。」
- 「運びたての木材が非常に重く、相当な量の水分を含んでいることを知った。」
- 「伐採した未加工の木材の値段が1万円と聞き、林業の大変さを知った。」
- 「エコハウスやモデルハウスは木材によって建てられていることで床も暖かく、また目的に応じた間取りであったため、過ごしやすい空間づくりの設計による工夫を感じた。」

【成果と課題】

- 設計士の仕事のやりがいや魅力を、直接聞くことができた。
- 貴重な製材現場を見学できたことで、これまでの体験とあわせ、森林にある木がどのように

- 木材として加工されて住宅に利用されるか、一連の流れを知ることができた。
- エコハウスと暮らしギャラリーの2つの物件を見学し、現代のエネルギー需要を考慮した昔の住宅の良さや知恵の活かし方を知った。
 - これまで森林資源の活用やその魅力について知る取組を行ってきたが、講師としてお招きした林業関係者や工務店を自分のキャリアとして想像することは難しいようである。今後は、このような仕事を身近に感じることができるよう取組が必要である。

【次年度への反映】

- これまでの取組では、植林、伐採、製材、加工現場を一連の流れとして見学することができなかったため、見学する順番を組み換え、流れを分かり易くするような予定を立てる。
- 森林資源の活用について、これまで数多くの現場を見てきており、高校生としてどのような関わりができるか、環境に配慮した持続可能なまちづくりについて考える視点を軸にして、新しい取組を考慮する必要がある。

3-6 地域をフィールドにした探究的な学び

地域をフィールドに、「地域の人々や文化的資源」と「生徒の興味関心や進路希望」を掛け合わせた多様な地域探究を行う魅力的なカリキュラムの開発を目的として、コースの授業や総合的な探究の時間の中で様々な活動を実施した。

3-6-1 自己理解探究・ゲストトーク（地域で暮らす人の話を聞く）

(1) 活動目標

- 「幸せの4因子」をもとに自分が大切にしている価値観を理解する。
- 地域で暮らす人が大切にしている価値観を理解する。
- 地域で暮らす人との対話を通じて、自分が大切にしている価値観をより深く理解する。

(2) 実施概要

【スケジュール】

- 10月30日：これまでの経験を振り返り、自分が大切にしている価値観を考える
- 11月13日：自分が大切にしている価値観をまとめる
- 11月20日：ゲストトーク（地域で暮らす人の話を聞く）
- 11月27日：事後学習（発表と振り返り）

【実施体制】

- 授業実施：伊香高教員6名
- 対象生徒：1年生86名
- 企画：コーディネーター 副島拓歩
- 協力：鍋庄商店 / 山本氏、フォトグラファー/竹内氏、さぎなみ整形外科 理学療法士 / 富士野氏、長浜市地域おこし協力隊 秋田氏・中村氏・土屋氏

(3) 活動実績

【活動内容】

- 自分がどういう時にワクワクするのか、モチベーションが高まるのか、何が自分にとって大切な価値観なのかを理解することで、これからの様々な高校生活を充実させることができる。慶應義塾大学前野隆司教授の「幸せの4因子」を切り口に、どういう時にモチベーションが高まるのか、①過去の自己の経験を言葉にすること、②他者がどう考えているかを理解

することを通して、より自己理解を深めることを目的とする。
 ○授業で使用したワークシート（一部抜粋）

1年 総合的な探究の時間 | 自己理解探求 1

期： 出席 番号：
 名前：

今日のテーマ

目的：自分が大切にしている価値観について考える
 ゴール：「自己分析シート」を作成することが出来ている状態

準備を向上するには、「自己理解と価値観（やってみよう因子）」「自分なりの価値観（ありかた因子）」、「期待と価値観（なんともなる因子）」、「独立とマイペース（ありのまま因子）」の4つの価値観を定めることが有効であることが研究によってわかっています。

自己理解授業では、みんなの中にいる上記4つの価値観を考えながら「自分」について理解を深めます。

1 | 自己分析シートを作成しよう（自分が大切にしている価値観を知ろう）

1. やってみよう！因子
 1-1. エピソードとその時の感情を書こう

1-1. 上記からわかるあなたが大切にしている価値観を書き出そう。

11/13：自分が大切にしている価値観をまとめる

1年 総合的な探究の時間 | ゲストトーク

期： 出席 番号：
 名前：

3 | 振り返り

1Aのゲストの話を聞いて、あなたはなにを感じたか？

1Aのゲストの話を聞いて、真知したいと思ったこと、もしくは疑問はありますか？

今日の感想

これからやってみたいと思ったことは？

ゲストの振り返りシート

11/20：ゲストトーク（地域で暮らす人の話を聞く）生徒記入シート

活動グラフ

4 | 活動グラフ

- (1) 今までのことについて振り返り、不安を覚えること、山や谷を描いてみる。
(2) 改めて変化しているところやきっかけを考えたときに、今までの自分の気持ちを振り返る。



11/20：ゲストトーク（地域で暮らす人の話を聞く）ゲスト事前記入シート



【生徒の感想】

- 「今まで、これからのことに不安を覚えていました。しかし、今日のお話を聞いて、全力で生きればなんとかなることが分かり安心しました。」
- 「二人の話を聞いて、山があったり谷があったり人生はやはり安定していないことがグラフや話を聞いて分かりました。少し不安になることもあるとは思いますが、かえってそれが経験となって生きることができると思うと嬉しい気持ちになりました。」
- 「やはり経験というものは、いつか役に立つということを2人の方から学びました。色々な大人の生き方を見るのも大切であると感じた！！」

【成果と課題】

- 地域の方と生徒が繋がる機会となった。最後には、ハイタッチや写真撮影をゲストの方々と自然とするほど仲良くなっていた。ただ講演を聴くのではなく、対話形式にして双方向の形のゲストトークとするべく、事前準備や授業設計をできた点が良かった。
- また、ゲストの方にも「自分の過去を振り返るきっかけとなった、自分の過去を自信を持って話す日が来るとは。」と言っていた。今後も、ゲストの方にも満足いただけるような機会を作っていきたい。

- 今回お越しいただいたゲストは、長浜市内で活動されている方と伊香高 OBOG の方をお願いした。同郷の方、OBOG というだけで、生徒にとっては親しみやすく、話を聞く姿勢が変わったと感じた。
- 今回のゲストの方の話を聞くかは、教員がその割り当てをグループ単位で決めていた。ビジネス系統のゲストの話を聞いた生徒は、「今回面白かったから、芸術系の方の話も聞いてみたかった」と感想に書いていた。
- 自己を客観的にみる力がまだ十分に備わっていない生徒は、対話を通じて自分が大切にしている価値観を理解するところまでは至らなかった。

【次年度への反映】

- 高校1年生ということもあり、振り返る材料がまだまだ不足しているため、自己の過去の経験を振り返る授業数がより必要である。
- どのゲストの話を聞くかを生徒自身に選択させると、積極性がより高まる。
- 今後の探究発表会にゲストの方々に参加いただく等、生徒の成長を見守っていただけるような継続的な繋がりにしていきたい。

3-6-2 キャリア企画 2023 クロストークセッション

(1) 活動目標

- 地域で働く大人の話聞き、仕事をする事への理解度を高める。
- 将来の仕事を考える時の不安を解消し、仕事のやりがいについて考える。

(2) 実施概要

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員 10 名
- 対象生徒：2 年生 99 名
- 企画：コーディネーター 中山郁英
- 協力：岩根氏（株式会社キクヤ）、速水氏（株式会社速水電機商会）、山岡氏（山岡精機株式会社）、竹内氏（フォトグラファー）、中井氏（合同会社 andstep）、前田氏（株式会社バイオマスアグリゲーション、菅山寺の森友の会）、森氏（元美容部員）、脇阪氏（堤整形外科）

(3) 活動実績

【活動内容】

- 2 年生では、キャリア教育の推進に向けて、分野・業種別説明会やオープンキャンパスへの参加推奨を行い、自身の関心のある分野や業種について理解を深めている。今回はキャリア企画 2023 と題して、地元長浜で起業されている方や活動されている方をお招きし、地域で仕事をする事や、今後求められる新たな価値観について考える機会を設けた。

○授業で使用したワークシート（一部抜粋）

2年 キャリア企画 | ガストトーク

名： _____
姓： _____

ガストトークの目的とゴール

目的：
地域で働く大人の話を聞き、仕事をすることへの理解度を高める。

ゴール：
・将来の仕事を考える時の不安が解消されている
・お金を稼ぐ以外の仕事へのやりがいを見つけている

【各ゲストトークの流れ】

10分 | 1分：ゲストからの挨拶
→10分は仕事に関する質問や悩みを7分ほどと7分は感想や
10分 | 5分：近くの1～4人で感想共有と質問を交える
→1～4人が質問に回答し、1分ほどお礼
10分 | 1分：ゲストへの質問は答
10分 | 2分：ゲストからの感想、最後の一言、お礼

時間	内容
8:45～9:50	09時 開会挨拶、ゲストのご挨拶と本日の目的 09時10分～15分 開会、基本の挨拶、ゲストへ挨拶
9:50～10:10	10分 1分：ゲストからの挨拶 10分 5分：近くの1～4人で感想共有と質問を交える →1～4人が質問に回答し、1分ほどお礼
10:10～10:30	10分 1分：ゲストへの質問は答 10分 2分：ゲストからの感想、最後の一言、お礼
10:30～10:40	10分 1分：ゲストからの挨拶 10分 5分：近くの1～4人で感想共有と質問を交える →1～4人が質問に回答し、1分ほどお礼
10:40～10:50	10分 1分：ゲストへの質問は答 10分 2分：ゲストからの感想、最後の一言、お礼

1 | ガストトークにむけて準備をしよう

10分 | 1分：ゲストからの挨拶
10分 | 5分：近くの1～4人で感想共有と質問を交える
→1～4人が質問に回答し、1分ほどお礼
10分 | 1分：ゲストへの質問は答
10分 | 2分：ゲストからの感想、最後の一言、お礼

3 | 振り返り

1. ガストの話を聞き、新しく発見した仕事のやりがいとは？（最初の自分の意見との違いを比べてみよう）

2. ガストの話を聞き、仕事をすることを悩んでいたことは？

3. これから行動してみたいこと、挑戦してみたいと思ったこと



クロストークセッションの様子

【生徒の感想】

- ゲストの話聞き、新しく発見した仕事のやりがいは？
 - ・高校生の時は、自分のしたいこと、買いたいものを買うためにバイトをしていたし、お金のために働くけれども、「今は、したいことが仕事なので、楽しくやりがいを持って働いている」とおっしゃっていて素敵だなと思った。楽しくやりがいを持って働くということが一番に考えていいんだと思えた。
- 今回、ゲストの話聞き、仕事に対する不安について和らいだことは？
 - ・結果が形として残らなくても、それに挑戦したという経験が財産になると聞いてすごいと思った。いろんなことをたくさん経験してきた人から聞く話だから本当なんだと思った。自分のしたいことをしていいとか、自分は自分のしたいことをしてきたと聞いて、安心できた。それもいつか何かの役に立つということを知ることができた。「一つ一つが小さいことでも、組み合わせれば大きいものになるんだよ」と聞いて納得した。
- これから行動してみたいこと、挑戦してみたいと思ったこと。
 - ・得意、不得意に囚われすぎると自分を見失うことがあるので、チャレンジすることだったり、とにかくやってみるということを大切にしていこうと思った。資格や就職に直接繋がらないことも、回り回って自分のためになると知ったので、一つ一つを大切に生きたい。話を聞いていても、「高校生の時は〇〇と思っていたけど～」ということが多かったので、今持っている気持ちや考え方も大切に、たくさん新しいことに挑戦していきたい。

【成果と課題】

- 今回のクロストークセッションは、生き方を学ぶというよりも、職業観を中心とした内容であった。また、今回は、ゲストの方には、仕事動機よりも仕事内容に重きを置いてクロストークをしていただいた。自分の興味のある職種の方のお話を聞いた生徒にとっては、振り返り内容を見ると強く印象に残った様子が伺えた。一方で、自分の希望する進路と直接的に関係する話でないと感じていた生徒に対しては、ゲストの話をもとに抽象化することで自分に活かせる要素を探す訓練が必要であると感じた。
- 仕事をすることや仕事のやりがいについての理解は、一定の深まりが見られた。

【次年度への反映】

○現状のカリキュラムでは、2年生はキャリアや生き方について連続的に考える時間が少ない。他の授業と、どのような関係性で本授業を行うかの検討が必要である。

3-6-3 長浜市立きのもと認定こども園訪問①

(1) 活動目標

○本校が位置する木之本地域は人口減少に直面しており、この現状が続くと地域の維持が困難な状況となっている。この状況の中で、地域を知り、郷土愛を育むような教育は非常に重要であると考えられる。そこで、今回の校外実習では、教育と保育を一体的に行う施設である認定こども園で就業体験を行うことで、こどもの発達過程を知り、地域に根ざした教育について考える。

(2) 実施概要

【スケジュール】

- 7月4、5日：事前授業
- 7月6日：長浜市立きのもと認定こども園訪問

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員2名
- 対象生徒：2年生地域文化類型22名
- 企画：教諭 富山昌彦
- 協力：長浜市立きのもと認定こども園

(3) 活動実績

【活動内容】

○年齢別に分かれているクラスごとに、生徒2、3名から構成される1グループを配置し、保育体験を行った後、園で勤務されている保育士の方から、保育士の仕事内容と魅力について話を聞いた。



【生徒の感想】

- 「子どもたちが可愛く、自分にもそのような時期があったのかと思うと感慨深かった」
- 「年齢によって発達の過程が異なっており、その違いを感じることができた」

【成果と課題】

- こども園の活動の理解だけではなく、高校生から園児に対して、どのように活動を促していくかが課題である。
- 保育士体験を行うことでキャリア教育としての成果はあったが、こどもの発達過程を知ったり、地域に根ざした教育について考えたりするところまでは至らなかった。

【次年度への反映】

- 引き続き、こども園との連携を行い、生徒による活動を主体とした実習を検討したい。
- こどもの発達過程を知ったり、過疎地域における地域に根ざした教育について考えたりできるような事前学習を組み入れる。

3-6-4 「木之本の新しいお土産を考える」

(1) 活動目標

- 「伊香高生の地元である木之本の新たなお土産」をテーマとするアイデア創出をし、それをもとにビジネスプラングランプリに出場する。
- ビジネスプラン作成を通じて、課題を解決するための論理的な思考力・他者と協働しながら課題を解決する力を身に付ける。

(2) 実施概要

【スケジュール】

○7月授業

- ・7月10日：講義のねらい、テーマ説明。木之本の地域資源や、近年の観光客の動向について知る。
- ・7月11日：アイデア創出に関する手法のインプット。他地域事例を用いたアイデア創出。
- ・7月12日：プランシート作成開始。収支計画の立て方について知る。
- ・7月13日：プランシート作成
- ・7月14日：プランシート発表・講評

○アイデア実現に向けた活動

- ・8月2日：打ち合わせの実施
- ・8月7日：第一回試作会の実施
- ・10月26日：第二回試作会の実施、焼印デザイン案出し
- ・10月27日：焼印デザインへの意見交換会の実施

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員2名、コーディネーター2名
- 対象生徒：2年生特進クラス28名
- 企画：コーディネーター 副島拓歩
- 協力：二宮邦彦氏（観光コーディネーター）日本政策金融公庫、菓子乃蔵角屋、黒田柿生産組合、atr48（ガレット&クレープ専門店）

(3) 活動実績

【活動内容】

○7月授業

- ・まず、木之本や長浜で観光事業をされている二宮氏より、木之本の地域資源について、また、木之本の起業家でもあるコーディネーター中山よりビジネスの基本について講義を実施した。それを受け、「どのようなお土産があると面白いかな」を各チームに分かれて話し合いアイデアを出した。続いて、日本政策金融公庫の方から、収支計画の考え方等について講義をいただき、ビジネスプランをブラッシュアップしていった。



講演と発表の様子

○アイデア実現に向けた活動

- ・有志生徒4名によって活動を継続。「如水柿ジャムを使用したどら焼き」というアイデアを選び、試作を数回にわたり実施。「如水柿」は黒田官兵衛に縁があるとされる木之本町黒田にて生産される糖度が高い柿であり、7月の授業で講師の二宮氏より御紹介いただいた。
- ・地元のお菓子屋である角屋の望月氏など多くの方に御協力いただき、試作を重ね作成。どら焼きの焼印デザインは、柿から連想したサルをモチーフとしたオリジナルデザインとした。
- ・まず、文化祭で販売することを目標に準備をし、当日は実演販売をして大盛況であった。「今までになかった組み合わせ。柿も感じられて美味しい」「噂には聞いていたけど、ここまで美味しいとは」「焼印も可愛い。また食べたい」など生徒・先生ともに好評だった。





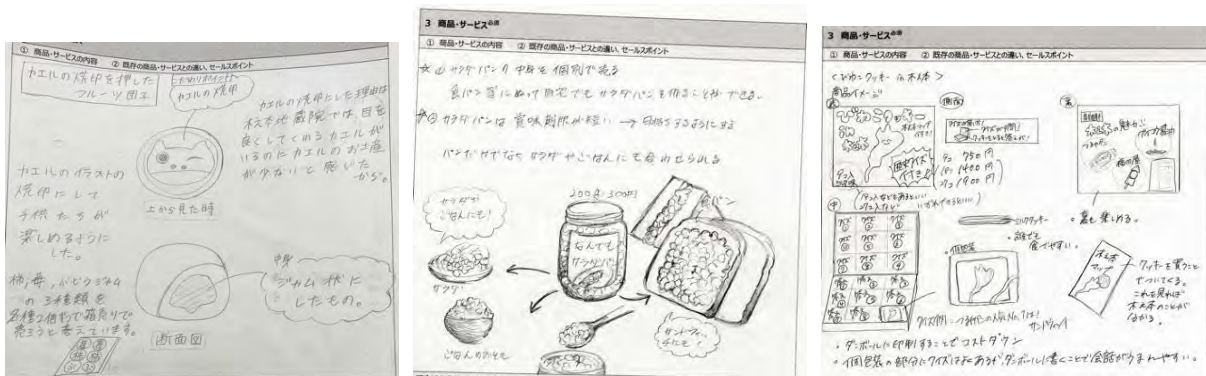
試作会の様子および、販売した商品

【生徒の感想】

○「今回、プラン作成を経験したことで、お土産などの商品についての見方に大きな変化がありました。プランを作成する前は、お土産に対してどれがおいしそうかな、喜んでもらえるかなという視点でしたが、今ではこの商品はどんな人に向けて販売されているだろうか、どんな特色を持っていて、それがどんなふうに紹介をされているかなどについて考えるようになりました。」

【成果と課題】

○出てきたアイデア抜粋



○地域の多様な方々と連携し、楽しみながらアイデア創出ができた。また、その中の1チームは、アイデアの実現・販売まで結びつけることができた。
 ○地域の希少な柿ということもあり、校外での販売まで結びつけることができなかった。
 ○製品化にはまとまった時間の確保が必要となるが、実現に向けて取り組んでいたチームの生徒は、文化祭期間中の多忙さもあり、日程を合わせる事が難しかった。
 ○他者と協働しながら課題を解決する力を身に付けることができた。

【次年度への反映】

○アイデアを創出するための知識やノウハウは整っていたため、全チームがプランシートを完成させることができた。しかし、改善するための時間を確保できなかったことから、さらに授業時間数が必要である。課題を解決するための論理的な思考力を育成するためにも、時間確保をしていきたい。
 ○他の活動で多忙な生徒が、実現に向けて授業外の時間を使って取り組むには、相応の動機やまとまった時間が必要である。長期休暇を活用しながら、スピーディーに実現まで進めていくための運営が求められる。

3-6-5 長浜市立きのもと認定こども園訪問②

(1) 活動目標

○本校は、地域とともにある学校づくりを目指し、これまで地域をフィールドにした探究的な活動を行ってきた。その中で7月に認定こども園を訪問し、地域に根ざした教育について考えようとしてきた。そこで、今回の実習では、こども園の教育活動を体験することとあわせて、子どもたちと運動を行うことで、運動から見るこどもの発達過程について理解することを目標とする。

(2) 実施概要

【スケジュール】

○10月13日：長浜市立きのもと認定こども園訪問

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員2名
- 対象生徒：2年生スポーツ健康類型24名
- 企画：教諭 脇阪博也
- 協力：長浜市立きのもと認定こども園

(3) 活動実績

【活動内容】

○園児たちと芋ほり体験をした後、こども園の運動能力テストに向けて、園児がボールを投げる動作や捕球する動作をサポートする。



【生徒の感想】

- 「こどもたちが、一生懸命芋を掘っている様子が可愛かった」
- 「普段、自然と行っているボールを投げる・捕るといった動作を発達段階の園児に教えることは難しかったが、園児たちが一生懸命動いている姿を見ることができて良かった」

【成果と課題】

- 園児たちに対して、生徒は丁寧に接することができ、短時間であったが園児たちと密なコミュニケーションをとることができた。
- どちらかというとな受け身であった7月6日のこども園の活動と比べ、今回は生徒達が園児に

対して「教える」という、より主体的な活動を行うことができた。
○ボール投げという運動を通して、こどもの発達過程について一定の理解をすることができた。

【次年度への反映】

- 引き続き、こども園との連携活動を行い、教えることを通して生徒も学ぶことができるような教育活動を行う。
- 過疎地域における地域に根ざした教育について、高校生なりに考えられるような事前学習を組み入れる。

3-6-6 味噌作りワークショップ

(1) 活動目標

○本校が位置する木之本は、昔より発酵食文化が根付いた歴史があり、その中心となっていた北国街道には、酒蔵や醤油蔵など多くの発酵食品を取り扱う商店が立ち並んでいる。また、その発酵食作りは季節ごとに家庭にも受け継がれていたが、少子化や生活の変化によってその食文化が減少しつつある。そこで、今回の実習では、味噌づくりを通して地元木之本の食文化について理解を深め、地元の郷土料理や歴史、自身の食生活について考える。

(2) 実施概要

【スケジュール】

- 12月7日：事前学習
- 12月14日：白味噌・味噌汁づくり
- 12月15日：熟成味噌づくり、座談会

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員2名、コーディネーター2名
- 対象生徒：2年生地域文化類型22名
- 企画：教諭 富山昌彦
- 協力：TSUNAGU（地元ボランティアグループ）

(3) 活動実績

【活動内容】

○1日目の最初は、1人1個白味噌を作成。その後、熟成味噌づくりの準備と味噌汁づくりを行った。2日目は、1年間熟成させる熟成味噌を仕込み、終了後は、講師の方と座談会を行い、郷土料理や各家庭の食について考えた。



1日目：白味噌づくり、味噌汁づくり、試食



2日目：熟成味噌づくり、座談会

【生徒の感想】

- 「味噌自体を作ったことがなかったので、味噌がどのように作られるか知れて良かった」
- 「郷土食をどうすれば皆に食べてもらえるか考えていきたい」

【成果と課題】

- 食をテーマに地域の文化に焦点をあてることができ、地域の歴史や文化を知るきっかけとすることができた。
- 実習後の座談会において、自身の食生活について振り返り考えることができた。

【次年度への反映】

- 今回作った熟成味噌を利用した料理を、来年度の文化祭の模擬店で販売する等、継続した活動を企画する。
- 家庭で受け継がれていた発酵食作りや季節ごとの食文化が衰退しつつあることに課題意識を持たせ、豊かな食文化について理解を深めていく。

3-6-7 読み聞かせ体験

(1) 活動目標

- 本校は地域とともにある学校づくりを目指し、これまで地域をフィールドにした探究的な活動を行ってきた。その中で7月と10月に認定こども園を訪問し、地域に根ざした教育について考えようとしてきた。そこで、今回の実習では、子どもたちに読み聞かせを行い、子どもたちの想像力や感性に触れることを目標に、積極的なコミュニケーションを図る。

(2) 実施概要

【スケジュール】

- 12月6, 8日：事前学習（絵本選び、読み聞かせの練習）
- 12月13日：本校図書館、セミナーハウス

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員2名
- 対象生徒：2年生特進クラス28名
- 企画：臨時講師 山内柊二、図書館司書 吉田紗耶香
- 協力：長浜市立きのもと認定こども園

(3) 活動実績

【活動内容】

- 今回の読み聞かせの対象は、5歳児クラスの子どもたちであることを踏まえて、12月6、8日の事前学習では絵本選びと発声を伴った読み聞かせの練習を行った。
- 読み聞かせ当日の12月13日は、本校で名札を作った後、こども園まで子どもたちを迎えに行った。子どもたちを本校の図書館に迎え、まずは子どもたちと図書館の見学を行い、1グループ2、3名の生徒で、2回対象の子どもを入れ替える形で読み聞かせを行った。



【生徒の感想】

- 「普段、子どもと接する機会がなかったので、新鮮な体験であった。」
- 「実際の読み聞かせでは、こちらが想像していた場面以外で、子どもたちがリアクションすることが多く、子どもたちの感受性の豊かさを知った。」

【成果と課題】

- 実際に人に伝える体験をすることで、物語を深く読むことができるようになった。
- コミュニケーションをとることに苦手意識がある生徒は、実際の読み聞かせで子どものリアクションを引き出すことに苦労していた。

【次年度への反映】

- 読み聞かせする絵本を地域や高校に関する内容とし、生徒たち自身で制作できると良い。
- 今回は5歳児対象であったが、他の年齢層を相手に読み聞かせを行い、絵本の内容や反応の差を比較することも興味深い。
- 今回はグループでの読み聞かせであったが、生徒1名でクラス全体に大きく読み聞かせを行う展開も考えられる。
- 引き続き、こども園との連携活動を行い、こどもたちの感性に触れることを通して生徒が学べるような取組を工夫して行う。
- 過疎地域における地域に根ざした教育について、高校生が果たせる役割等を考えるような事前学習を組み入れる。

3-6-8 江北図書館見学

(1) 活動目標

- 木ノ本駅前にある私設図書館である江北図書館は、明治40年に開館し、現在116年目になる。日本図書館協会によると、私立図書館は1907年には150館以上存在したが、資金難や後継者不足により、現在はわずか19館に過ぎず、日本にある図書館の大多数を占める99.4%が公立図書館となっている。その功績が認められ、江北図書館は2023年に国の登録有形文化財に登録された。数々の困難を地域の人々の協力によって乗り越え存続してきた江北図書館であるが、図書館がなかった近隣市町にも近代的な図書館が誕生してきたことにより、その役割は大きく変わりつつある。そこで、今回の校外学習では、江北図書館の歴史を知り、

改めて文化財の保存の意義について考えるきっかけとする。

(2) 実施概要

【スケジュール】

○2月8日：江北図書館

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員3名
- 対象生徒：2年生自然環境類型25名
- 企画：教諭 富山昌彦
- 協力：江北図書館、a-café

(3) 活動実績

【活動内容】

○江北図書館到着後、2班に分かれて施設を見学した。1班は江北図書館理事長の岩根氏の案内のもと本館の蔵書庫を、もう1班は設計士清水氏のもと改修中の新館を見学した。本館は自由に見学を行い、一方の新館では設計に携わっておられる清水氏より、改修のポイントや改修予定について御説明いただいた。最後、本館に集合し、岩根氏より江北図書館の歴史や文化遺産の保存の意義について話を伺った。



【生徒の感想】

- 「歴史ある図書館を見学し、タイムスリップした感覚になった。」
- 「本館の2階は畳があり、今の図書館にはない魅力を感じた。」
- 「岩根さんから江北図書館の歴史について教えてもらい、私設図書館の運営の難しさと、これまでの地域の方々の苦勞を知ることができた。」

【成果と課題】

- 本校の最寄り駅近辺にありながら、生徒にあまり認知されていなかった江北図書館であるが、その存在を知る良い機会になった。
- ICT化により情報のデジタル化が進む中、江北図書館に存在するような古い文献や書物に触れる機会は近年減っている。その中で、昔ながらの建物や書物に触れ、書物や図書館の普遍性や価値について知ることができた。
- 改修中の新館は、断熱性能を考慮した技術と工夫が施されていた。今回見学に行った自然環境類型の生徒は教室の断熱改修実習を行っていたため、断熱改修の技術や工夫の理解をスムーズに行うことができた。

【次年度への反映】

- 現在も昔の姿を残した状態で運営している建物は非常に珍しく、その価値を発信するため、

- 国語科や社会科教員と連携しながら江北図書館の魅力を掘り下げる学習活動を行う。
- 図書館としての機能や役割以外の江北図書館が持つ魅力を、高校生ならではの視点で考える。

3-6-9 スケボー体験

(1) 活動目標

- 長浜市では、公園の魅力向上に向け、滋賀県営都市公園「奥びわスポーツの森」にスケートボード場を整備することを明らかにしており、今年度11月に上記公園にて試行的なスケートボード場設置が行われた。このような長浜市の動きを受け、本校のスポーツ健康類型において、長浜市で20年以上活躍され、数々の有名スケーターを輩出しているハックルベリーでスケートボード体験を行うこととした。この実習を経て、2024年に開催されるパリ五輪種目のスケートボードの競技性や魅力について深く理解するとともに、高校生や市からスポーツの魅力と可能性について発信することを試みる。

(2) 実施概要

【スケジュール】

- 2月5日：事前学習（ハックルベリー：吉田勝典氏）
- 2月8日：スケボー体験

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員2名
- 対象生徒：2年生スポーツ健康類型24名
- 企画：教諭 脇阪博也
- 協力：ハックルベリー

(3) 活動実績

【活動内容】

- 事前学習として、当日の講師である吉田氏からスケートボードの歴史や安全面の配慮に関する講義を受けた。
- 当日は、普段ハックルベリーで実践されているプログラムに則って体験を行った。
- 生徒2人に対して1名の講師が指導してくださり、生徒のプログラム遂行状況によって、柔軟なプログラム進行をしてくださった。



【生徒の感想】

- 「バランス感覚が必要で、難しかったが楽しかった。基本が重要であると感じた。」
- 「最初は難しかったが、姿勢と体感を意識すると乗れるようになった。」
- 「最初は怖かったが、プロテクターやこけ方等の安全講習を受けたことで、安心して取り組むことができた。」

【成果と課題】

- スケートボードが五輪種目となり、その競技性について体験できたことで、五輪への関心をより深めることができた。
- 今回の体験は、スケートボード未経験の生徒が多く、体験を通して、勝ち負けにこだわらないお互いを認め合う姿勢を身に付けることができた。
- 安全面への配慮をきちんと行うことで、子どもから大人まで楽しむことができるライフスポーツであることを学んだ。
- 基礎の定着に時間がかかるため、継続して取り組んだ方がより深い学びとなる。
- スケートボードの魅力について理解することはできたが、その魅力を高校生の視点で発信することまではできなかった。

【次年度への反映】

- ハックルベリーで実習を行うまでに、簡単な技術習得を授業の中で行う。
- 滋賀県営都市公園「奥びわスポーツの森」にスケートボード場ができることを踏まえ、長浜市と連携してスケートボードの魅力を発信する。

3-6-10 地域に根ざしたものづくり・NANGA 見学

(1) 活動目標

- 滋賀県伝統的工芸品に指定されている近江真綿の歴史は古く、1730年までに遡るとされている。昔ながらの真綿づくりを行っている事業者は、現在では県内には2軒を残すのみとなっており、その存在は希少なものとなっている。その中で、今回訪問する株式会社ナンガは、昔は近江真綿を用いた布団づくりを行う事業を行っていたが、時代が変遷していく中で現在のアウトドアブランド事業へと形を変え、海外進出を果たす等、多くの方に支持される商品を生み出している。そこで、今回の校外学習では、時代の変遷の中でのナンガの変革と取組を知ることで、「伝統とは何か」「これから求められる価値とは何か」「地域に根ざしたものづくりとは何か」について考える。

(2) 実施概要

【スケジュール】

- 2月8日：事前学習（本校）
- 2月13日：株式会社ナンガ
- 2月13日：事後学習（本校）

【実施体制】

- 授業実施：伊香高校教員4名
- 対象生徒：2年生地域文化類型22名
- 企画：教諭 富山昌彦
- 協力：株式会社ナンガ

(3) 活動実績

【活動内容】

- 本社到着後、担当者から会社概要や製品について説明を受けた後、製造ラインを見学した。
- 次に、従業員の指導のもと、ミシンを使った生地縫い合わせ、そして縫い合わせた生地への羽毛の吹き込みを行い、オリジナルクッションの作成を行った。
- 昼食後、バスでNNLC（検品工場）へ移動した。そこでは、検品課の方から業務内容の説明を

受け、生徒の代表者が機械を用いた寝袋巻き体験に取り組み、製品に針が混入していないかの検針機体験を行った。

- 最後は、出荷課の方からも業務内容について説明を受け、出荷の際に利用する RFID（IC タグを読み取る機械）の体験を行い、全工程を終了した。



【生徒の感想】

- 「ミシンの裁縫は、手と足で違う動きをするため、非常に難しかった。」
- 「羽毛の吹き込みは、1g単位で決められた量を入れることが難しく、技術の高さを感じた。」
- 「実際に工場見学を行って、ナンガさんの製品に対する考え方や工夫されている部分を見ることができて、非常に良い経験となった。」
- 「製造ライン全体を通して、1人1人の動きが大切であることを学び、皆で1つの製品ができて上がっていることを学んだ。」

【成果と課題】

- 生活に必要な「衣」について、多くの体験活動を通して、その工程を深く理解することができた。
- 質疑応答の時間において、生徒から活発に質問が行われ、生徒の興味関心を引き出すことに成功した。
- 多くの関係部署を紹介していただいたことで、企業としての一面を見ることができ、キャリア教育にも繋げることができた。
- 先方との日程調整が困難であったこともあり、事前学習や事後学習の内容や日程の見通しが立てにくかった。次年度は、計画の立案を速やかに行い、事前学習、実習、事後学習のさらなる充実を図りたい。

【次年度への反映】

- 今回の活動は、生徒の体験活動や会社の部署紹介が中心であったため、当初の活動目標である「伝統とは何か」「これから求められる価値とは何か」「地域に根ざしたものづくりとは何か」といったテーマをもとに学習活動を充実させたい。
- 今回のテーマである「衣」は、私たちの生活にとって身近であり、幅広く探究活動が期待できる内容である。今回見学したナンガ以外のフィールドとあわせて、昔から現代にいたるま

での地域と「衣」の関係性について調べ、地域に根ざしたものづくりといった視点で深めたい。

3-7 伊香高校魅力化シンポジウム

<日時等>

令和6年3月23日(土) 13:30~15:30 (木之本スティックホール)

参加者(来場者)数 55名

<内容>

2部構成でシンポジウムを開催。第1部は、「伊香高のイマとミライ」と題して、吹奏楽部のオープニング演奏後、今年度の伊香高校の取組紹介を行った。取組紹介の1つ目は、2年生特進クラスの生徒による文化祭で販売した柿ジャムのどら焼き製作過程をまとめた「木之本の新しいお土産を考える」。2つ目は、2年生自然環境類型の生徒による授業内容をまとめた「地域と未来のエネルギーを考える」。そして最後は、令和7年度より開設される新学科の概要を、魅力化推進室室長より紹介した。第2部は、「地域と伊香高のミライ」と題し、長浜市長から挨拶を賜った後、コンソーシアムの発足式を行った。コンソーシアムの発足式は、コーディネーター中山氏の司会のもと、コンソーシアム構成員の方々に壇上に上がっていただき、会長大林氏より発足の御挨拶をいただいた。発足式後は、滋賀県立大学平岡准教授より地域と高校が連携した地域づくりについて御講演いただき、最後は、地域の合唱団とともに伊香高校の校歌を会場全体で合唱、シンポジウムを終了した。また、ロビーも活用し、部活動等の課外活動の展示や伊香高校の地域連携活動のポスター展示を行った。

<参加者の感想>

- ・「伊香高生が色々な場面で運営に関わっておりとても良かった。また、伊香高校の取組みについてよく知ることができた。」
- ・「高校がプラットフォームの機能を果たし、自然を守ることをコンセプトに、人と人がつながり循環している様子がとても素敵に思えた。若い先生と生徒、地域の先輩の先人の方に未来が拓かれ、地域が共創されるのが見える化、聴こえる化しており、とても良い取組であった。」
- ・「東部、南部、小学校、中学校、不登校の子の家庭にも、伊香高校の良さ・シンポジウムの内容を伝えて欲しい。平岡先生の講演で、若者が住みたくなるような仕事と暮らしを地域に作る必要性を強く感じた。」
- ・「今後も地域との関わりを増やしていただき、学校からの情報発信の場を作り続けて欲しい。」
- ・「学業を通じて、生徒と地域がつながることが重要であると感じた。コンソーシアムを通じて、生徒の進路に「地域」という選択肢が根付くことを期待したい。」
- ・「地域・同窓生を含めて、まだ関心が薄いように思う。地域に入った取組をお願いしたい。また、中学生に伊香高校の魅力を知ってもらう必要があるため、中学生向けのシンポジウムも考えて欲しい。」
- ・「もっとたくさんの人に参加して欲しかった。もっとシンポジウムの宣伝をして欲しい。森林と水との関係について深めるとも良いのではないか。」

<成果と課題>

- ・1年間準備を行ってきたコンソーシアムを発足させることができ、その意義や役割を地域の方々と共有することができた。

- ・新学科の内容が林業科とは異なることを、参加者に伝えることができた。
- ・シンポジウム後のアンケート結果から、今回のシンポジウムに対する参加者の満足度は高く、内容や運営に関してきちんと準備できていたと感じた。
- ・昨年度より始めたシンポジウムを今年度はよりブラッシュアップさせ、生徒の発表の機会とともに、学校の広報、地域への協働の呼びかけを行うことができた。
- ・参加者をさらに増やすための宣伝が不足していた。
- ・発足させたコンソーシアムをどのように運営し、その成果をどのように見える化するか、地域の方々とのさらなる協働が求められる。
- ・新学科設置に際して県外募集への期待の声もあり、そのような声をどのように取りまとめ応えていくか、新学科設置をただの企画だけで終わらない、綿密な仕掛けが必要である。

<次年度への反映>

- ・新学科での取組内容を精査・実践し、魅力ある学科づくりを検討する。
- ・地域人材・フィールド等の発掘を行い、地域連携モデル校として地域の魅力を発信し続ける。
- ・コンソーシアムの分科会を充実させるとともに、その運営体制を整え、地域の方々との協働に努める。
- ・新学科設置やそれにまつわるシンポジウム等の広報・宣伝をより充実させ、新学科募集に注力する。



伊香高等学校 魅力化シンポジウム

伊香高 Go Beyond プロジェクトへ超えてゆけ☆～

日時 | 令和6年3月23日(土)
13:00 開場(受付)
13:30 開演
15:30 終演

場所 | 木之本ステイックホール (飯浜市木之本町木之本1757-2)

総合司会 | 後藤 将人/ 国友 柚菜 (伊香高校2年生)

第1部 伊香高のイマとミライ

・オープニング演奏(伊香高校吹奏楽部 部長#・0800)

【演奏曲目】

- 1 | 新宝島 山口 一郎 作曲 郷間 幹男 編曲
- 2 | 学園天国 井上 忠夫 作曲 山下 国俊 編曲
- 3 | 夏祭り 嵯峨 健次 作曲 郷間 幹男 編曲

・今年度の伊香高校の取り組み紹介
宮部 忠雄 (2年特選クラス) | 「水之本の新しいお土産を伝える」
 清水 勇毅/山田 健哉/藤原 愛斗 (3年自然環境科コース) | 「地域と未来のエネルギーを伝える」
 富山 昌彦 (教諭、魅力化推進課長) | 「17年度からの伊香高、新学科科系の探究科とは？」

第2部 地域と伊香高のミライ

・コンソーシアム発足式
 「地域と伊香高のミライ創造コンソーシアム」発足式
 進行：中山 郁宏 (伊香高校地域連携コーディネーター)

・特別講演 (地域と高校が連携した地域づくりについてのご講演)
 講師：平岡 健一 准教授 (滋賀県立大学環境科学部 環境政策・計画学科)

・校歌合唱
 滋賀県立伊香高等学校 校歌の大合唱

ロビー展示

・美術部、茶華道部の作品展示、ホームメイキング部活動紹介展示
 ・SOUND会、花いっぱいサークル活動紹介展示
 ・伊香高校 地域連携活動のポスター紹介

GO BEYOND

プロジェクト「森林浴」

2023.11.21

伊香高通信 第2号

伊香高生や高校に関する最新の活動をお届けします！



1 地域の方を講師に森で学ぶ:新学科立ち上げに向けた試行錯誤

伊香高校では、森・川・里・湖のつながりを感じられる湖北地域だからこそできる学び、またこれからさらに重要性を増す環境型社会を支える人材育成のため、森林や自然環境、ゼロカーボンなどについて地域と連携しながら学びを深める新たな学習科（仮称）「森の探究科」の設置を検討中です。令和7年度の開設を目標に、現在カリキュラムの検討を進めています。その検討の一環として、地域で活動する方々を講師にお招きし、3年生全員が森で学ぶ探究活動を実施しました。

「どうすればより森と親しくなれるだろうか？」を共通のテーマに、道賀県森林政策課による講義や「森林ヨガ」「グリーンウッドワーク」「土着風山探素」「山門水

源の森での森林浴」「馬との森林散策」「キャンプ体験」の6つのチームに分かれた体験活動を行いました。

参加した生徒からは、「同じ木之木でも知らない森を知れた」「森の中が気持ちよく、もっと長い時間いたかった」といった感想があり、普段馴染みのない森林と少し親しくなった様子でした。

今回の実践などを基に、新学科がより良いものになるよう検討を深めていきたいと思えます。ご協力いただいた地域の皆さま、ありがとうございました。

◎ご協力頂いた皆さまへ
 幸村さま(道賀県森林政策課)、春日さま(道の駅)、香澤さま(地域おこし協力隊)、末川さま(もりのもり)、土屋さま(地域おこし協力隊)、藤田さま(道の森WORKS)、大森さま(秋風荘の広場)

2 地域に飛び出す伊香高生！



地域の皆さまにお声がけいただき、様々な場所に伊香高生が飛び出しています！
 長浜青年会議所主催のLINK UP FESTAや西沢井あしかまの里での抽選会などの支援、木之本己高専ではお茶会でのボランティアを行いました。

スポーツ健康コースでは、地域文化コースに続き、さのもと隣定こども園を訪問させていただきました。一緒に活動を行いました。

3 伊香高校ってどんな高校？中学生体験入学会を実施

8月22日と10月22日に中学生体験入学会を実施しました。保護者の方を含め、300名を超える方々にご参加頂きました。

体験入学では、各コースの内容や地域と連携した魅力化の取り組みなどの説明を実施。10月には即活動体験も行われ、参加者の皆さまに伊香高校での学校生活をイメージしてもらえように取り組ましました。

4 伊香高校で設置検討中の「新しい普通科」とは？

新学科の学びの内容は、地域と連携しながら自然環境や農生可居エネルギーなどを中心に学ぶ内容を検討しています。また、特色ある授業を設置しながら、5教科をしっかりと学ぶ普通科としてのよさも活かし、進学から就職まで生徒の希望に沿って幅広く対応していく予定です。新学科だけでなく既存の普通科についても、新たなコース編成を検討中です。

このような学校運営を地域と連携して行うべく、地域の方や行政などが参画する話し合いの場(コンソーシアム)の立ち上げも準備しています。新学科については次回の伊香高通信でさらに詳しくご紹介できればと考えています。

また、去年9月23日(土)には昨年引き続き木之本スチィックホールにて魅力化コンソーシアムの開催を予定しています。伊香高校がより魅力的になっていくためには、地域の皆さまのご支援が必要不可欠です。引き続き、ご注目いただければ幸いです。

令和4年度から「伊香高 Go Beyondプロジェクト」と題し、「伊香高校と地域がともに未来を創る」ことを目標とした活動を行っています。その取り組みの一つの柱が新学科の設置です。

高校の学科は大きく分けると、「普通科」「専門学科」「総合学科」の3つに分かれます。その中でも、普通科は生徒数全体の7割を超えます。普通科は生徒数全体の中に、地域の特色を活かした新たな学科を設置することが令和4年度より可能になりました。この取り組みを支援する文部科学省の事業に伊香高校も採択され、現在新学科の検討を行っています。(採択校は全国で29校)



普通科
(伊香高、新学科)



専門学科
(農業、工業)



総合学科

2024年度当初
新学科の設置が可能な

夏から秋にかけて、地域の皆さまに協力をお願いしながら、コンソーシアム立ち上げや新学科設置に向けた検討を深めています。秋は地域の催しも多いですが、伊香高校でも文化祭が行われました。次回は伊香高生を楽しそうに様子などもお伝えできればと思います！

2 生徒も先生も活躍！文化祭を開催

11月には、文化祭を開催しました。文化祭では各クラスで趣向を凝らした展示やステージパフォーマンスが行われました。

通信第1号で紹介したお土産づくりチームは、角屋様やotr48様にご指導いただき、黒田の如水餅ジャムを焼んだじら焼きを販売。また、PTA様やフードバンクなどがほほえみブース出店くださり、生徒たちも多くなり、盛り立ちました。

3 これからの生き方を考えるトークセッションを実施

これからの自分の生き方を考えるトークセッションを、地域の事業者様や本校OBOGの皆さんにご協力をお願いしました。1年生、2年生の全生徒が参加し、非産になって対応をしまほも「経験はいつか役に立つ」「不要でも全力で生かさればどういかなる」など様々なことを感じ取ったようです。

伊香高校魅力化シンポジウム

3月23日開催！

令和4年度より始まった伊香高校魅力化の取り組み、様々な方にご協力いただきながら、本年度も活動を行ってきました。その成果や新たな学校づくり、地域との連携についてお話しする機会としてシンポジウムを開催いたします。ぜひご参加ください。

第一部：伊香高のいまとミライ

- 吹奏部による演奏
- 生徒による令和5年度の魅力化プロジェクト紹介
- 令和7年度からの新たな学校づくり(新コース、新学科の紹介)

*ロビーにコースの学園活動や部活動などの展示をしています。こちらもぜひご覧ください。

第二部：地域と伊香高のミライ

- 地域と高校の協働によるコンソーシアムの発展について
- 地域と高校が連携した地域づくりに関する講演(滋賀県立大学：平岡優一氏)

日時 | 2024年3月23日(土) 13:30-15:30
(受付13:00-)

会場 | 木之本ステイックホール
(群馬県木之本町木之本1757-6)

最後に校歌を合唱します！みなさまのご来場、お待ちしております。

伊香高校では、地域の方々にご協力いただき、本年度も様々な活動を行ってきました。そのような取り組みを更に進めたいべく、コンソーシアムのさら上げを準備しています。生徒・学校・地域の三方良好の連携を目指して活動してまいります！

滋賀県立伊香高等学校
滋賀県伊香郡木之本町木之本1751
TEL. 0748-92-4341



2024.02.06
伊香高通信 第3号

GO BEYOND

プロジェクト推進レポート

伊香高生や高校に関する最新の活動をお届けします！




1 社会に開かれた高校づくり：コース別体験学習を行いました

新しくなった学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」が基本的な理念として掲げられています。本校は昨年度から地域連携モデル校として、取組みを充実させてきており、今年度も地域の方などにご協力いただき体験的な活動を行っています。

特進クラスでは、各コースの活動とお世話を立てているきのももご訪問も園様に本校図書室に来ていただき、生徒たちが子どもたちに絵本の読み聞かせを行いました。地域文化コースでは、湖北地域で餅つきをテーマに活動されているTUNAGU(つなぐ)様にご協力いただき、十五夜味噌と熟成味噌づくりを行いました。味噌づくりの合間に、食の大切さや郷土料理を次の世代に繋いでいくことなど、色々なお話を聞かせ

1 社会に開かれた高校づくり：コース別体験学習を行いました

いただいたことができました。

自然環境コースでは、ICT教室を題材に、地元工務店様などにご指導いただきながら生徒自ら新築改修を実施しました。本ワークショップ実施には、本校同窓会様より貴重なご支援をいただきました。また、企画運営は、地域で環境関連の活動を行われているエネシップ湖北様に大変お世話になりました。当日の様子は動画でもご覧いただくことができます。

スポーツ健康コースでは、部活動や普段の生活で役立つ上級教養講義を実施し、応身手当の方法などを学びました。

この様に伊香高校では、体験から学ぶ多様な活動を行っています。



GO BEYOND

滋賀県立伊香高等学校
滋賀県彦根市北之本3-2-203
TEL. 0749-82-4107




2024.03.23

伊香高通信 魅力化シンポジウム特別号

地域と伊香高のミライ創造コンソーシアム発足！



■設立の背景
伊香高校は、「三萬一心」という言葉に表されるように、伊香地域の熱い期待のもと誕生した学校です。コンソーシアムは、その伝統に基づき、令和4年度より始まった地域連携の取組みをさらにすすめるために設立されました。また、地域と高校がともに未来を創るという伊香高校魅力化の目標実現に向けて歩みを進めていきます。



本誌公開の様子

■コンソーシアム設立までの経緯
コンソーシアム設立に先立ち、準備会議を2023年10月と12月の2回開催。コンソーシアムの参加団体や規約案、名称などについて協議を行いました。また、コンソーシアムの発足説明と参画のお願いに開催しました。

■参画団体(敬称略)
・旧伊香郡地域の各地域づくり協議会(新井、松野、高時、木之本、伊香川、赤井、西橋)
・彦根市商工会
・彦根市
・滋賀県教育委員会
・伊香高校委員会
・伊香高校PTA
・伊香高校卒業生協議会
・伊香高校

■コンソーシアムとは
「地域と伊香高のミライ創造コンソーシアム」という言葉を日本語に訳すと「井筒の目的に向けて協力しあう共同体」というような意味になります。身近なところでは「協議会」という言葉が近いかもしれません。

今回設立する「地域と伊香高のミライ創造コンソーシアム」は、伊香高校と地域がともに未来を創ることを実現するための基盤となる組織として運営が予定されています。高校と地域の協働に関するビジョンや学外経営の次々な方針等について共有・協議をしていくのか、「高校たちがどのように活躍していくのか」という目標や活動方針を話し合ったりする場となります。

また、そのような議論の前提として、「高校の所在する伊香地域や彦根市がどうあってほしいか」という地域の未来について思いが共有される場でありたいと考えています。

このような取り組みが先行する高槻県では、「高校を核とした地方創生」というキャッチフレーズも使われています。

コンソーシアムは、大きな方向性を検討する「理事会」と個別の具体的な活動についで検討・実施する「分科会/ワーキンググループ」の2階層制で運営をはじめます。

伊香高 Go Beyondプロジェクト進行中です！



伊香高 Go Beyondプロジェクトとは
「Go Beyond～超えてゆけ～」を合言葉に、達成をより魅力的にしていける活動を令和4年度にスタートしました。

地域の相いってつくられた各校の歴史にちなみ「伊香高校と地域がともに未来を創る」ことを活動の目標に設定しています。

そのためには、学校に関わる「生徒」「先生」そして「地域」がいっしょに活動していくことが欠かせません。

＜今年度の主な活動＞

2年生特選クラス: 地域のお土産づくり

水之本の新しいお土産づくりをテーマに活動を行いました。地域の事業者様にご協力いただき試作を繰り返し、黒田の如水庵を使用した特選ジャムとちやまを文化祭で販売しました。

2年生: さのもも認定こども園との交流

本校からすぐ近くのもも認定こども園様とは、伊香高生と園児が相互に訪問して一緒に活動したり、保護の仕事についての講義を受けたりと、年間を通じて交流をさせていただきました。

教員向け魅力化研修

新たな資料の立ち上げに向け、教員向けの研修も実施しています。日々の業務に忙しい中ですが、地域の皆さまとの交流を少しずつ進めています。

1・2年生: 地域の先輩方との対話
地域で活動されている伊香高校卒業生や地域の事業者様をお招きし、生徒にご自身の経験をお話していただきました。身近な先輩方からの話に勇気づけられた生徒も多かったようです。

2年生: コース別体験学習
2年生の各コースの体験学習では、地域の皆様のご協力のもと、新築改修ワークショップや再生可能エネルギーに関する研修、手紙づくりやスケッチなどを行いました。

3年生: 森林をテーマとした環境学習
3年生は、令和7年度から始まる「森の探究」の授業も見据え、森林資源をテーマとした探究学習を行いました。旧伊香郡の森の中で自然の心地良さを感じる体験をしました。

来年度は、より地域と連携した活動の創出や令和7年度に新設される新学科「森の探究科」の準備で大忙しの1年となりそうです。引き続きの応援を、よろしくお願いたします！



○新学科PRチラシ



伊香高校は令和7年度から 普通科に「森の探究科」を新設します。

※184部から「普通科専攻科」に、普通科以外の専攻科を専攻する学科を設置できるようにしました。

◆ 森の探究科とは

滋賀県北部地域の豊かな自然環境、森林資源などを活用し「森で学ぶ」をコンセプトに、生徒の「生きる力」を地域とともに育みます。また、持続可能な社会と琵琶湖に限定した暮らしや、人と自然が共存する循環型社会の構築に資する人材育成を行います。

1. 「森・川・里・湖」が水系でつながる滋賀北部ならではの学び
 滋賀県北部は淀川水系の次流域であり、豊かな森林や田園風景、人々の暮らしが伝わる地域です。それらの地域資源を活用し生徒の実体験に基づいた幅広い学びを深めます。
2. 地域内外の専門家と協働した循環型社会に関する実践的な学び
 伊香地域や長浜地域には、森林資源・空間の活用や環境・エネルギーに関連する専門家が数多く活動されており、地域外との交流も活発です。そのような専門家のご協力のもと、実践的な教育プログラムを実施します。
3. 地元地域や長浜市など地域と連携した学び
 伊香地域や長浜地域は移住される方も増えたり、活発な活動が行われています。地域との情報共有やコーディネート体制をつくり、地域をフィールドにして学びを深めます。

◆ 森の探究科の学びのポイント

現場主義

実際に現場へ出て体験・実践することを大切にします。

地域連携

地域の実践者を講師として迎える。地域の団体と協働して授業を行うなど、地域連携を大切にします。

理論と実践

現場での体験、実践の前後に産学の時間を設けるなど、理論と実践のつながりを意識した活動を大切にします。

◆ 森の探究科の学校設定科目

1年	森のキホン (年間2単位)
2年	森の恵み (年間2単位)
2年	持続可能な社会 (年間2単位)
3年	森の未来創造 (年間2単位)

「森のキホン」では、森林に関する知識や技能について実習を通して体感し、理解することを目指します。地域の豊富な森林資源と、私たちがこれからのように関わっていくにはよいのでしょうか。歴史としての森林、将来としての森林、歴史文化における森林、など様々な視点をもつ森林について学びながら、未来の環境について考えまわっていきます。

「森の恵み」では、森林資源や空間の活用について、伝統的なものから最新の動向まで幅広く学びます。私たちは、これまで急や材料、エネルギー資源といった形で森林から恩恵を受けてきました。森との暮らし方について理解を深めることを通じて、未来の暮らしと森林の新しい関係について考えます。

「持続可能な社会」では、再生可能エネルギーや働き、環境に関する社会課題などについて、滋賀ならではのMLGsの視点も取り入れながら学びます。人間と自然がうまく共生し、社会をいかに未来の世代に手渡していくことができるか、環境の観点から考えるきっかけとします。

「森の未来創造」では、2年間の学びをベースに個人やグループで課題を設定し実践・探究していきます。これまでの学習や経験から、自分たち自身に興味関心を持ったテーマについて、仮説や目標を立て検証していきます。最後に、プレゼンテーションやレポートという形により、3年間の集大成として発表します。

森の探究科 教育課程表

学年	1年	2年	3年	科目	単元	時間	備考
1年	1	1	1	1	1	1	1
2年	2	2	2	2	2	2	2
3年	3	3	3	3	3	3	3

◆ 多様な進路

進路希望者には、総合選抜の機会などを積極的に活用し、文理を問わず希望の進路に進学できるように支援していきます。

就職希望者には、地元企業を中心に希望に合わせて就職を支援していきます。将来的には公務員試験への対応も検討していきます。

理系	文系	就職
想定される進学先例 ・ 総合選抜科 ・ 社会学部や経済学部 など ・ 生物資源学科 など	想定される進学先例 ・ 文学部 ・ 教育学部 ・ サイエンス専攻科、公学員など	想定される就職先例 ・ 環境公務員 ・ 森林管理官 ・ 林業関係者、農林、ササニエ専攻科、公務員など

◆ Q&A

- Q 新学科では「林業」を学ぶの？
 A 北部地域には、豊かな森林や田園環境があり、人々の暮らしが関係しています。新学科では「森で学ぶ」をキーワードに、林業だけでなく、自然環境や再生可能エネルギー、地域文化など幅広い内容を学びます。
- Q これまでの普通科（特選クラスや特色クラス）はどうなるの？
 A 新学科「森の探究科」は1クラス、これまでの「普通科」は2クラスが編成となる予定です。普通科2クラスには、**地域デザインコース**と**スポーツ・健康コース**の2コースが設定されます。森の探究科、普通科とともに基本の5教科（国・算・英・理・社）をしっかりと学び、学校独自の特色ある授業や体験学習を実施していきます。
- Q 特選クラスが無くなったということ？
 A 伊香高校で大学進学を目指すのは素晴らしいことですが、伊香高校で大学進学を目指すももちろん、各専門学科への進学も可能です。小規模校だからこそできる、生徒一人ひとりの希望に合わせた、総合選抜や大学入学共通テストなどの進学支援をしていきます。
- Q 理系・文系の大学進学はもろもろ、各専門学科への進学も可能です。小規模校だからこそできる、生徒一人ひとりの希望に合わせた、総合選抜や大学入学共通テストなどの進学支援をしていきます。

滋賀県立伊香高等学校

〒529-0425 滋賀県長浜市木之本町木之本 251
TEL 0749-82-4141

伊香高校 Instagram

伊香高校 Facebook